

多賀城市市民活動サポートセンター
平成 29 年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

平成 30 年 3 月 31 日

平成29年度運営業務成果報告書 目次

平成29年度の主なトピック／出来事	1
 I 平成29年度運営業務報告	
1 方針	
(1)3カ年(平成29～31年度)の施設運営方針	5
(2)平成29～31年度ロードマップ	7
2 平成29年度成果・課題	
(1)平成29年度成果・課題	8
(2)平成29年度実施事業一覧	15
3 運営状況	
(1)利用状況集計	
①総利用数・貸室利用率	16
②利用団体の活動分野	17
③利用団体の属性	18
(2)相談対応実績	21
(3)情報提供	
①団体情報ファイル	31
②ウェブサイト・ブログ・ツイッター	35
③ウェブサイトリニューアルについて	36
④たがさぼ文庫	37
(4)場の提供	
①共同事務室入居団体インキュベート相談/ワークスペース運用	38
②フリースペース利用状況	40
(5)他団体・他機関との連携	44
4 事業実施状況	
(1)開館10周年記念事業 プレイメント	50
(2)課題解決のための連携モデルづくり	
①地元企業のCSR調査	55
②自治会・町内会の課題・取り組み事例調査	62
③多様な主体による参加型課題解決の仕組みづくり	69
(3)人材育成	
①雑貨市	70
②NPOきっかけ塾	75
③TAGAJO Future Labo	81
(4)情報発信強化	
①月刊フリーペーパー「tag」発行	88
②市民の発信力強化	94
 II 平成30年度事業計画	
1 平成29～31年度ロードマップ修正版	97
2 平成30年度実施事業一覧	98
 III 添付資料	

平成 29 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）は、平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点として、N P O や自治会・町内会、生涯学習団体等市民活動の力づけを行うとともに、市民・企業・行政等による協働の地域づくりをサポートし、9 年が経過した。

平成 29～31 年度 3 ヶ年の業務委託の 1 年目となる平成 29 年度を、主なトピック 3 つと主な出来事でふりかえる。

1. 2 つの調査を行い、連携の下地づくり

地元企業の地域貢献活動調査を行い、震災後の地域貢献活動の現状、活動を進めるにあたり課題となっていることを把握するとともに、取り組み事例を収集することができた。

全町内会対象にアンケート調査と、調査結果をもとにしたヒアリング調査を 3 地区に対して実施し、町内会の視点からとらえた地域の課題と運営課題が明らかになった。

2 つの調査をもとに、地域づくりについて考える場を設けることで、連携して地域課題解決に取り組む下地づくりを進めた。

2. さまざまなきっかけを提供し、アクションにつなぐ

人材育成事業を通して、N P O きっかけ塾では 10 名、TAGAJ0 Future Labo では 6 名がアクションを起こした。また、今年度初めて取り入れた雑貨市ボランティアでは、28 名の方が出展団体の活動に触れながら運営に携わった。

「何かしたい」という想いを後押しするプログラムにより、実際の行動につなげることができた。

3. 情報発信を強化し、市民活動に触れる機会を増やす

1 階エントランスにおいて市民活動を知ることができる展示の実施や、外部イベントへ N P O の絵本展などでの出展を通して、多くの市民に N P O や T S C のことを知ってもらった。また、ウェブサイトリニューアルにも取り組み、必要としている情報を得られやすくする環境を整えた。

来館者だけでなく、地域の中で市民活動に触れる機会を増やした。

平成 29 年度の主な出来事

平成 29 年

4 月

- ～7 日 展示 月刊フリーペーパー「tag」50 号記念展示@多賀城市役所 1 階ロビー
- ～7 日 事業 平成 28 年度地域人材育成「転入者」作成マップ展示@多賀城市役所 1 階ロビー
- 7 日～ 事業 平成 28 年度地域人材育成「転入者」作成マップ展示@1 階エントランス
- 15 日 事業 平成 28 年度地域人材育成「ハッピーママサロン」アフターフォロー

5 月

- 4 日 視察 栗原市市民活動支援センター受入
- ～5 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集
- 20 日 出展 鶴ヶ谷児童館こどもまつり NPO 絵本展出展
- 24 日 出演 東北学院大学工学部就職キャリア支援セミナーにて T S C 紹介

6 月

- 1 日 展示 たがさぼスタッフがみつけたフリーペーパー展～まちづくり編～
@1 階エントランス（～7 月 18 日）
- 10 日 事業 平成 28 年度地域人材育成「ハッピーママサロン」アフターフォロー
- 12 日 出演 ベイウエーブ「まちなびけーしょん」
- 25 日 出展 多賀城跡あやめまつり NPO 絵本展出展

7 月

- 1 日 事業 「TAGAJ0 Future Labo」説明会
- 2 日 視察 NPO 法人甕葉プラザネット（山形県村山市）受入
- 7 日 視察 須賀川市市民活動サポートセンター受入
- 8 日 事業 平成 28 年度地域人材育成「ハッピーママサロン」アフターフォロー
- 10 日 視察 NPO 法人九州バイオマスフォーラム（熊本県阿蘇市）受入
- 15 日 事業 第 1 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 20 日 掲載 河北新報 NPO いちから塾
- 20 日 展示 若者とアート展@1 階エントランス
- 23 日 事業 NPO いちから塾
- 24 日 視察 富谷市市民協働課受入
- ～25 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集

8 月

- 11 日 掲載 河北新報 NPOいちから塾
- 19 日 事業 第 2 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 19 日 事業 平成 28 年度地域人材育成「ハッピーママサロン」アフターフォロー
- 23 日 施設管理 消防訓練

9 月

- 16 日 事業 第 3 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 24 日 事業 平成 28 年度地域人材育成「ハッピーママサロン」アフターフォロー
- 29 日 事業 第 1 回「伝わる広報」

10 月

- ～11 月 展示 「芸術」「スポーツ」「読書」等、秋につながるテーマに関連する「tag」の展示
・配布@1 階エントランス
- 3～8 日 出展 シオーモ絵本まつり出前絵本展
- 6 日 事業 第 2 回「伝わる広報」
- 13 日 事業 第 3 回「伝わる広報」
- 15 日 出展 しおがま絵本村あきまつり出前絵本展
- 21 日 事業 第 4 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 26 日 視察 高崎中学校職業体験地コミ受入対応
- 28 日 出演 東北学院大学講義「震災と復興」にて T S C 紹介
- 29 日 事業 学生向け NPO きっかけ塾
- 31 日 施設管理 定期監査（収入事務監査）

11 月

- ～12 月 展示 クリスマス雑貨市関連団体が掲載された号の「tag」配架@1 階エントランス
- 6 日 視察 岩沼市市民活動サポートセンター
- 9 日 視察 松島高校職場体験地コミ受入対応
- 10 日 事業 雑貨市出展団体決起集会
- 14 日 事業 出前 NPO いちから塾（多賀城高校）
- 14 日 出演 多賀城工場地帯連絡協議会市政懇談会にて T S C 紹介
- 17 日 事業 10 周年プレ企画 Vol. 1 「世代を超えて集う場を地域でつくるカギ」
- 18 日 事業 第 5 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 19 日 事業 雑貨市ボランティア事前説明会
- 24 日 事業 雑貨市 P R 展示@多賀城市役所 1 階ロビー（～12 月 8 日）

12 月

- 4 日 出演 ミヤギテレビ「OH！バンデス」
- 6 日 出演 ベイウエーブ「ラジカルト」
- 10 日 事業 「たがさぼのクリスマス雑貨市」
- 16 日 事業 第 6 回「TAGAJ0 Future Labo」

- 17 日 事業 シニア向けNPOきっかけ塾
- 17 日 掲載 河北新報 雑貨市
- 18・19・21 日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会
- 29 日 掲載 河北新報 シニア向けNPOきっかけ塾

平成 30 年

1 月

- ～ 5 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集
- 20 日 事業 「TAGAJ0 Future Labo マイアプローチ発表会」
- 20 日 出演 東北学院大学講義「震災と復興」出席
- 28 日 掲載 まごころねっと シニア向けNPOきっかけ塾
- 30 日 掲載 河北新報 「TAGAJ0 Future Labo マイアプローチ発表会」

2 月

- 25 日 事業 10 周年プレ企画 Vol.2「多賀城をもっとおもしろくするカギ」
- 28 日 施設管理 消防訓練

3 月

- 8～27 日 施設管理 利用者アンケート実施
- 11 日 掲載 河北新報 10 周年プレ企画 Vol.2「多賀城をもっとおもしろくするカギ」
- 12 日 事業 「多賀城から、持続可能な関係性を探る」
- 14 日 事業 「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」
- 21 日 掲載 河北新報 「多賀城から、持続可能な関係性を探る」
- 21 日 視察 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム受入

I

平成 29 年度運営業務報告

I -1 方針

(1) 3 カ年（平成29～31年度）の施設運営方針

平成 29～31 年度の 3 カ年の業務委託に際し、3 カ年（平成 29～31 年度）の施設運営方針を以下のように定めた。この方針に基づいて事業立案や運営を行っている。

T S Cが目指す多賀城のまちの姿

市民・企業・学校・行政など地域のさまざまな主体が協力し合うことで、それぞれの暮らしの課題が解決されたり、暮らしがより充実したりし、笑顔があふれるまちになります。

T S Cの役割

- まちの魅力や暮らしの課題に気づき、主体的に行動する市民が育まれる場。
- 想いをかたちにする場。想いをかたちにする伴走型サポーター。
- 地域づくりに取り組むさまざまな主体のコーディネーター。

平成 29～31 年度で T S C 運営において特に力を入れること

1) 地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのさまざまな主体による連携の仕組みづくり

地域の課題を解決し、地域の価値を創造するためには、市民だけでなく地域のさまざまな主体が力を発揮し連携しながら取り組んでいく必要があります。

これまでの地域づくりに取り組む人・団体に加え、地元企業や高校・大学との関係づくりに重点的に取り組みます。

また、具体的な課題（例えば、高齢者の生活支援、空き地・空き家問題など）を設定し、さまざまな主体が参加して考え、実際に取り組む場をつくり、課題解決の取り組みモデルとして発信します。T S C に課題が持ち込まれ、T S C がコーディネート役となり、さまざまな主体が連携して解決する道筋をつくります。

2) 地域づくりに関わる人材育成

少子高齢化が進む中で、地域づくりの新たな担い手を育成し、次世代につないでいくことが重要です。

例えば、以下のような視点で人材育成に取り組めます。

- 想いをかたちにしている人たちの姿をみせ、「何かやりたい」という方へのアプローチを行う
- 相談や事業に参加する層をみると、20～40 代の現役層、60 代の退職後の方が多く、相談や事業

をきっかけに実際に活動を立ち上げています。「何かやりたい」という想いを持っている層にしばった事業を行うことで、他の層への波及効果が期待できます。例えば、20～40代であれば子育て世代でもあるので子ども世代に、60代であればその下の年代である50代への波及効果をねらうことができます。

○文化交流拠点でTSCは市民の稽古場・実験の場として

図書館や文化センターで行われるさまざまなイベント等を体験し、「何かやってみたい」という気持ちになった市民が、想いをかたちにしチャレンジできる場がTSCです。TSCでの取り組みをきっかけに図書館・文化センターや地域で活躍するという循環をつくっていきます。

3) 市民活動やTSCを知る市民の増加

市民活動に関心のない方、「何かやりたい」と思っている方へさらなるアプローチを行うために、情報発信の強化に取り組む必要があります。

ウェブ・情報紙・館内展示などのTSCの情報発信媒体の工夫、地域づくりを行う活動者の発信力の強化によって、市民がより地域づくりに関する情報にアクセスしやすい環境をつくります。

市民が地域づくりに関する情報にふれることによって、その中から市民活動に関心を持つ市民、実際に活動をはじめる市民を生み出していきます。

運営する上で大切にすること

- 市民の力を信じ、市民とともに多賀城に新しい価値を創造します。
- 多賀城の地域づくりが活発になるサポートをするという視点から行動します。
- 多賀城の地域づくりを一緒に進めていく同志であるという視点から行動します。
- 窓口対応は、相談につながる、ニーズを把握する大切なコミュニケーションです。
- 正確な窓口対応を行います。

(2) 平成 29～31 年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ

	現状と課題	平成 29 年度(2017)	平成 30 年度(2018)	平成 31 年度(2019)	3 年後の姿
重点的な取り組み①	・下記事業を実施していくにあたり、企業、高校・大学と連携できる下地づくりが必要。	●企業との関係構築 ○地元企業の CSR 調査 ●高校・大学との関係構築			・企業、高校・大学が地域づくりの主体として活躍している。
重点的な取り組み② 開館 10 周年記念事業	・多賀城のまちについて集まって話したり考えたりする場が少ない。	○10 周年企画立案 ○イベントの実施	○イベントの内容を元に 10 周年記念誌をまとめる		・多賀城のまちについてさまざまな主体による対話の機会が増えている。
課題解決に向けた取り組み	・課題解決のためにはさまざまな主体が力を発揮する必要がある。(協働から総働へ)	●課題や関係機関の把握 ●解決の仕組みを参加型で考え、小さなチャレンジを生み出し、課題解決のモデルとして発信。			・TSC に課題が持ち込まれ、TSC がコーディネート役となり、さまざまな主体が連携して解決していく道筋ができる。
地域づくりに関わる人材の育成	・少子高齢化が進む中で、地域づくりの担い手育成が必要である。 ・既活動者が活動を継続していくために段階に応じた支援が必要である。	●地域づくりの新たな担い手育成 ○講座等実施 ●既活動者の育成 ○伴走型相談対応をベースとする。			・市民活動・地域活動への多様な関わり方をしている人が増えている。 ・市民による課題解決の取り組みが増えている。
情報発信強化	・上記の事業の成果を地域に広めていくためには情報発信強化は欠かすことができない。	●地域づくり活動の発信強化 ○情報誌の発行 ●市民の発信力強化 ○機能強化 ○講座等実施			・地域づくりに関する情報によりアクセスしやすくなっている。 ・市民による情報発信がより活発になっている。 ・TSC の認知度が向上している。

I -2 平成 29 年度成果・課題

（１）平成 29 年度成果・課題

＜施設運営方針に沿った成果・課題＞

3 ヶ年（平成 29～31 年度）の施設運営方針に沿って、事業実施（15 ページの事業計画参照）も含めた平成 29 年度の T S C 運営全体の成果・課題は以下のとおりである。

1）地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのさまざまな主体による連携の仕組みづくり

【成果】

- 地元企業の C S R 調査では、前回（平成 21・22 年度）以降、震災を経て、震災後の地元企業の地域貢献活動の現状、地域貢献活動を進めるにあたり課題となっていることを把握するとともに、取り組み事例を収集することができた。
- 自治会・町内会の課題・取り組み事例調査では、町内会の運営課題、町内会の視点からみた地域課題を洗い出すことができた。
- それぞれの調査結果をもとに、連携による地域活動を考える場、地域コミュニティの課題解決に向けて情報交換する場を設け、今後課題解決に取り組んでいくにあたってのネットワークづくりのきっかけの場を生み出した。
- これまで築いてきた各主体との関係が、T S C への相談や事業への参加、T S C の各種会議や実行委員への参加につながった。

【課題】

- それぞれの調査結果の分析をさらに進め、課題の設定や、課題解決に向けたマッチング、さまざまな主体の参画による場づくりの取り組みが不足していた。

2）地域づくりに関わる人材育成

【成果】

- たがさぼのクリスマス雑貨市では、ボランティアを初めて導入し、28 名の方が出展団体の活動に触れながら運営に携わった。
- N P O きっかけ塾では、「市民活動入門」「学生向け」「シニア向け」「現役世代向け」の 4 つのテーマで実施し、のべ 31 名の参加者中 10 名が活動など次のアクションを起こした。
- TAGAJ0 Future Labo では、5 名の受講者がプランの発表に至った。また O B ・ O G を含めたコミュニティが形成され、お互いに刺激し合う関係性がアクションを起こす後押しになった。
→課題解決を担う人材、課題解決につながる次のアクションを起こした人やコミュニティが新たに生まれた。

【課題】

- 個々のアクションは生まれたが、課題解決を担うようなコミュニティ創出のための働きかけは十分にできなかった。

3) 市民活動やT S Cを知る市民の増加

【成果】

- tag では、市民活動団体に限らず、自治会や企業の地域づくりに関する取り組みを発信した。
tag をきっかけに相談につながったり、アクションを起こす方が 5 件生まれた。
- 市民の発信力強化では、講座で得たノウハウが受講者の活動の発信に活かされ、市民活動団体の情報発信力が強化された。
- クリスマス雑貨市では、来場者アンケートから新規来館者が 69.1%を占め、さまざまな切り口から市民活動を知る、触れる機会が提供できた。
- 出前いちから塾では、市内外で行われた 5 つのイベントに「N P Oの絵本展」などで参加し、のべ 232 名の方にN P Oや社会課題に触れる機会を提供できた。
- 全国高等学校総合文化祭や市内中学校部活の利用においては初来館者が多いことが予想されたため、来館者層に合わせ、これまでT S Cで収集した情報を編集・発信し、主に学生や保護者が市民活動にふれる機会を提供した。
→市民活動に触れる機会を創出し、市民活動への理解を広めるとともに、アクションを起こす市民を生み出している。

【課題】

- めざす姿「地域づくりに関する情報によりアクセスしやすくなっている」「市民による情報発信がより活発になっている」に近づいているのかを計るために、団体や市民の声を拾うことにさらに取り組む必要がある。

＜大事業ごとの成果・課題＞

3 ヶ年（平成 29～31 年度）の施設運営方針をもとに、平成 29 年度事業を立案・実施した。

「開館 10 周年記念事業」「課題解決のための連携モデルづくり」「人材育成」「情報発信強化」の 4 つの大事業、それぞれに小事業を立てた。（15 ページの事業計画参照）

大事業ごとの概要およびふりかえりは以下のとおりである。

1）開館 10 周年記念事業

【事業概要】

目的：この 10 年を振り返るとともにさまざまな主体による対話の場を通してこれからの地域づくりにつなぐ。

背景：多賀城のまちについて集まって話したり考えたりする場が少ない。

対象：潜在的活動者・既活動者

【実施事業】

- ・開館 10 周年プレイベント

【到達指標】

- 地域づくりについて考え、他者と対話する市民が増える。（指標 40 名）

【成果】

- プレイベントを 2 回実施し、さまざまな立場でまちのことを話す場をつくり、これからの地域づくりに必要な視点も得ることができた。
- 地域づくりについて考え、他者と対話する市民が増えた。（参加者 33 人／指標 40 名）指標到達度：82.5%
- イベント開催後に自発的な対話が生まれ、参加者がボランティア活動を行うなど、行動につながった。

【課題】

- 活動者だけでなく、これから活動を始めたい人、企業や学校、自治会などの主体も巻き込んだ対話の場を生む。

2）課題解決のための連携モデルづくり

【事業概要】

目的：地域内の多様な資源をつなぎ直し、包括的な課題解決のネットワークを構築する。

背景：課題解決のためにはさまざまな主体が力を発揮する必要がある。（協働から総働へ）

対象：企業・自治会・NPO・行政

【実施事業】

- ・地元企業のCSR調査
- ・自治会・町内会の課題・取り組み事例調査
- ・多様な主体による参加型課題解決の仕組みづくり

【到達指標】

- 地域課題を可視化し、課題に取り組む主体（NPO、企業、町内会、行政）がつながる場が生まれている。（指標 3 件）

【成果】

- 調査（アンケート・ヒアリング）を通して、企業から地域貢献の実態や取り組み事例、自治会から運営課題と地域課題を洗い出すことができた。
- 企業の地域貢献についての報告会、自治会等の地域課題についての情報交換会を実施し、地域づくりについて考えたり、今後課題解決に取り組んでいくにあたってのネットワークづくりの場を生み出した。（2 件/3 件）指標到達度 66.7%
- 多様な主体、特に企業との接点をつくることができた。

【課題】

- 自治会への調査から課題の深堀をしていくことが不十分であったため、課題を軸にして多様な主体が集まる場をつくることができなかった。

3) 人材育成

【事業概要】

目的：新たな人材の発掘・地域づくりの担い手育成

背景：少子高齢化が進む中で、地域づくりの担い手育成が必要である。

既活動者が活動を継続していくために段階に応じた支援が必要である。

対象：無関心層・潜在的活動者・既活動者

【実施事業】

- ・雑貨市
- ・NPOきっかけ塾
- ・TAGAJ0 Future Labo

【到達指標】

- 市民活動・NPOと関わったことのある市民が増えている。（指標 400 人）
- 課題解決を担う人材やコミュニティが生まれている。（指標 6 件）

【成果】

- 市民活動・NPOと関わったことのある市民が増えた。(参加者のべ 1385 人/指標 400 人) 指標到達度 346%
- 課題解決を担う人材、課題解決につながる次のアクションを起こした人やコミュニティが生まれた。(人材・コミュニティ合わせて 16 件/指標 6 件) 指標到達度 267%

4) 情報発信強化

【事業概要】

目的：ローカルグッドの発信・市民の発信力強化

背景：地域の取り組みを広めていくためには情報発信強化は欠かすことができない。

対象：潜在的活動者・既活動者

【実施事業】

- ・月刊フリーペーパー「tag」発行
- ・市民の発信力強化

【到達指標】

- 市民活動やTSCの情報が市民に行き届くことで、市民のアクションにつながる。(指標 10 件)

【成果】

- tag を通じて、5 名の市民が地域でアクションを起こした。到達指標 50%
- NPOに限らず、自治会や企業の地域づくりに関する取り組みを発信できている。(tag)

【課題】

- tag について、その後の市民のアクションを把握することができていない。ロードマップでかかげた「地域づくりに関する情報によりアクセスしやすい状況になっている」「市民による情報発信が活発になっている」という姿について、よりよい状況になっているか計るためにも、団体や市民の声をもっと拾っていく。
- 今年度は、団体の発信力を高めることができた。別のアプローチとして、地域の魅力を発信する人を増やすというアプローチも視野に入れる。

※上記事業の具体的な報告は 50 ページから掲載する。

＜各属性の状況＞

事業も含め、T S C 運営全体を通して見えてきた各属性の状況は以下のとおりである。

【市民活動団体】

個人で活動を起こす・起こしたい方からの相談や事業への参加も多い傾向は続いている。人材育成事業を通して、N P O きっかけ塾では 10 名、TAGAJ0 Future Labo では 6 名がアクションを起こした。

また、市民の発信力強化では、活動者に対して、文章力、チラシづくり、S N S の使い方などの講座を実施し、情報発信支援を行った。

団体立ち上げに関しては、相談対応を通して立ち上げ支援に取り組んだ。

平成 29 年度立ち上げ支援による活動開始団体

- ・非営利団体虹の橋

【自治会・町内会】

全自治会対象にアンケート調査と、調査結果をもとにしたヒアリング調査を 3 地区に対して実施し、自治会の視点からとらえた地域の課題と運営課題が明らかになった。

また、印刷機利用にきた区長・役員とこれまで以上にコミュニケーションをとったほか、区長会への出席を通して、地域や自治会に関する情報収集を行った。

【企業】

地元企業の CSR 調査では、前回（平成 21・22 年度）以降、震災を経て、震災後の地元企業の地域貢献活動の現状、地域貢献活動を進めるにあたり課題となっていることを把握するとともに、取り組み事例を収集することができた。調査によってコミュニケーションがより深まり、相談や T S C 事業への参加につながっている。

【学校・学生】

学校・学生とは事業や相談を通して関係構築が進んでいる。

第二中学校 3 学年総合的な学習の時間のサポートを行い、学校との関係づくりにも取り組み、「tag」やクリスマス雑貨市の展示を通して、地域住民に授業の成果を発信する機会を提供できた。

東北学院大学「震災と復興」において T S C を紹介する機会を得たことで、相談や T S C 事業への参加につながった。

学生向けきっかけ塾において、T S C 事業でのボランティアをはじめ、具体的なアクションにつながるなどの実績が生まれた。

また、T S C 事業において学生に登壇してもらうことで、地域で活動する大人世代に学生の活動を知ってもらうきっかけにもなった。

【行政】

災害公営住宅関係課ミーティング、観光振興事業に係るキーパーソン会議、地域支え合い実行委員会など、他機関が実施するネットワーク型の会議に参加し、行政各課、市内活動者、企業と

いった各主体と連携して地域課題について考えることができた。

地域支え合い実行委員会では、同実行委員会が進める支えあい実践塾と、当センター事業の自治会・町内会調査報告会を同日に開催し、福祉分野と地域コミュニティ分野の連携が進んだ。

【生涯学習団体】

相談対応において、広報に必要なパソコンスキルが不足している団体とパソコンを学ぶ団体をマッチングし、学びを地域の活動に活かすモデルとして「tag」でも取り上げ、発信した。

(2) 多賀城市市民活動サポートセンター平成29年度実施事業一覧

平成30年5月31日

大 事 業	大 事 業 目 的	当 年 度 の 進 捗 指 示	小 事 業	主 な 目 的	概 要	主 な 対 象	成 果 目 標	実 施 目 録	4～3月期実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開館10周年記念事業	この10年を振り返るとともに、今後の多賀城市に果たすべき役割について、市民と対話する機会を設け、これからの地域づくりに必要な方向性について、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	1 プレイベント	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。												
課題解決のための連携モデルづくり	地域内での多様な課題を、市民と行政が連携して解決するためのモデルづくり。	2 地元企業のCSR調査	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。												
人材育成	新たな人材の発掘・地域づくりの担い手育成	5 雑貨市	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。												
情報発信強化	ローカルブレイクの発信	6 月刊フリーペーパー「Tag」発行	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。												
市民の発信力強化	市民の発信力強化	7 TAGAJU Future Labo	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。												
市民の発信力強化	市民の発信力強化	8 市民の発信力強化	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。	多賀城市の地域づくりについて、市民の声を聴き、これからの地域づくりに活かす。												

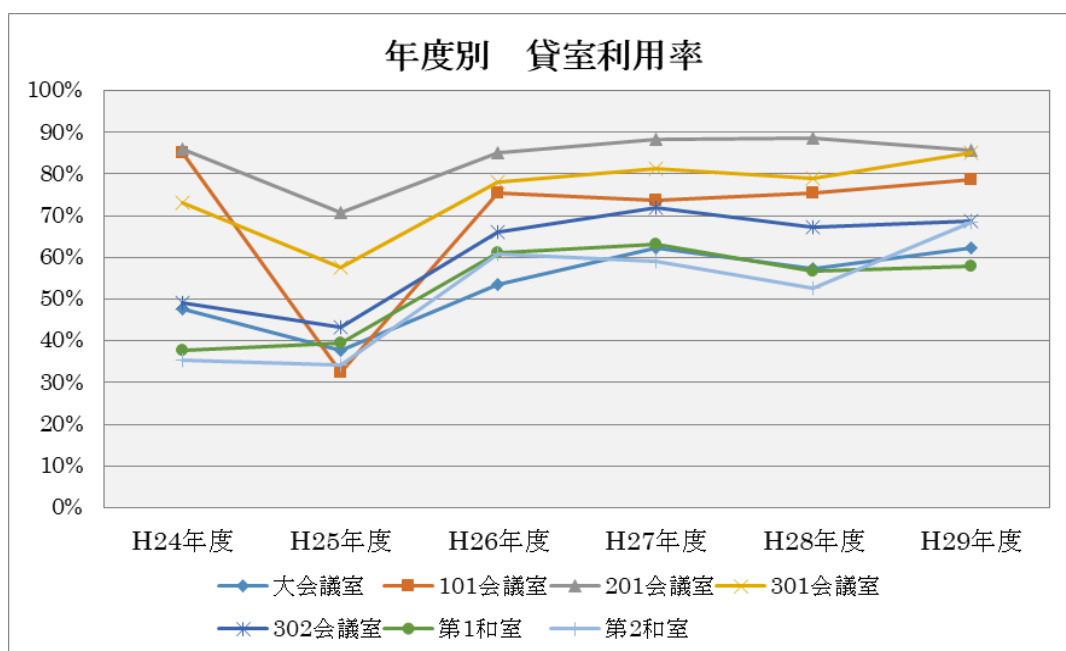
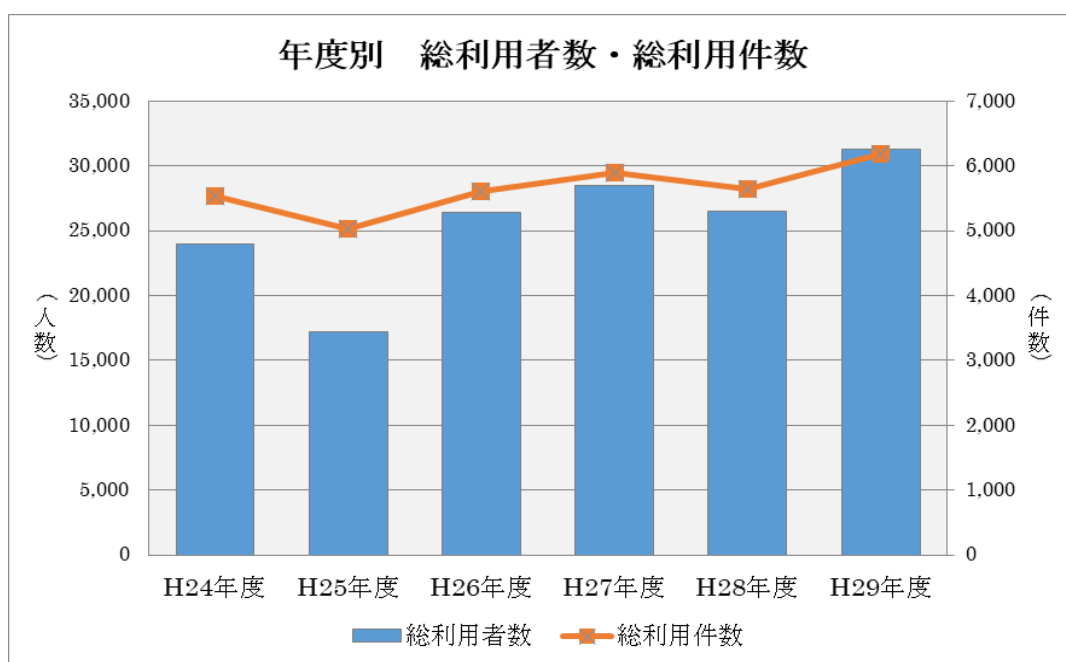
I -3 運営状況

(1) 利用状況集計

①総利用数・貸室利用率

今年度は過去最多の利用となった。総利用件数は、これまでになかった 6,000 件を越え 6,181 件、総利用人数も 30,000 人を突破し 31,299 人となった。要因としては、T S C 事業での貸室・フリースペースの利用件数・人数も集計に加えるようにしたこと、T S C 事業などで T S C の知名度向上を図ったこと、平成 25 年度のリニューアル工事時に増設したフリースペースなどの利便性が浸透してきたことが挙げられる。

貸室の利用率では多くが微増している。特に第 2 和室利用が増加していて、着付けの活動を行う団体のほか、子育て（子育て中の親を含む）や教育支援団体の利用が増えている。



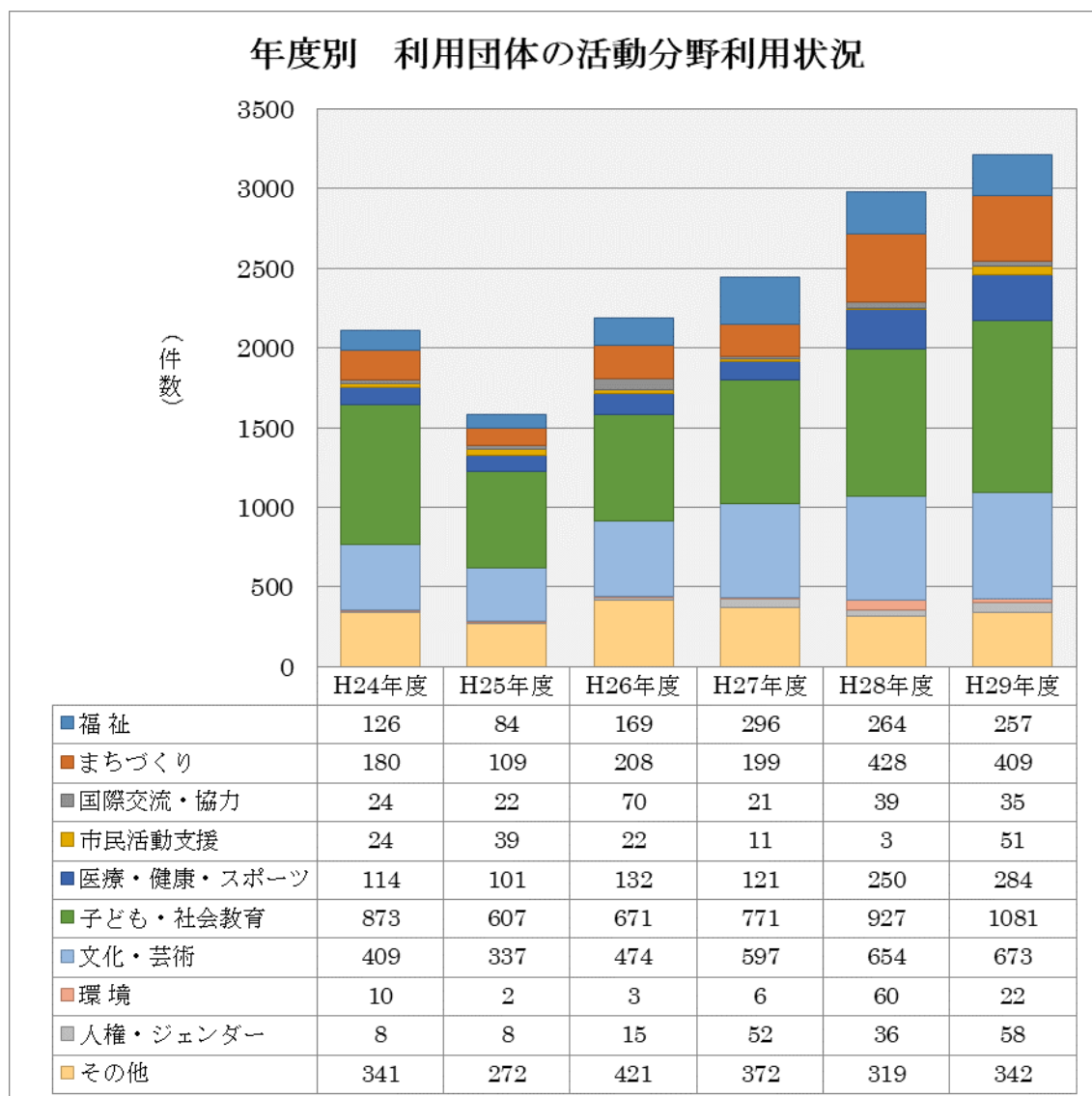
※午前・午後・夜間の貸出区分のうち、1日1区分以上利用がある場合を利用率 100%としている。

②利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、事務用ブース利用者の利用票提出および印刷機利用に基づく利用団体の活動分野

平成 29 年度は前年度から印刷機利用団体も活動分野に加算しているが、全体件数は過去最高の 3,121 件を記録した（前年比 +141 件）。最も増加が多い分野は『子ども・社会教育』で 1,081 件（前年比+154 件）である。内容としては生涯学習団体の定期的な利用のほか、子どもの学習支援団体の定期的な利用もあり、その結果が如実に現れていると考えられる。対して、減少が気になる分野では『環境』が挙げられ、22 件（前年比-38 件）である。これは T S C の事務用ブースに入居していた環境活動を行う団体が活動規模縮小のため退去したことが原因に挙げられる。

なお、『市民活動支援』が 51 件（前年比+48 件）となっているが、要因はこれまで加算を行わなかった T S C 企画・実施のイベントや講座を、今年度から加えてカウントするように改めたからと考えられる。

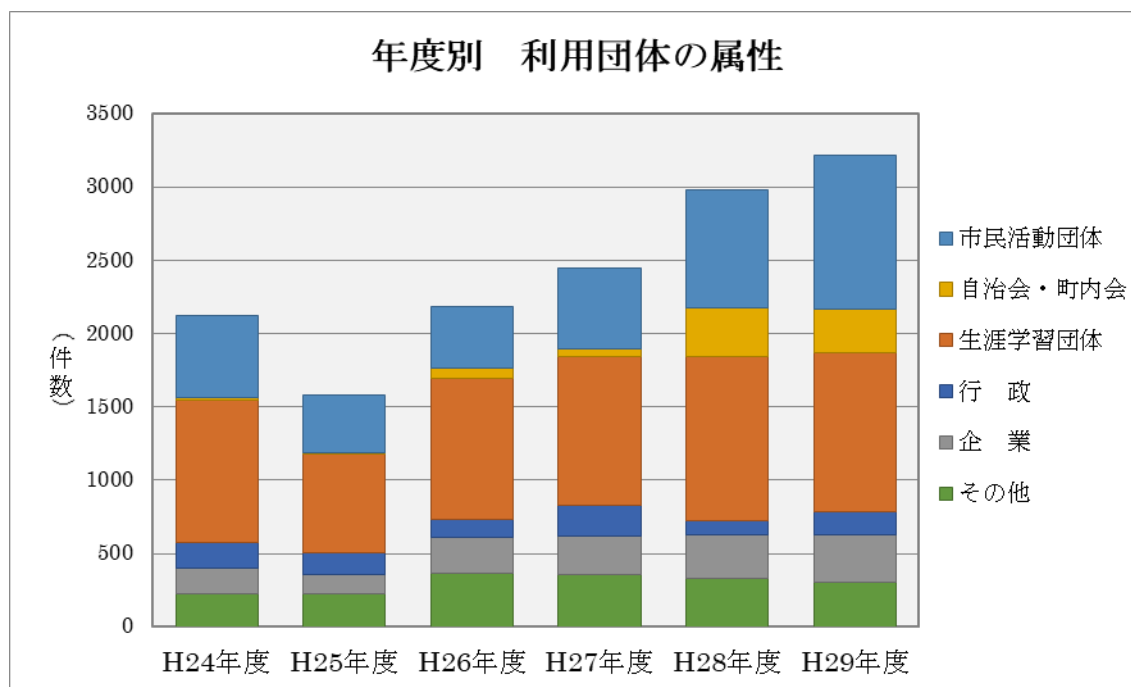


③利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、事務用ブース利用者の利用票提出と印刷機利用に基づく利用団体の属性

市民活動団体 : 1,047 件 生涯学習団体 : 1,091 件 企 業 : 326 件
 町内会・自治会 : 292 件 行 政 : 152 件 その他（個人など） : 304 件

これまで 1,000 件以上の利用があった団体属性は『生涯学習団体』のみであったのに対し、平成 29 年度では『市民活動団体』でも利用件数は 1,047 件（前年比+245 件）となっており、前回（+252 件）とほぼ同程度の増加数となっている。またグラフを見ても、過去年度からの増加分の多くが市民活動団体の増加で占められていることが伺える。その要因としては、子どもの教育支援を行っている団体の定期的な利用が考えられる。当該の団体は T S C の事務用ブースに入居していることから、次年度以降も今年度と同じ件数・属性状況で推移するものと考えられる。



■年度別利用団体の属性（単位：件）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合 計
市民活動団体	556	394	418	550	802	1,047	3,767
自治会・町内会	19	11	70	53	339	292	784
生涯学習団体	972	676	961	1,016	1,112	1,091	5,828
行 政	179	148	127	209	99	152	914
企 業	173	130	244	259	295	326	1,427
その他	222	223	365	359	333	304	1,806
合 計	2,121	1,582	2,185	2,446	2,980	3,212	

参考：主な項目の利用状況推移（平成20～29年度）

		貸室		フリースペース			印刷機		情報揭示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	利用件数	利用枚数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	枚	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	378	218,318	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	551	342,248	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	619	361,553	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	801	479,306	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	918	603,693	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度		1,442	16,488	143	410	1,137	807	576,452	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
平成26年度		2,069	24,170	113	591	1,921	814	566,837	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420
平成27年度		2,213	26,178	228	794	2,273	838	722,674	1,856	21	315	364	417	5,903	28,524
平成28年度		2,044	24,209	310	930	2,409	625	509,592	1,871	40	320	421	432	5,651	26,507
平成29年度	4月	181	2,117	16	53	233	87	80,857	193	9	31	35	13	530	2,349
	5月	181	2,107	34	93	285	61	21,767	169	12	56	88	20	534	2,382
	6月	194	2,333	31	74	215	57	44,432	170	11	39	42	100	602	2,531
	7月	222	3,484	41	153	255	53	30,686	185	10	28	36	11	554	3,775
	8月	196	2,732	26	158	245	40	22,163	167	6	27	28	12	474	2,968
	9月	199	2,296	38	134	315	48	23,768	193	4	25	25	22	529	2,530
	10月	210	2,437	39	138	288	68	46,847	187	7	34	40	89	635	2,719
	11月	183	2,157	31	131	288	40	29,689	159	2	18	28	67	502	2,377
	12月	162	2,747	23	88	460	23	22,048	136	7	10	14	8	369	2,885
	1月	143	1,776	19	62	180	37	17,520	166	3	12	13	43	423	1,901
	2月	176	2,018	26	106	253	45	24,988	146	5	19	19	110	527	2,211
	3月	213	2,470	25	88	276	43	70,402	162	13	29	33	16	502	2,671
平成29年度計		2,260	28,674	349	1,278	3,293	602	435,167	2,033	89	328	401	511	6,181	31,299
前年度比		111%	118%	113%	137%	137%	96%	85%	109%	223%	103%	95%	118%	109%	118%
総計		17,468	217,801	1,823	6,014	17,739	6,953	4,815,840	14,955	1,495	3,303	4,043	4,042	50,193	232,545
平均		1,747	21,780	182	601	1,774	695	481,584	1,496	150	330	404	404	5,019	23,255

※利用件数・人数は利用票提出分
※カウント数はスタッフによる定時見回り時の
べ人数

※平成29年度より、TSC事業分も貸室・フリースペースの利用件数・人数
として集計

※平成26年度
より印刷機・パ
ソコンの利用人
数も集計

平成29年度の総利用件数は6,181件、総利用人数は31,299人となり、ともに過去最多となった。各項目では、印刷機利用件数と相談人数を除き、前年度より増加している。

参考：情報関連業務利用状況推移（平成20～29年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニューズレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成26年度		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
平成27年度		838	722,674	7,813	21	857	142	222	635	1,856	13	151	215
平成28年度		625	509,592	7,538	40	869	131	215	656	1,871	7	138	209
平成29年度	4月	87	80,857	927	9	80	22	26	65	193	1	9	10
	5月	61	21,767	570	12	64	23	30	52	169	0	4	9
	6月	57	44,432	460	11	83	10	24	53	170	1	5	7
	7月	53	30,686	397	10	90	6	23	66	185	1	10	15
	8月	40	22,163	764	6	87	14	25	41	167	0	8	11
	9月	48	23,768	694	4	96	13	27	57	193	1	7	10
	10月	68	46,847	521	7	97	13	29	48	187	1	3	6
	11月	40	29,689	1,129	2	79	11	18	51	159	2	3	4
	12月	23	22,048	472	7	64	9	14	49	136	1	4	5
	1月	37	17,520	735	3	80	7	19	60	166	0	1	2
	2月	45	24,988	1,362	5	67	5	27	47	146	0	3	3
	3月	43	70,402	1,489	13	66	14	24	58	162	3	3	5
平成29年度計		602	435,167	9,520	89	953	147	286	647	2,033	11	60	87
前年度比		96%	85%	126%	223%	110%	112%	133%	99%	109%	157%	43%	42%
総計		6,953	4,815,840	63,228	1,495	7,029	747	1,706	5,473	14,955	178	966	1,290
平均		695	481,584	6,323	150	703	125	171	547	1,496	20	107	143

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。
 ※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

※平成21年6月開設

貸出図書の件数・冊数の減少は、活動立ち上げに伴う定期利用が落ち着いたため。
 パソコン利用件数の増加は、老人会の書類作成に伴う定期利用が多かったため。

（２）相談対応実績

＜相談対応の流れ＞

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPO等のサービスを求めている方からの相談

その他の：TSCの運営についての問い合わせなど

↓

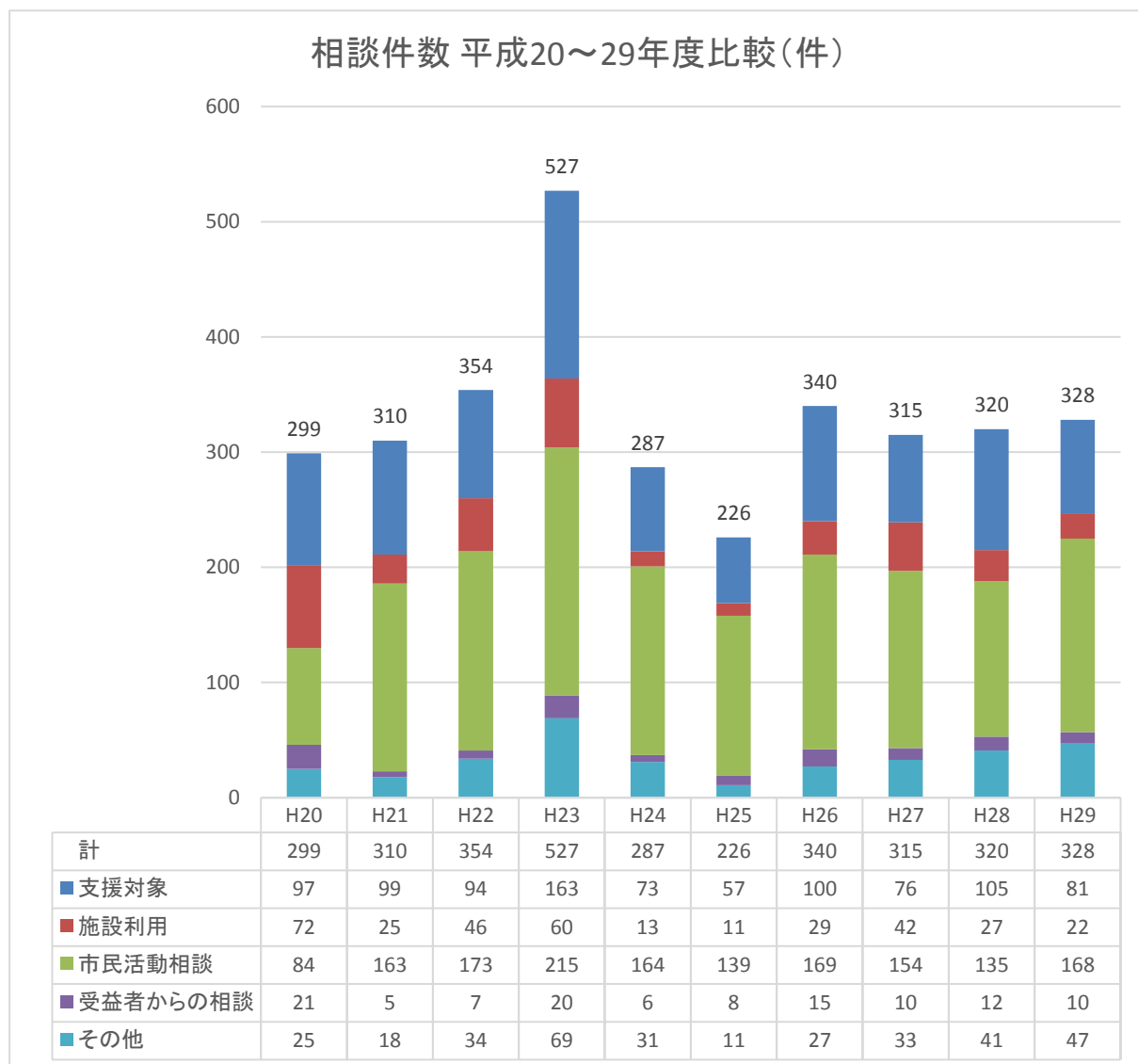
●共有

- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・ 月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催
すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあつては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善等につなげている。
- ・ 相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言等をもらっている。

＜相談件数 年度比較＞

総 件 数 328 件（月平均 27.3 件）

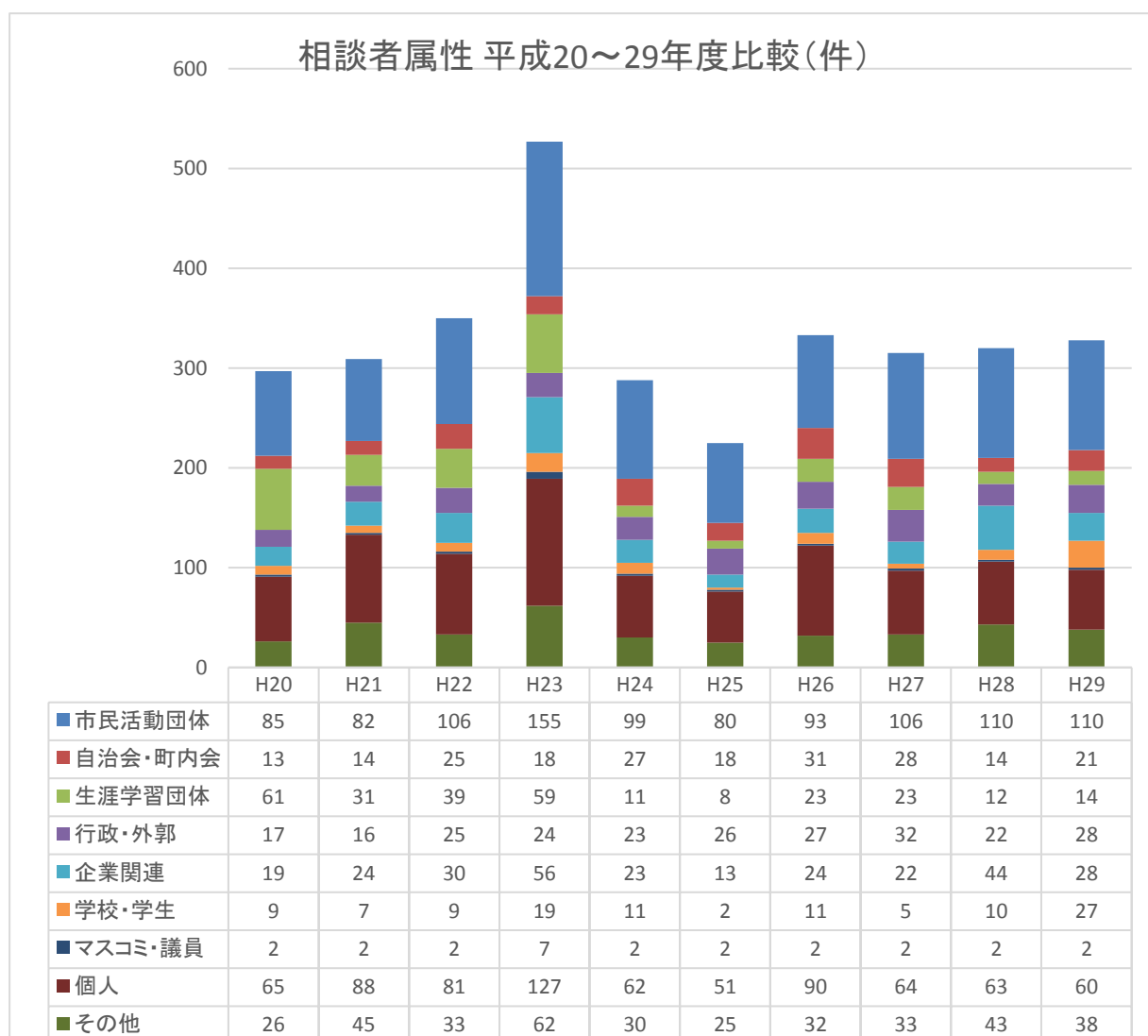
対応時間 8,499 分（月平均 708 分（11 時間 48 分）、1 件平均 26 分）



市民活動相談は全体の 51.2% で、T S C に寄せられる相談の約半数は団体運営やこれから何か活動したいといった相談である。

その他の相談としては、中学校の「総合的な学習」の授業のサポート、他の支援センターや自治体からの視察・見学が多く、学校の連携先や市外に向けてのモデルとしても T S C が認知されてきていると言える。

次年度以降も各事業のアフターフォローや情報発信媒体での T S C の認知向上を図り、相談につながるようにしていく。



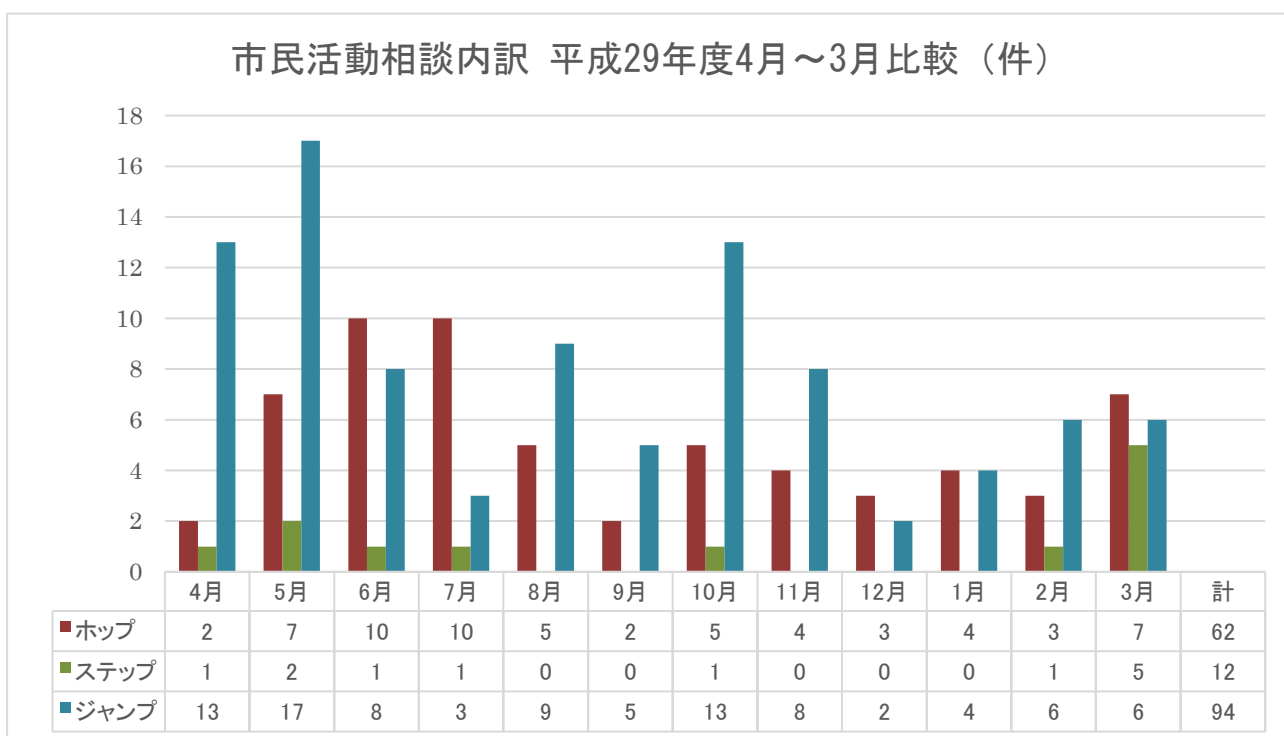
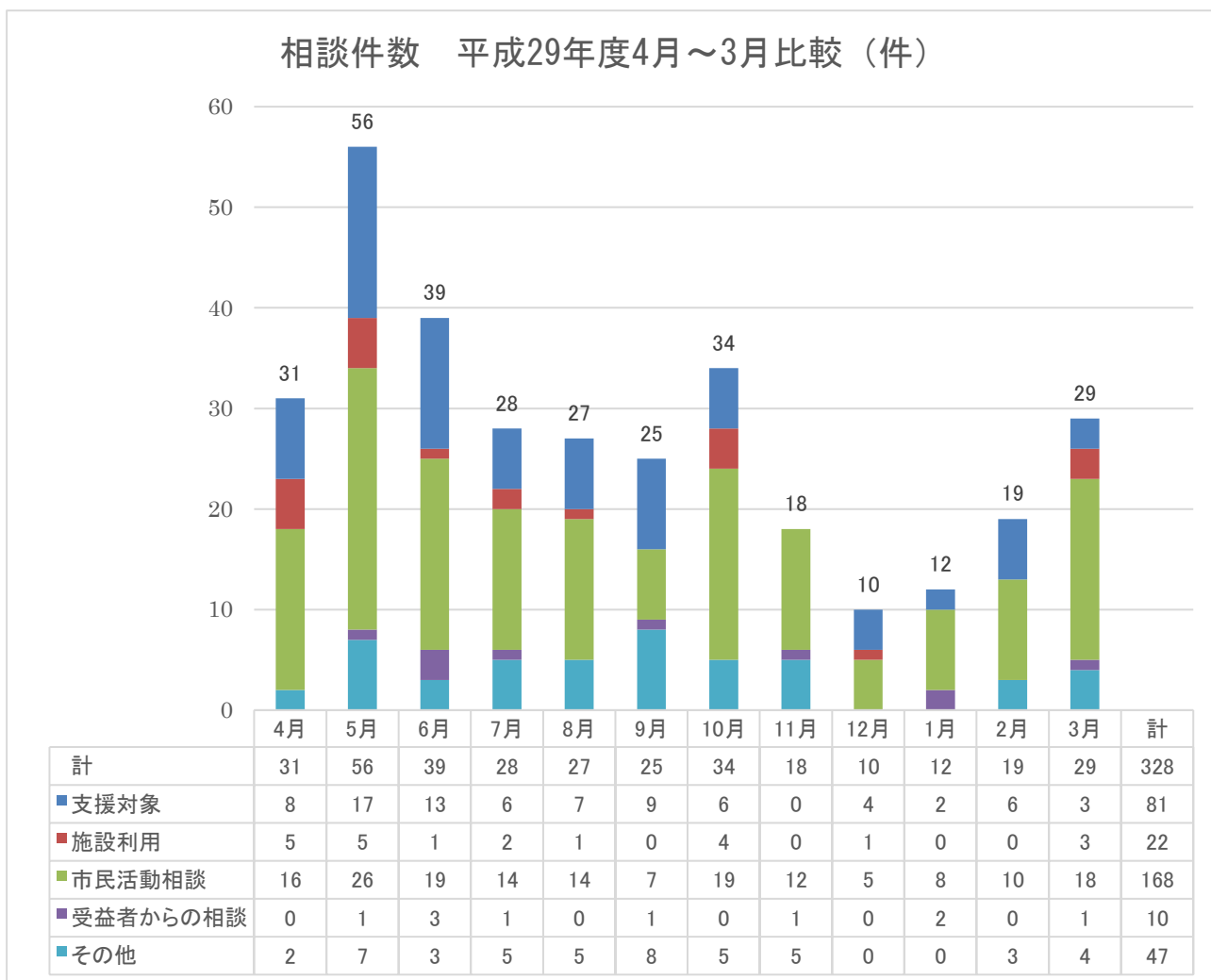
相談者属性は、市民活動団体が最も多く、ついで個人が多い。個人からの相談としては、何かはじめたい、サークルに入りたいといった内容が多い。

今年度の特徴としては、学校・学生からの相談が多いことが挙げられる。大学や中学校で地域課題をテーマとした授業を行っており、学生たちの相談に応じたり、事業をサポートしたことが大きな要因である。その他にも、高校のボランティアプログラムのサポートや企業とつないでほしいという中学校からの相談もあった。

一方で、企業関連の相談は減少している。企業の相談は、地域貢献に関する相談と貸室利用に伴う支援対象判断がある。昨年は特に雑貨市をきっかけに企業の訪問を行い、相談につながった例もあったが、今年度は相談につながる例は多くなかった。ただし、地元企業のCSR調査事業を通して多くの企業と接点を持ち、CSRについての状況を聞くことができている。

次年度以降に企業のCSRに関する相談が寄せられることが期待できる。

<相談件数 月別比較>



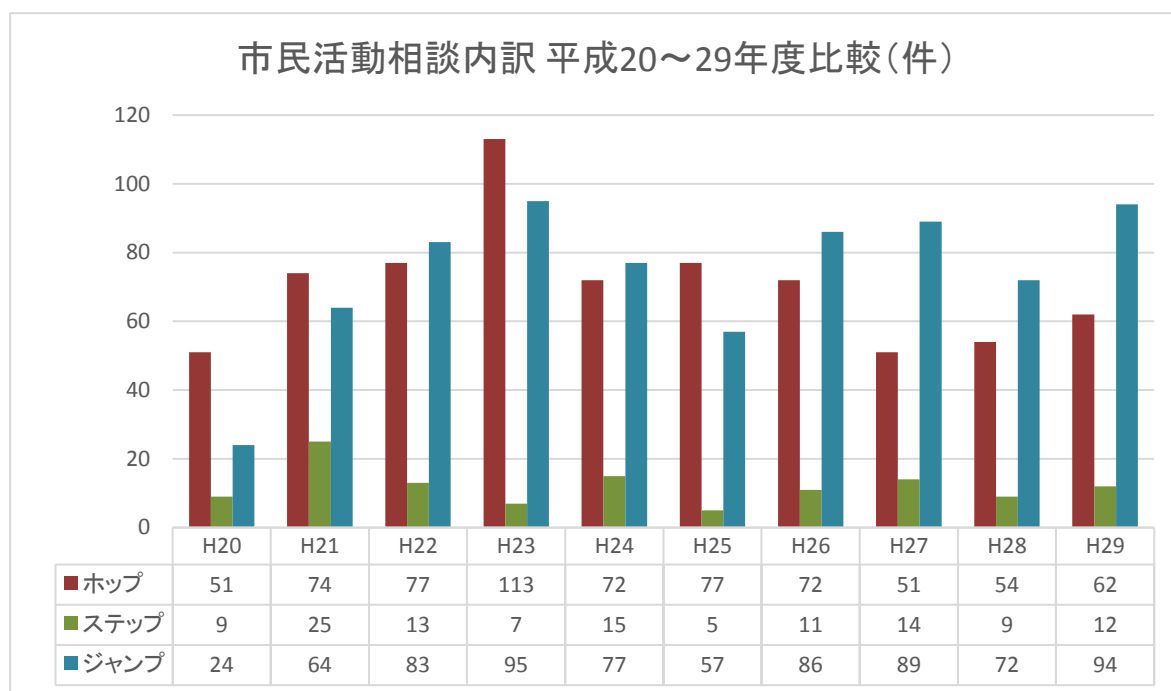
4 月・5 月は新たに活動をはじめた団体からのイベント運営相談があり、市民活動相談のジャンプが多くなっている。また、団体立ち上げや事業開始に伴い、新たに T S C を利用する団体も来館するため、支援対象判断が多くなった。

6 月・7 月では、団体情報の問い合わせを中心に市民活動相談のホップの割合が多くなった。

8 月～11 月にかけては、学校の授業やプログラムのサポート、企業の地域貢献に関する相談、自治会の情報発信等の運営相談、市民活動団体の広報や会計等の運営相談といった、多様なセクターからの相談があり、市民活動相談のジャンプの割合が多くなった。

12 月・1 月は年末年始にかかることもあり相談件数は少なかったが、2 月・3 月は次年度の活動についての相談・報告があり、相談件数が多くなった。

＜市民活動相談の内訳＞



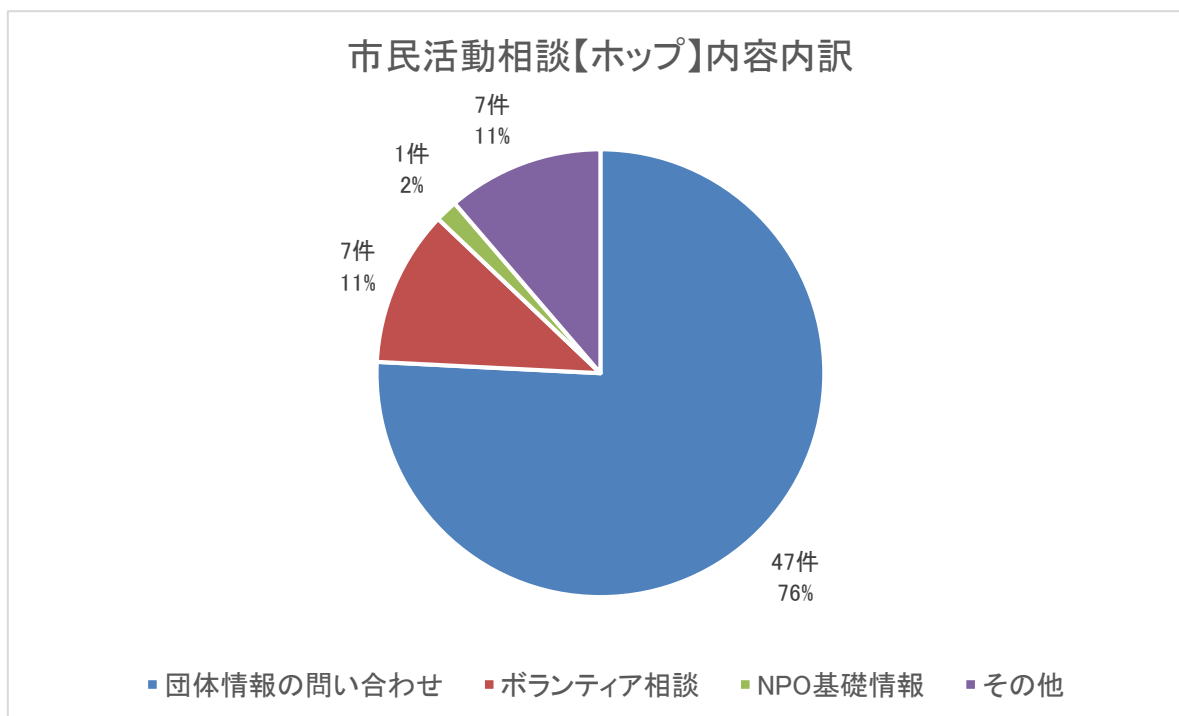
今年度の市民活動相談の中で一番件数が多かったのは、ジャンプ段階の相談で、開館以来最も多かったホップ段階の相談の件数を上回る傾向が平成 26 年度から続いている。団体の組織運営や事業実施の相談が日常的に行われていると言える。特に近年では事務用ブース入居団体から運営相談が寄せられることも多く、インキュベート施設としての事務用ブースが上手く機能している。

次項では、市民活動相談のホップ・ステップ・ジャンプの各々の相談内容について記載する。

●ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

市民活動相談 168 件の内、ホップ 62 件



団体情報の問い合わせが 47 件と最も多く、活動先や連携先となる団体情報を求めて来館される方が多い。具体的には、慰問先の問い合わせ、まわりに受益者がいるので団体情報を提供したい、町内会等の行事に呼ぶ団体を探しているといった相談が寄せられる他、今年度は行政からの連携先についての問い合わせもあった。

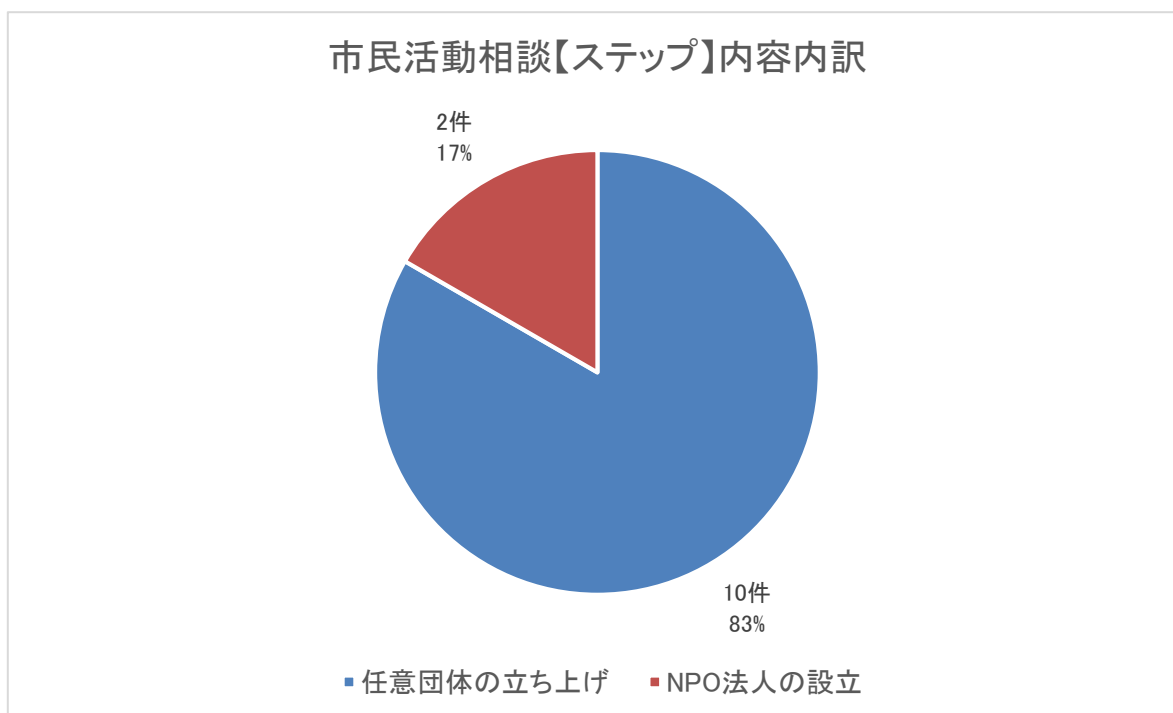
団体情報の問い合わせに関しては、団体情報ファイルや団体紹介シートを活用しながら情報を提供している。今後も町内会からの出演団体の問い合わせや行政からの連携先の問い合わせが寄せられる可能性が高い。相談に適切に対応できるよう、情報収集と整理は継続して進めていく必要がある。

その他に該当する相談としては、活動をはじめるにあたって必要なこと、地域との関わり方について等があった。

●ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談

市民活動相談 168 件の内、ステップ 12 件



地域のサークル活動の立ち上げ相談があった他、課題の気付きから当事者サロンや悩み相談の場を開きたいとの相談があった。また、T S C 事業がきっかけとなって立ち上がった事例もある。

こうした立ち上げ相談に対しては、すぐに立ち上げのためのノウハウを提供するわけではなく、なぜ立ち上げたいと思ったのか等を聞いたり、同種の活動をしている団体につないでお話をしたりと、相談者の想いに寄り添った支援をした上で、立ち上げの支援に移行する。

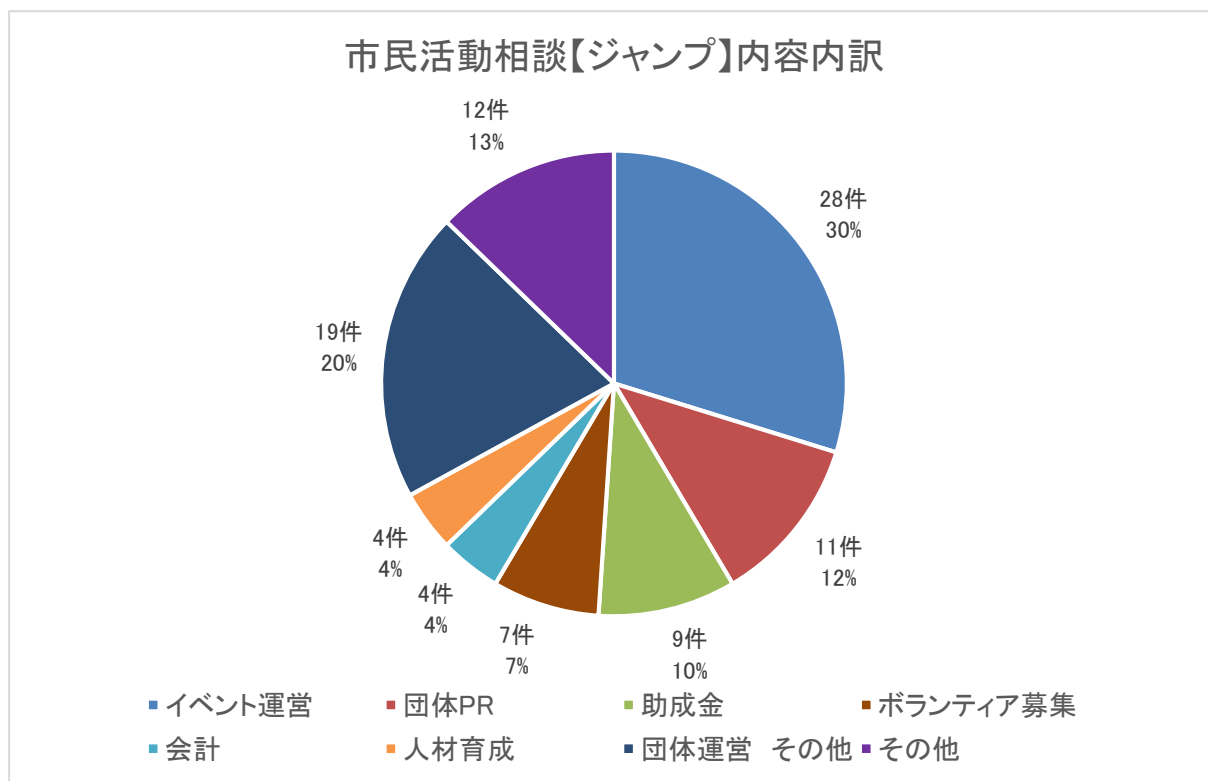
平成 29 年度立ち上げ団体・活動（1 団体）

団体・活動名	活動内容	立ち上げのきっかけ
虹の橋	発達障がいのある方の社会参加を図るため、悩みを話す場、相談、就労支援等を行う。	TAGAJ0 Future Labo

●ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談

市民活動相談 168 件の内、ジャンプ 92 件



イベントの企画や実施に関する相談が多かった。特に今年度は高校生のまちづくり団体、健康分野で活動する団体から継続した相談が寄せられた。

ボランティア募集に関する相談が多かったのも特徴で、サークル活動、子どもの居場所、地域おこしイベント、行政といったさまざまな団体からボランティアの集め方や人材についての相談があった。特に今年度は学生の力を求める相談が多かった。今年度、T S C では学校や学生の団体との接点をつくってきており、また、雑貨市では多くの学生ボランティアが関わった。何かしたいという想いを持った学生と地域をつないでいくのも T S C の役割と言える。

団体運営 その他に該当する相談としては、広報・資金・人材等の複数の内容が含まれた運営に関する相談等があった。運営全般に関する相談では、根本的な課題の発見や整理も行っていく必要がある。その上で適した支援を行っていく。

その他に該当する相談としては、自治会で感じている地域課題について相談、現在の活動状況についての団体からの報告、連携先や連携の仕方の相談等があった。

参考:相談対応集計

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29														
1. 件数、人数、属性など		計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計	
相談件数(件)		299	310	354	527	287	226	340	315	320	31	56	39	28	27	25	34	18	10	12	19	29	328	3,306	
開館日(日/月)		253	305	289	306	306	304	306	306	307	26	26	26	27	26	26	27	25	23	23	23	27	305	2,987	
件数平均(件/日)		1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.0	1.1	2.2	1.5	1.0	1.0	1.0	1.3	0.7	0.4	0.5	0.8	1.1	1.1	1.1	
人数(人)		348	374	386	645	375	307	377	357	421	35	88	42	36	28	25	40	28	14	13	19	33	401	3,991	
対応時間月計(分)		5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	8,209	753	1,750	790	683	630	732	633	635	225	305	328	1,035	8,499	74,372	
対応時間平均(分/日)		22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	26.7	28.9	67.3	30.4	25.3	24.2	28.2	23.4	25.4	9.8	13.3	14.3	38.3	27.9	24.9	
対応時間平均(分/件)		18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	25.5	24.3	31.3	20.3	24.4	23.3	29.3	18.6	35.3	22.5	25.4	17.3	35.7	25.9	22.5	
対面	件数(件)	235	235	267	322	187	152	213	224	224	23	35	23	18	16	17	21	15	8	6	11	18	211	2,270	
	対応時間月計(分)	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	5,984	675	1,534	630	605	510	640	510	610	200	205	260	900	7,279	62,471	
	対応時間平均(分/件)	20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.7	29.3	44.1	27.4	33.6	31.9	37.6	24.3	40.7	25.0	34.2	23.6	50.0	34.5	27.5	
電話	件数(件)	58	67	81	195	87	72	119	99	88	8	18	15	10	10	6	10	3	2	6	7	10	105	971	
	対応時間月計(分)	605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	2,050	78	180	145	78	90	72	88	25	25	100	65	130	1,076	10,921	
	対応時間平均(分/件)	10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	23.3	9.7	10.0	9.7	7.8	9.0	12.0	8.8	8.3	12.5	16.7	9.3	13.0	10.2	11.2	
その他	件数(件)	4	7	6	9	13	2	8	2	8	0	3	1	0	1	2	3	0	0	0	1	1	12	71	
	対応時間月計(分)	95	55	206	39	175	15	36	10	175	0	25	15	0	30	20	35	0	0	0	3	5	133	939	
相談者属性	市民活動団体(件)	85	82	106	155	99	80	93	106	110	16	20	8	6	8	7	11	4	4	4	10	12	110	1,026	
	自治会・町内会(件)	13	14	25	18	27	18	31	28	14	4	2	2	2	1	0	5	4	0	0	1	0	21	209	
	生涯学習団体(件)	61	31	39	59	11	8	23	23	12	2	3	0	3	1	1	1	0	0	0	1	2	14	281	
	行政・外郭(件)	17	16	25	24	23	26	27	32	22	1	1	5	4	1	4	3	3	0	1	1	4	28	240	
	企業関連(件)	19	24	30	56	23	13	24	22	44	2	2	4	4	3	2	5	2	1	0	2	1	28	283	
	学校・学生(件)	9	7	9	19	11	2	11	5	10	1	4	2	1	3	5	3	3	2	1	1	1	27	110	
	マスコミ・議員(件)	2	2	2	7	2	2	2	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	25	
	個人(件)	65	88	81	127	62	51	90	64	63	2	13	11	7	3	1	6	1	1	5	2	8	60	751	
	その他(件)	26	45	33	62	30	25	32	33	43	3	10	6	1	7	5	0	1	2	1	1	1	38	367	
	初来館者(人)	126	97	99	165	88	79	96	64	88	7	14	4	9	7	5	5	2	3	2	5	7	70	972	
初来館	どこで知ったか	公共施設(人)	37	23	34	46	16	23	24	16	12	2	3	2	3	2	2	0	0	1	0	1	1	17	248
		ロコミ(人)	14	15	8	24	18	14	25	9	18	2	7	0	4	4	2	2	1	1	1	2	1	27	172
		SDホームページ(人)	11	15	24	29	21	19	25	16	24	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	190
		その他(人)	64	44	33	66	33	23	22	23	34	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	2	5	20	362

2. 相談内容の内訳

(1) 支援対象について

相談件数(件)		97	99	94	163	73	57	100	76	105	8	17	13	6	7	9	6	0	4	2	6	3	81	945
対応時間(分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	1,221	860	1,354	178	250	170	75	80	132	58	0	45	20	45	60	1,113	11,392
対応時間平均(分/件)		12.5	12.0	10.7	11.4	11.7	12.8	12.2	11.3	12.9	22.2	14.7	13.1	12.5	11.4	14.7	9.7	0.0	11.3	10.0	7.5	20.0	13.7	12.1
利用目的	貸室(件)	77	69	62	116	59	37	71	56	81	4	14	11	4	2	7	6	0	4	2	5	3	62	690
	印刷室(件)	9	16	27	19	5	10	15	6	9	0	2	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	6	122
	チラシ(件)	6	10	4	9	6	6	10	11	14	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5	81
	ポスター(件)	2	0	1	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	その他(件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	3	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	8	34

(2) 施設利用相談

「施設利用相談」(件)		72	25	46	60	13	11	29	42	27	5	5	1	2	1	0	4	0	1	0	0	3	22	347
対応時間(分)		866	270	599	643	136	170	296	655	415	50	45	10	30	10	0	65	0	30	0	0	30	270	4,320
対応時間平均(分/件)		12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	15.4	10.0	9.0	10.0	15.0	10.0	0.0	16.3	0	30.0	0	0.0	10.0	12.3	12.4
場の提供	貸室(件)	46	11	19	34	2	3	10	19	16	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	7	167
	フリースペース(件)	2	1	1	1	2	1	5	7	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	22
	ロッカー(件)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10
	レターケース(件)	3	1	2	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12
	共同事務室(件)	2	4	1	6	2	0	1	4	5	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	28
	展示スペース(件)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	駐車場(件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	9
	備品(件)	2	0	2	3	1	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	13
	その他(件)	3	2	6	9	2	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
情報関係	PC(件)	2	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	インターネット(件)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コピー機・印刷機(件)	6	2	7	2	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	23
	チラシ・ポスター(件)	13	2	4	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	サポートセンターHP(件)	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	サポートセンター情報誌(件)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	その他(件)	2	3	1	1	1	0	1	3	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	16

(3) 市民活動相談

市民活動相談」(件)		84	163	173	215	164	139	169	154	135	16	26	19	14	14	7	19	12	5	8	10	18	168	1,564		
対応時間(分)		2,500	4,083	5,267	5,527	5,708	3,835	4,676	4,790	5,360	460	1,110	525	245	325	225	375	305	150	225	210	515	4,670	46,416		
対応時間平均(分/件)		29.8	25.0	30.4	25.7	34.8	27.6	27.7	31.1	39.7	28.7	42.7	27.6	17.5	23.2	32.1	19.7	25.4	30.0	28.1	21.0	28.6	27.8	29.7		
ホップ	団体情報の問い合わせ(件)	21	47	41	56	46	53	40	44	33	1	7	8	8	4	1	5	2	1	3	3	4	47	428		
	ボランティア相談(件)	6	16	24	35	10	13	15	4	7	1	0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	7	137		
	NPO基礎情報(件)	10	3	3	2	3	1	6	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	32		
	その他(件)	14	8	9	20	13	10	11	3	11	0	0	0	2	0	0	0	2	1	0	0	2	7	106		
ホップ計		51	74	77	113	72	77	72	51	54	2	7	10	10	5	2	5	4	3	4	3	7	62	703		
ステップ	任意団体の立ち上げ(件)	7	23	12	5	7	1	7	12	8	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	5	10	92		
	NPO法人の設立	2	2	1	2	8	4	4	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	28		
ステップ計		9	25	13	7	15	5	11	14	9	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0	1	5	12	120		
ジャンプ	団体運営	団体PR(件)	4	10	31	12	3	9	15	9	10	0	1	0	1	2	1	2	1	1	2	0	0	11	114	
		イベント運営(件)	9	25	18	38	17	18	43	19	20	8	9	3	1	2	2	2	1	0	0	0	0	28	235	
		助成金(件)	0	2	2	9	14	7	5	10	7	2	0	2	1	1	0	2	0	0	0	0	1	9	65	
		会計(件)	0	3	2	0	1	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	4	17	
		ボランティア募集(件)	0	2	1	1	0	3	2	3	0	0	1	1	0	0	2	1	2	0	0	0	0	7	19	
		人材育成(件)	1	3	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	4	11
		その他(件)	7	16	27	18	32	13	13	32	21	2	5	1	0	1	0	0	2	0	1	4	3	19	198	
		その他(件)	3	3	2	17	10	5	5	12	13	0	1	1	0	2	0	5	2	1	0	0	0	12	82	
		ジャンプ計		24	64	83	95	77	57	86	89	72	13	17	8	3	9	5	13	8	2	4	6	6	94	741

(3) 情報提供

①団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※）、パンフレット、チラシ、定款（会則）、予算書、決算書、事業計画書・報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用することができる。

今年度、ファイル数は 1,987 団体（前年度比+8%）に増加した。T S C スタッフが会議や研修会、各種イベントに参加した際に積極的に団体の情報を入手したり、各種団体との情報交換の機会を多く持つことができたため、増加率は高くなっている。

二市三町の団体情報ファイル数は、259 団体（前年度比+20%）に増加した。二市三町圏外の団体が新たに T S C や多賀城に拠点を置いて活動をはじめたり、相談対応を経て新たに取り組みを始めた団体が新たに加わったため、情報の増加につながった。

分野別の増加の特徴としては、絵本の読み聞かせや家庭文庫を中心とした本関連の団体が二市三町で立ち上がっていること、これまで活動していた団体の中でもチラシ等を作成して広くメンバーを募るようになってきたことで「文化・芸術」分野が 226 団体（前年度比+19%）となった。

LGBTQ に関連する企画が市や T S C で実施されたこと、団体情報ファイルの分野の見直しを図ってより市民が団体を探しやすいよう整理したこともあり、「人権・ジェンダー」分野の団体が 106 団体（前年度比+20%）となった。

「地縁組織」はこれまで「自治会・町内会」という分類で多賀城市内のみファイリングしていたが、多賀城市内に限らない自治会町内会、まちづくり協議会等をファイリングすることとしたため、25 団体（前年度比+127%）と大きく増加している。

次年度以降は、より多賀城の課題に合わせた団体の情報収集に力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう編集・発信し、情報の価値を高めていく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援する T S C 独自のツール。団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、T S C のウェブサイト上で公開している。平成 29 年度末現在、105 団体の団体紹介シートを公開している。

■団体情報ファイル数（単位：団体）

※二市三町：多賀城市 塩釜市 松島町 七ヶ浜町 利府町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	18	135	61	214	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	14	59	87	160	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	25	20	4	49	スポーツ振興
人権・ジェンダー	6	49	51	106	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	38	103	70	211	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	13	17	19	49	生涯学習
環境	10	98	85	193	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	44	151	114	309	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	4	21	29	54	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	7	35	61	103	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	59	118	49	226	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	2	13	5	20	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	2	26	182	210	市民活動団体支援、助成活動
その他	1	28	29	58	オンブズマン（行政監視）、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	16	6	3	25	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合 計	259	879	849	1,987	

■分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野 \ 年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
福祉	52	110	135	150	161	172	180	192	199	214
医療・保健・健康	34	72	88	103	122	137	160	168	171	160
スポーツ										49
人権・ジェンダー	20	43	55	62	75	80	85	87	88	106
子どもの育成・支援	57	109	128	155	197	212	232	245	257	211
社会教育										49
環境	32	69	84	104	131	150	168	178	183	193
まちづくり	47	112	156	202	259	285	312	338	354	309
災害救援・地域安全										54
国際交流・協力	19	53	60	65	77	85	101	102	104	103
文化・芸術	22	61	81	115	152	164	164	179	190	226
シニア	8	13	16	17	17	19	21	21	21	20
市民活動支援	47	116	129	143	151	154	185	206	209	210
その他	19	28	35	42	50	57	59	60	60	58
地域組織			6	6	6	8	9	11	11	25

※平成 29 年度より、「スポーツ・健康・医療」を「医療・保健・健康」と「スポーツ」に、
「子ども・社会教育」を「子どもの育成・支援」と「社会教育」に、
「まちづくり」を「まちづくり」と「災害救援・地域安全」に分けて集計。

■二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野 \ 年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
福祉	4	8	11	11	11	12	15	17	16	18
医療・保健・健康	3	8	9	11	14	15	17	21	22	14
スポーツ										25
人権・ジェンダー	0	0	1	1	1	1	2	3	4	6
子どもの育成・支援	6	12	13	20	28	31	37	43	46	38
社会教育										13
環境	6	8	8	9	11	11	10	11	12	10
まちづくり	8	17	20	30	41	43	34	39	43	44
災害救援・地域安全										4
国際交流・協力	5	7	8	8	9	9	8	8	8	7
文化・芸術	1	6	11	22	35	38	37	44	50	59
シニア	0	0	1	1	1	1	1	1	1	2
市民活動支援	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
地域組織			6	6	6	8	9	11	11	16

※平成 29 年度より、「スポーツ・健康・医療」を「医療・保健・健康」と「スポーツ」に、
「子ども・社会教育」を「子どもの育成・支援」と「社会教育」に、
「まちづくり」を「まちづくり」と「災害救援・地域安全」に分けて集計。

■エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）（単位：団体）

分野 \ 年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
二市三町	34	67	89	120	158	170	172	200	215	259 (20% ↑)
県内	177	411	475	567	644	691	752	794	826	879 (6% ↑)
県外	127	308	409	477	596	662	752	793	806	849 (5% ↑)
合 計	338	786	973	1,164	1,398	1,523	1,676	1,787	1,847	1,987 (8% ↑)

②ウェブサイト・ブログ・ツイッター

■ウェブサイト・ブログについて ※ウェブサイト：平成 21 年 12 月 25 日開設 ブログ：平成 20 年 7 月 19 日開設

		ウェブサイト	ブログ	
		訪問者数	訪問者数	記事数
		件	件	本
平成 20 年度			7,389	14
平成 21 年度		9,777	15,889	74
平成 22 年度		98,038	42,105	147
平成 23 年度		196,154	76,607	279
平成 24 年度		58,685	20,056	314
平成 25 年度		64,654	24,957	302
平成 26 年度		73,837	24,749	254
平成 27 年度		70,953	25,150	261
平成 28 年度		14,328	23,906	236
平成 29 年度	4 月	660	2,061	17
	5 月	718	1,972	18
	6 月	803	2,122	18
	7 月	756	3,072	19
	8 月	711	2,278	19
	9 月	696	2,210	16
	10 月	787	2,850	21
	11 月	739	2,815	23
	12 月	884	2,672	20
	1 月	616	2,288	14
	2 月	625	2,043	17
	3 月	763	2,486	23
平成 29 年度計		8,758	28,869	225

ウェブサイトは主に T S C の機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

※平成 22、23 年度は東日本震災関連の情報を発信したため、ウェブサイト・ブログともに訪問者数が急増した。

※ウェブサイト：①平成 28 年度 5 月にセキュリティ対策として訪問者数測定ソフトを変更。同一人が重複してカウントされない方法となった。②平成 29 年度 3 月は、30 日にウェブサイトを新しく切り替えたため、1 日～30 日の訪問者数を集計。

ブログ 1 記事あたりの平均訪問者数を見ると、

- ・平成 27 年度計 261 記事 平均訪問者数 96 件
- ・平成 28 年度計 236 記事 平均訪問者数 101 件
- ・平成 29 年度計 225 記事 平均訪問者数 128 件

となっており、前年度より記事数は減少しているにも関わらず平均訪問者数は増加している。ブログ訪問者の 8～9 割がブックマークによるアクセスであることから、昨年度に比べてブックマークをしている人が増えてきていると考えられる。よって、T S C 事業に対して関心を持つ市民、ブログを通じて市民活動や地域の情報を得ようとしている市民が増えていることがうかがえる。

7 月の訪問者数が増加しているのは、前年度同様「多賀城ビアサミット」のブログ記事の閲覧者が多いことによる。平成 29 年開催の記事の他、平成 27 年開催の記事も多く閲覧されていた。「ビアサミット」や「多賀城」、出演者のワード検索でのヒットが数件見受けられた。次に訪問者数の多い

10 月は、T S C 事業の「10 周年プレイベント」の告知と「雑貨市のボランティア募集」ブログが多く閲覧された。

■ツイッターについて 平成 23 年 9 月 1 日開設

ブログの更新と事業のお知らせをしている。

今年度もブログ更新や T S C 事業の告知を行い、フォロワーに対して広く、T S C の情報を発信することができた。今後は各事業とも連携し、講座やイベントの様子を発信したり、多様な地域の情報の発信に努める。

③ウェブサイトリニューアルについて

1. 目的

- ・ウェブサイト（以下、サイト）閲覧者の目的・立場に応じて、欲しい情報を見やすく・探しやすく・得やすくするため。
- ・サイトのセキュリティ強化を図るため。

2. 背景

- ・多賀城市内外のNPOや地域づくりの状況が変化中、TSCは企業などを含めた幅広い対象に向けてアプローチを行っている。サイトでもTSCの機能や地域づくりに役立つ情報を分かりやすく整理し、市民活動団体以外の主体に対しても地域づくりの情報を発信する。
- ・近年、民間団体のみならず、公的機関のサイトが不正アクセスの被害を受けることが増え、TSCのサイトも2015年5月・8月に不正アクセスによるものと思われる改ざんが起った。改ざんによる個人情報漏洩や不正ソフトウェアの感染等の被害はなかったが、今後市民の情報資産を守るためにサイトの作成と管理、緊急時の対応を専門の業者に外注する。

3. 閲覧者の想定（対象）とコンテンツ

対象	コンテンツ
①TSC利用者（定期・新規利用者など）	たがさぼとは？、たがさぼを使う、相談する
②活動者（①、NPO、これから活動を始めようと考えている方を含む市民等）	団体を探す、イベントカレンダー、お役立ち情報、事業告知、相談する、分野別情報
③各セクター（企業、学校、行政など）	たがさぼを使う、協働の地域づくり、団体を探す
④受益者	団体を探す、分野別情報
⑤各地の中間支援組織など	たがさぼとは？、たがさぼを使う

4. 現在のサイトと新しいサイトの主な変更点

	変更前	変更後
事業報告	サイト内に項目を設けて掲載。	ブログの事業報告記事へリンク。
分野別ページ		新設。「子ども」「福祉」といった分野別情報のページを作成して、団体紹介や取り組み事例の情報を整理し、欲しい情報を得やすくする。
各セクター向けページ		新設。NPO以外のセクターに対して、社会貢献や連携を促進するようなページ。今後、事例やモデルを発信予定。
情報の整理	トップページにさまざまな情報が混在。	閲覧目的、対象ごとに合った情報を整理し、発信することで、次の行動につながりやすくなる。（例：分野別ページ、他セクター向けページなど）
ブログとの連動	最新ブログへのリンクのみ。	お役立ち情報や分野別・事業報告のページにて関連記事をリンクさせ、ブログをアーカイブとして活用。

④たがさぽ文庫

たがさぽ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成 21 年 6 月 1 日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、震災関連、図書館等の公共施設の書籍といった多賀城市の動向に合わせた資料も収集している。

＜蔵書数＞

- ・ 1,096 冊（平成 30 年 3 月現在） 登録者数計 178 人

＜概要＞

- ・ 事前登録により、貸出カードを発行。
- ・ 1 人 2 冊まで、貸出期間は 2 週間。

平成 29 年度書籍貸出件数（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成 20 年度				
平成 21 年度		37	100	132
平成 22 年度		19	132	109
平成 23 年度		24	76	116
平成 24 年度		29	122	158
平成 25 年度		18	98	137
平成 26 年度		20	89	127
平成 27 年度		13	151	215
平成 28 年度		7	138	209
平成 29 年度	4 月	1	9	10
	5 月	0	4	9
	6 月	1	5	7
	7 月	1	10	15
	8 月	0	8	11
	9 月	1	7	10
	10 月	1	3	6
	11 月	2	3	4
	12 月	1	4	5
	1 月	0	1	2
	2 月	0	3	3
	3 月	3	3	5
平成 29 年度計		11	60	87



平成 29 年度は前年度と比較し、登録者数、が微増した。

新規登録者数は平成 24 年度をピークに減少傾向にあるが、イベントや講座で来館した際に活動に関連した図書を借りるために登録する利用者の姿が見られた。

貸出件数・冊数は減少傾向にある。これまで活動をはじめるために定期的に利用している利用者が多かったが、そこが一旦落ち着き減少した。今年度の貸出し傾向としては、デザイン関連やイベントのつくり方、地域コミュニティ関連の本が多かった。

また、平成 28 年に多賀城市立図書館が新しくなったが、当センターでは図書館に蔵書のない専門書の充実を図っている。

今年度は市民の関心に合わせて L G B T 関連の本や N P O が発行している絵本、人口減少による日本の課題の関する本、クラウドファンディングや活動の資金調達に関する本、企業との協働を進めるための社会課題解決に関する本を主に増やした。

次年度も地域・社会課題の可視化や解決のヒントとなる資料を揃え、たがさぽ文庫の活用を促し、今後も市民や各セクターが課題に向き合うための参考としたい。

(4) 場の提供

①共同事務室入居団体インキュベート相談／ワークスペース運用

目 的	・事務用ブースの入居を通し、「自立・自律」に向けた団体運営を後押しする。
背 景	インキュベートとは「ふ卵器」の意で、T S Cの機能の1つである事務用ブースに入居している団体に対し、入居して半年を経過した時点でインキュベート相談（個別相談）の機会を設けている。団体が入居している期間、活動や課題をヒアリングし、情報提供から継続的かつ安定した団体運営ができるようノウハウ提供を行い、「自立・自律」に向けた団体運営を後押ししている。
成果目標	・事務用ブースの入居を増やし、市民活動団体の活動を後押しすること。 ・団体の課題を顕在化させ、気づきを促し、課題解決に向けて行動を起こすこと。 ・団体とスタッフとの信頼関係を構築し、相談会以外においても互いが気軽に声がけでき、いつでも相談できる状態をつくること。
対 象	・T S C事務用ブース入居団体（インキュベート相談） ・市民活動、ボランティア活動をする団体・個人など（ワークスペース運用）
成 果	●T S Cの機能の活用と伴走型支援により団体運営力が向上した ・半年ごとのインキュベート相談や日常のコミュニケーション中で団体運営の力づけを行うことができた。特に今年度は、事務用ブースに入居していることで運営課題の整理、広報、資金といった相談に日常的に応じることができた。また、入居団体が貸室や印刷作業室を定期的に利用し、T S Cが総合的な活動拠点となった。 事務用ブース以外のT S Cの機能を広く活用してもらうことができた。 ●事務用ブースの入居が増加した ・会議室の利用をきっかけに事務用ブースを知ったり、他の利用者からの口コミにより、新たに3団体が入居した。
次年度に向けた課題	●継続入居について ・平成 30 年 5 月で入居期間が 3 年(満期)を迎える団体から、継続入居を希望する声が寄せられている。団体の「自立・自律」に向けた団体支援を継続する一方で、現在の入居期間を現状に合った形で延長できるよう、市と協議を行っている。平成 30 年 6 月からの入居募集に合わせて運用できるように、多賀城市市民活動サポートセンター条例施行規則を改定する予定。 ●団体のニーズに合った支援を行う ・相談会では、事務用ブース入居団体同士の交流会を希望する声が挙がっている。ブース入居団体の横のつながりを通じて、連携した活動が生まれることも見込まれる。団体のニーズに合った活動を行っていく。

【事業概況】

●インキュベート相談会について

入居 6 ヶ月ごとに、団体の代表者や事務局を担うスタッフと T S C スタッフとの個別面談を実施する。1 団体あたり約 1 時間程度、活動や運営の現状の把握、課題の整理、解決に向けた情報提供やアドバイスを行う。

相談内容は、事業展開の方法や広報の仕方、組織内の人材育成や合意形成、資金調達、会員・メンバーの増やし方など、今後を見据えた団体運営に関する内容が多かった。

第 1 回	日 時：平成 29 年 12 月 12 日（金）15:00～16:00 会 場：市民活動サポートセンター 302 会議室 対 象：ハッピーピース (平成 29 年 6 月入居／3 年目)
第 2 回	日 時：平成 29 年 12 月 18 日（月）17:30～18:20 会 場：市民活動サポートセンター 302 会議室 対 象：H C P (平成 29 年 6 月入居／1 年目)
第 3 回	日 時：平成 29 年 12 月 19 日（木）14:00～14:50 会 場：市民活動サポートセンター 302 会議室 対 象：多賀城イングリッシュ・サポーターズ（T E S） (平成 29 年 6 月入居／1 年目)
第 4 回	日 時：平成 29 年 12 月 21 日（木）14:00～15:30 会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室 対 象：特定非営利活動法人みやぎ生涯学習指導・支援センター (平成 28 年 6 月入居／2 年目)



事務用ブース

●ワークスペースについて

平成 27 年 12 月 1 日より開始。使用していない事務用ブースを一時的に利用できる機能を設け、N P O ・市民活動、ボランティアサークルなど、市民活動を行う団体・個人の活動を支援することが目的。チラシ・ポスターを館内、ホームページに掲載し、利用を呼びかけている。

【今年度利用実績】

- ・利用総数：6 件
- ・平均時間：132 分（1 団体あたり）
- ・使用方法：主に事務作業での利用が多かった。ブースはパーティションで仕切られているため、会計作業や資料の作成など、集中して作業に打ち込みたい団体の利用が見受けられた。

②フリースペース利用状況

●フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成 27 年 5 月から、2 階ギャラリーに Wi-Fi が設置され、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネットをすることができ、情報収集・発信が可能となった。

(利用人数などは「運営状況-利用状況集計」を参照)

○企画の利用

NPO、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用できる。

【利用目的】

- ・団体の活動を多くの人に知ってもらう
- ・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
- ・市民が集い新たなつながりを生む
- ・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える
- ・市民が地域・社会のためにアクションを起こす

○TSC事業での利用

来館者にTSCの取り組みやNPOのことを知ってもらう場合やオープンな空間づくりを行う場合は、TSC事業の会場としてフリースペースを活用している。

2 階 ギャラリー

3 階 交流サロン

●企画利用内容

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	Tagajo Teen's Talk !	iRIS	4/3	若者を中心に多賀城の魅力を広めること。若者同士の交流。	「多賀城についてどれくらい知っているか」をテーマとしたワークショップ	3 階 交流サロン	8 名
2	たがじょう IDAHO 2017「IDAHO メッセージ展 & レヅルプロジェクト出張展示」	たがじょう IDAHO 実行委員会	5/3 ~ 5/21	世界中で祝されている 5/17 が「IDAHO(アイダホ)」、日本では「多様な性に YES の日」とされていることを知ってもらい、誰もが多様な性の当事者であることの理解促進を図る。	・「IDAHO メッセージ展」 多様な性をテーマとしたメッセージを展示紹介。青森県で IDAHO アクションを続けているスクランブルエッグが出張展示。 ・「レヅルプロジェクト」 女性が好きな女性たちが作った連鶴(＝連ねた鶴)を展示。2011 年から制作した全 6 作品。	2 階 ギャラリー	5/20 実施の交流会参加者 11 名

平成 29 年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
3	多賀城中学校美術部作品展	多賀城市立多賀城中学校美術部	7/25 ～ 8/3	地域の方や学校関係者などに美術部生徒の作品を鑑賞してもらうこと。	美術部員の作品展示	2 階 ギャラリー 3 階 交流サロン	アンケート回収 100 枚程度
4	さをり体験 & 作品展	さをりひろば余暇よか	8/5 ～ 8/7	さをり織りの体験・展示を通じた普及。	・展示／教室に通う生徒の作品展示 ・体験／さをり織りワークショップ(体験料 500 円) ・販売／さをり作家による作品の販売	3 階 交流サロン	体験 10 名 見学 35 名
5	第 2 回 Tagajo Teen's Talk !	iRIS	8/12	多賀城の魅力を学生に伝えるため。	4/3 のイベントで出たキーワードをもとに、多賀城の魅力をより深めるワークショップを行う。	3 階 交流サロン	7 名
6	ELM 勇気づけセミナー	渡辺 亜希子	9/2、 9、16	ワークやシェアを通してアドラー心理学の概念を知り、人間関係等の改善をはかる。	ワークのシェア・ディスカッションを通して交流を図りながら、アドラー思想に基づいたコミュニケーションやものの見方を体験的に学ぶ。	3 階 交流サロン	—
7	ラグビー・カフェ SV2004 in 多賀城	市民スポーツボランティア SV2004	3/17	「スポーツとまちづくり 大友氏講演支援 2019 ラグビーワールドカップ 釜石広報 PR のため。	・ラグビーワールドカップ紹介パネル・ポスター展示 ・釜石支援メッセージカード依頼 ・ラグビーPR 映像 ・コーヒー、ソフトドリンク、キャンディ提供	3 階 交流サロン	のべ 50 名程度
8	あすなろ教室 創作まんがクラブ作品展	生涯学習 100 年構想実践委員会	3/20 ～ 4/14	あすなろ教室の活動を広く知ってもらうため。	平成 29 年度あすなろ教室創作まんがクラブの受講生が 1 年間クラブ内で描いた作品の展示。	3 階 交流サロン	—
						計	概算 221 名

●企画利用の様子



1. Tagajo Teen's Talk!
(iRIS)



2. たがじょう IDAHO 2017
(たがじょう IDAHO 実行委員会)



3. 多賀城中学校 美術部作品展
(多賀城市立多賀城中学校 美術部)



4. さをり体験 & 作品展
(さをりひろば 余暇よか)



5. 第2回 Tagajo Teen's Talk!
(iRIS)



7. ラグビー・カフェ SV2004 in 多賀城
(市民スポーツボランティア SV2004)



8. あすなろ教室 創作まんがクラブ作品展
(生涯学習 100 年構想実践委員会)

●T S C事業での利用の様子



10 周年プレイベント vol.1



たがさばのクリスマス雑貨市



10 周年プレイベント vol.2

(5) 他団体・他機関との連携

地域課題を解決していくためには多様な主体で連携して取り組んでいく必要がある。今年度、T S C では多賀城市の課を横断した情報交換や取り組みの場に参加した。

1) 平成 29 年度災害公営住宅関係課ミーティング

災害公営住宅に現状について、多賀城市各課・各関連機関の垣根を超えて共有し、連携して課題解決を図ることを目的に実施された。

【参加団体・機関】

地域コミュニティ課（主管）、都市計画課、介護福祉課、生活支援課
 社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会復興支えあいセンター、一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム、一般社団法人パーソナルサポートセンター、社会福祉法人宮城県社会福祉協議会震災復興支援室、宮城県サポートセンター支援事務所、株式会社サーベイリサーチセンター、一般社団法人みやぎ連携復興センター

【T S C の役割】

- ・市民によるコミュニティ形成や課題解決に関する取り組み事例の提供

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	5 月 19 日(金)	自己紹介、各住宅の情報共有
第 2 回	6 月 16 日(金)	各住宅の情報共有
第 3 回	7 月 21 日(金)	各住宅の情報共有、被災者従事者研修についての検討
第 4 回	8 月 25 日(金)	同上
第 5 回	9 月 15 日(金)	同上
第 6 回	10 月 27 日(金)	同上
第 7 回	11 月 17 日(金)	同上
第 8 回	12 月 22 日(金)	同上
研修	1 月 19 日(金)	宮城県被災者支援従事者研修 ※T S C スタッフは参加せず
第 9 回	2 月 23 日(金)	各住宅の情報共有
第 10 回	3 月 23 日(金)	各住宅の情報共有、次年度の進め方について

【成果】

- ・地域で行われているサロン活動、傾聴活動等の地域の取り組みに関して情報提供することができた。

【課題】

- ・今年度実施した自治会調査ではコミュニティ組織における運営課題や地域課題を把握した。災害公営住宅での課題は震災特有のものではなく、被災地以外の地域でも起こり得る課題であるため、調査の結果や課題解決に関する情報を次年度以降も提供していく。

2) 自然な支えあいを広げる実行委員会

地域の自然な支えあいの取り組みに価値を見出し、事例として地域に発信していくことを目的に実施された。

【参加団体・機関】

介護福祉課（主管）、社会福祉課、生涯学習課、地域コミュニティ課

社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）、市民有志（自治会長、児童民生委員等も含む）、NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター

【TSCの役割】

- ・自治会・町内会をはじめとした住民同士の支えあい事例の情報を提供する。
- ・自治会・町内会の会長や役員、若い世代の活動者が実行委員の企画する講座に参加するよう促し、すでに地域づくりに関わっている人に対して地域で支えあう意義を知ってもらう。

【実施状況】

	実施日	内容
第1回	7月25日(火)	実行委員会の趣旨説明、支えあいについての講義
第2回	7月31日(月)	各団体の活動を実行委員会で活かすための意見交換
第3回	9月4日(月)	地域の支えあいについての情報交換、企画内容の検討
第4回	10月19日(木)	地域資源を見つけるグループワーク、企画内容の検討
第1回 企画	11月24日(金)	企画名：私たちにもできる 地域の支えあい実践塾 内 容：広く市民を対象に、支えあいについての講義と身近な取り組みを出し合うワークショップを実施。
第5回	12月6日(水)	第1回企画のふりかえり、第2・3回の企画内容の検討

第 2 回 企画	12 月 18 日(月)	企画名：私たちにもできる 地域の支えあい実践塾 内 容：第 1 回企画参加者を主な対象に、身近な支えあいの 取り組みに価値付けを行い、参加者で共有する。
第 6 回	1 月 17 日(水)	第 2 回企画のふりかえり、第 3 回企画内容の検討
第 7 回	2 月 26 日(月)	第 3 回企画の進捗共有
第 3 回 企画	3 月 14 日(水)	企画名：みんなで考えよう！多賀城の地域づくり 第 1 部 私たちにもできる地域の支えあい実践塾“お宝発表会” 第 2 部 多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会 ※第 1 部は実行委員会、第 2 部は T S C の企画として実施 内 容：第 1 部は支えあいについての講義、地域の身近な支 えあいの取り組みの発表。第 2 部は自治会調査の報 告と地域課題を考えるワークの実施（自治会・町内 会の課題・取り組み事例調査の報告を参照）。
第 8 回	3 月 22 日(木)	第 3 回企画のふりかえり、次年度について

【成果】

- ・実行委員会の企画を大学生に紹介した。実際に大学生に参加してもらい地域の資源を学んでもらうとともに、企画の中に若い世代の意見を取り入れることができた。
- ・チラシづくりを T S C が主体となって行うことで、作成の過程で他実行委員と企画の目的や対象の整理をすることができた。
- ・実行委員会と T S C が連動して事業を行ったことで、地域課題の深堀と地域資源の発掘の両方の視点を持った企画を実施することができた。

【課題】

- ・高齢者が着目されがちだが、地域の支えあいには多様な年代・立場の人が互いに助け合うことが必要である。こうした多様性を担保するために、次年度以降もさまざまな主体をつないだり、情報を提供していく。

3) 観光振興事業に係るキーパーソン会議

観光に関する資源の発掘とプログラム企画を行い、経済効果につなげることを目的に実施される。

【参加団体・機関】

商工観光課（主管）、地域コミュニティ課、市民文化創造局、市長公室、管財課
 多賀城市立図書館、多賀城市観光協会、多賀城・七ヶ浜商工会、万葉まつり実行委員会、
 多賀城フェスティバル実行委員会、タガの柵、くいしん坊、一般社団法人チガノウラカゼ
 コミュニティ、理研食品株式会社、株式会社松島蒲鉾本舗、宮城県復興局

【T S C の役割】

- ・会議や企画に、観光に関わるさまざまな地域資源をつなぐ。
- ・メンバーとともにプログラムを立案する。

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	6 月 22 日 (木)	昨年度までのふりかえり、体験プログラムづくり
第 2 回	7 月 31 日 (木)	体験プログラムの発表、プログラム内容の検討
第 3 回	8 月 16 日 (水)	事業目的の再確認、プログラム内容の骨子の決定 ※T S C スタッフは参加せず
第 4 回	8 月 30 日 (水)	プログラム内容の検討
第 5 回	9 月 4 日 (月)	フィールドワーク
第 6 回	10 月 12 日 (木)	プログラム行程の確認、プログラムリハーサル
企画	10 月 21 日 (土)	企画名：観光体験モニターツアー 多賀城のれきしを学んで食べて着てみよう 内 容：古代米刈り取り体験、万葉衣装着付け体験
第 7 回	11 月 9 日 (木)	ツアーふりかえりの共有、プログラム内容の検討
チーム 打合せ	11 月 27 日 (月)	メンバーが A と B に分かれてチームごとにプログラムを検討。T S C は A チーム。
チーム 打合せ	12 月 4 日 (月)	プログラム内容の検討
チーム 打合せ	12 月 7 日 (木)	同上
チーム 打合せ	1 月 15 日 (月)	同上
チーム 打合せ	1 月 18 日 (木)	プログラムの下見
チーム 打合せ	1 月 24 日 (水)	フィールドワーク ※T S C スタッフは参加せず

チーム 打合せ	2 月 1 日 (木)	フィールドワーク
チーム 打合せ	2 月 13 日 (火)	プログラム内容の検討
A チーム 企画	2 月 17 日 (土)	企画名：昭和の暮らしを五感でめぐる旅 内 容：昔の写真と現在のまちなみを見比べながらまちを歩く。また、地域の人のお話を聞く。
B チーム 企画	2 月 24 日 (土)	企画名：プロカメラマンに学ぶ松島湾バスツアー 内 容：松島湾を巡り、カメラマンに学びながら写真を撮る。 ※催行人数に達しなかったため中止
第 8 回	3 月 1 日 (木)	ツアーのふりかえり、キーパーソン会議のふりかえり ※T S C スタッフは参加せず。

【成果】

- ・「昭和の暮らしを五感でめぐる旅」では、昔の写真やまちなみに詳しい人材を紹介することができた。

【課題】

- ・T S C が参加するにあたり、役割と提供できる情報の整理をし、T S C の強みを活かした関わり方ができるようする。

4) その他

その他、文化交流拠点間、公民館間の情報交換の場に参加した。

【参加機関・団体】

●文化交流拠点ネットワーク会議

市民文化創造局(主管)、生涯学習課、地域コミュニティ課、子育て支援課、商工観光課、多賀城市文化センター、多賀城市立図書館、多賀城市埋蔵文化財調査センター、多賀城市子育てサポートセンター

●3 公民館合同会議

生涯学習課(主管)、中央公民館、大代地区公民館、山王地区公民館、多賀城市文化センター

【T S C の役割】

- ・ T S C の取り組みを他施設へ共有する。

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回文化交流拠点 ネットワーク会議	12 月 20 日（水）	各課・各施設の事業の共有
平成 29 年度第 4 回 3 公民館合同会議	1 月 19 日（金）	各施設の今年度事業・次年度の共有 施設運営にあたっての検討事項

【成果】

- ・ 文化交流拠点ネットワーク会議では、各課・各施設の役割や事業を共有することができた。
- ・ 3 公民館合同会議では、公民館の事業や持っている地域資源を把握するとともに、T S C で持っている地域資源の情報を提供できた。また、公共施設としての在り方を共有する機会となった。

【課題】

- ・ 情報交換をもとに、互いに連携して効果的に事業を実施できるような関係性を築いていく。

I -4 事業実施状況

(1) 開館 10 周年記念事業プレイベント

目的	●開館 10 周年記念事業全体 ・開館 10 周年を機に、この 10 年の市民活動を取り巻く状況をふりかえるとともに、さまざまな主体による対話の場をつくることを通して、これからの多賀城の地域づくりにつなぐ。 ●プレイベントの目的 ・さまざまな主体でこれからの地域づくりについて対話する機会を設け、これからの地域づくりにつながるキーワード、アイディア、ヒントを見出す。 ・対話を通し、自分自身の立場から考えることで、テーマで挙げた現状・課題は他人事ではなく、自分にも関係していることだと気付くと同時に、地域をよりよくしていける一人であると気付くきっかけとする。 ・さまざまな立場や考え、課題に触れ、他の参加者の意見を聞くことで、多面的に地域をみることが出来るようになる。そして、地域の中で自分に何ができるか、どんなことをして行きたいかを考えるきっかけとする。
背景	地域づくりにおいて、「他人事」から「自分事」への意識変化を促し、市民の主体的な行動へとつなげていくことが必要である。 そこで、ゲストの話を聞き、自分自身の考えや経験を話し合うことが、テーマを自分事として捉えることへの変化を生むと考えた。また、地域づくりに必要な視点やアイディアは、対話の中にあると考え、本企画を実施する。 これまでの 10 年をふりかえりながら、これからの多賀城のこと、私たちの暮らしのことをみんなで考える。ゲストと市民とで多賀城における市民活動に関する各テーマで「これまで」と「これから」について話し合い、参加者が多賀城について考え、行動するきっかけとする。
成果目標	・地域づくりについて考え、他者と対話する市民が 40 名増える。
対象	・地域に愛着を持っている方／地域づくりに関心のある方 ・地域づくりについて他者と考えを深め合いたい方
成果	・地域づくりについて考え対話する市民が増えた（参加者 33 名／指標 40 名）。 ・さまざまな立場の人との対話を通し、多賀城のまちを多面的に見ること、地域づくりに必要な視点やキーワードを見出すことができた。また、これらの視点やキーワードを参加者で共有することができた。今後、「10 周年記念冊子」や T S C の各情報発信媒体でより多くの市民へ共有していく。 ・イベント後に参加者同士の自発的な対話が生まれ、他の参加者の活動の場へ見学に行く、ボランティア活動を始めるなど、行動につながった。
次年度に向けた課題	・参加者は活動者・行政の人が多く、企業や町内会、これから活動を始めたい人や新規の参加者がやや少なかった。 ・参加者の想いや活動に共感した人が集う機会をつくることで、より地域づくりにつながるきっかけになると思われる。次年度内容を検討する。

【事業概況】

たがじょうのミライのことをはなそう

Vol. 1 世代を超えて集う場を地域でつくるカギ

対話を通し、地域の中で安心して暮らしていくために世代を超えて集う「カギ」を探る。

日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）18:30～21:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 2 階 交流サロン

内 容：

①ゲストトーク

活動紹介、活動の中でどのような世代間交流が生まれているか、世代を超えて集う場をつくる上で大切にしていることなどを伺った。

②フロアトーク

テーマについて気になっていることや考えていることを全体で話し合った。

→不登校の子どもや就職困難な若者の居場所、学生が活躍できる機会が必要ではないか、といった声が挙がった。

③まとめ 世代を超えて集う場をつくる「カギ」だと思ったことの発表

イベントを通して感じた、世代を超えて集う「カギ（キーワード）」を一人一言で共有した。

→「行きたいな」と思った時にいつでも気軽に行ける場所、自分が自分らしく居られる場所、誰が行っても受け入れてくれる安心できる場所、好き・楽しいを持ち寄れる場所、といったカギが挙がった。

<ゲスト>

渡邊 晃さん 株式会社 season

大友みどりさん 高崎こども食堂らっこ広場

<コーディネーター>

T S C スタッフ

参加費：一般 500 円、学生 無料

参加人数：16 名



会場の様子



ゲストの大友さん（左）と渡邊さん（右）



参加者の様子

たがじょうのミライのことをはなそう

Vol. 2 多賀城をもっとおもしろくするカギ

対話を通し、多賀城のまちをもっとおもしろくするアイデアを若者も大人も一緒に考える。

日 時：平成 30 年 2 月 25 日（日）10:00～12:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 2 階 交流サロン

内 容：

①ゲストトーク

活動を始めたきっかけや想いを中心に伺った。



会場の様子

②ワーク・フロアトーク

1. まちに関することでわくわく・ドキドキすること
2. まちに関することでがっかりすること
3. 普段何をして過ごしているか

という問いを中心に、対話を行った。

→1.2の質問から多様な人から見たまちの姿について話し合った。また、3の質問を通し、自分の興味・関心とまちをおもしろくすることのつながりを発見する機会となった。

③まとめ 多賀城をもっとおもしろくする「カギ」だと思ったことの発表イベントを通して感じた、世代を超えて集う「カギ（キーワード）」を一人一言で共有した。

→活動には感謝と応援を。自分とは会話する時間を。全ては自分発、点と点をつなげること、普段の生活の中に多賀城をおもしろくするカギがある、若者に挑戦させるまち といったカギが挙がった。

<ゲスト>

木村達海さん 東北学院大学工学部 3 年（Skype での参加）

鈴木亜里紗さん iRIS 高校 3 年

<コーディネーター>

吉田忠彦さん 劇団ポトフ／史都多賀城万葉まつり実行委員会

参加費：一般 500 円、学生 無料

参加人数：17 名



コーディネーターの吉田さん(左から2番目)とゲストの鈴木さん(左から3番目)



ゲストの木村さん



ワーク・フロアトークの様子

アンケート集計結果

全 2 回／計 26 件

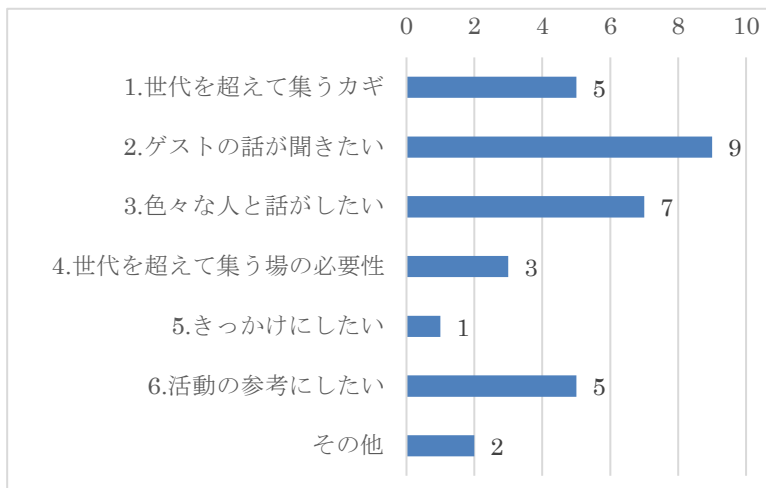
①年 代 (Vol.1、Vol.2 合計)

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	無回答
2 人	3 人	6 人	3 人	6 人	1 人	5 人

学生も参加したことから、10 代～60 代の幅広い年代が参加した。

②参加動機

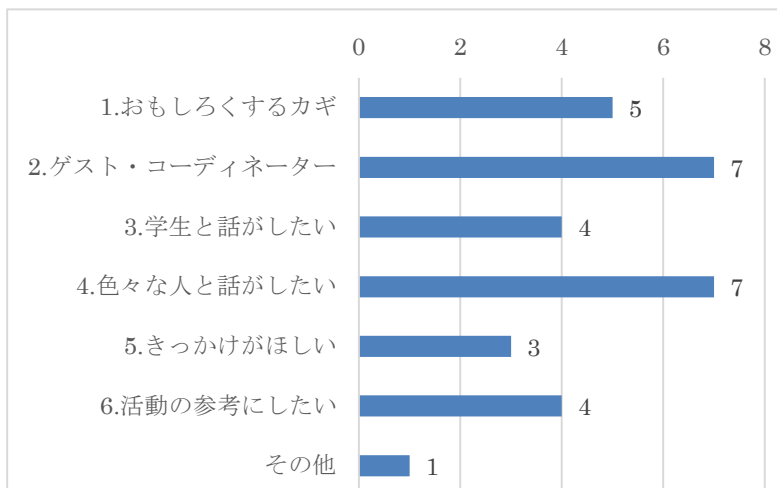
【Vol.1】回答件数 13 件（複数回答可）



【項目】

1. 世代を超えて集う場を地域でつくるカギを知りたかったから
2. ゲストの話が聞きたかったから
3. 地域のことについて、色々な人と話をし、考えたかったから
4. 世代を超えて集う場の必要性を感じているから
5. 活動を始めるきっかけ、踏み出すヒントがほしいから
6. 自身の活動にしたいかったから
7. その他

【Vol.2】回答件数 13 件（複数回答可）



【項目】

1. 多賀城をもっとおもしろくするカギを知りたかったから
2. ゲスト・コーディネーターの取り組みに関心があったから
3. 学生と地域のことについて話がしたかったから
4. 地域のことについて、色々な人と話をし、考えたかったから
5. 活動を始めるきっかけ、踏み出すヒントがほしかったから
6. 自身の活動の参考にしたいかったから
7. その他

Vol.1、2ともに「2. ゲストの話が聞きたかったから」、「3. 地域のことについて、色々な人と話をし、考えたかったから」という方が多かった。また、市民活動を行っている参加者も多かったことから、「6. 活動の参考にしたいかったから」も多い結果となった。

③感想・得たこと、今後取り組みたいことなど（主な回答を抜粋）

【Vol.1】

- ・各々の得意分野を生かして活動できる場、みんなが安心して自分の生き方を生きていける場をつくっていききたい。
- ・多賀城にこんなに熱い思いをもっている人たちがいることを知れて良かったです。「自分がたのしむこと」が大切だと改めて感じました。
- ・身近なところで、様々な活動に取り組んでいる方々がたくさんいることがわかりました。それぞれがそれぞれのやりたいこと、できることを生かして様々な場面でコラボできる場があるといいなと思いました。

【Vol. 2】

- ・地域に貢献したい！という熱いハートの若者から話を聞いて良かったです。行政としても色々考えさせられました！
- ・ゲスト、コーディネーターのお話はもちろんですが、参加者の声もきくことができ、とてもおもしろかったです。多賀城のことだけに特化してはなく良かったです。
- ・多賀城にあるたくさんの何かに思いを寄せる人、好きと思う人が集まったらおもしろいことが起こりそうな気がしました。ひとりひとりのチャレンジをみんなで応援できる、まち、ひとが輝いてこそモノも輝くまちになるといいなと思いました。

④今回のテーマにおいて、もっと知りたい、他の人と考えていきたいこと

【Vol. 1】

- ・地域のコミュニティについて
- ・世代間交流のあり方、仕組みづくり
- ・地域のイベント、どんなことをやっているか

【Vol. 2】

- ・いろいろな方とつながって、新しい動きを作り出していきたいなあと思います。
- ・やさしい町づくり（外国人、障害者、高齢者など社会的弱者に対して）
- ・多賀城をどうしていけばより良くなる、楽しくなるか
- ・どのようなボランティア団体があるか

⑤地域に関することで、他の人と話したいテーマ

【Vol. 1】

- ・引きこもりの人の支援について
- ・行き場のない人の居場所づくり
- ・多文化共生について
- ・学校に行きづらい子どもたちへの支援

【Vol. 2】

- ・まちづくり全般、自治会について
- ・自分の中の「あたりまえ」を疑ってみることについて
- ・すべての世代が参加できるイベントをつくるには？
- ・若者や、世代を超えてのまちづくり
- ・街のどこを、どう改善していくか。公衆トイレとかゴミ箱とか、道案内とか、横断歩道と黄色い旗とか
- ・町内会で若者が企画運営をするイベントを行うための方法

* 添付資料 チラシ、各回当日配布資料

(2) 課題解決のための連携モデルづくり

①地元企業のCSR調査

目的	・震災前後における地元企業の地域貢献に対する意識と状況の変化及び企業が持つリソース（資源）を把握し、「多賀城の持続可能な関係を創る」をスローガンに、企業と地域課題に取り組む NPO、自治会・町内会、行政との連携・協働につなげる。 ・調査を通じて、企業と TSC のつながり、関係性を構築する。 ・調査を通じて、企業がこの圏域での事業活動を次世代へ継承していくことをサポートする。
背景	多賀城市内の企業の事業所数は、平成 26 年度経済センサス基礎調査によると、2,117 事業所である。震災後の平成 24 年の調査から、186 事業が増加し、その内、従業員数が 4 人以下の事業所数は、1,327 事業所で、全体の 60.9% である。従業員規模の大きな企業は、それぞれが持つリソース（資源）や人材を生かして震災後の復興活動や地域貢献活動に取り組みをしているところも多いが、内容は多賀城市と連携の事業や、多賀城工場地帯連絡協議会（多工連）などの組織として地域のまつりへの参加など、身近な地域貢献の内容が多い。このような取り組みは、中小企業でも参画できるとモデルとなるが、企業自ら発信しにくいこともあり、広く知られていない状況である。 今年度は、震災前後における企業の地域貢献に対する意識と状況の変化と企業の持つ地域資源と課題を探り、地域課題に取り組む多様な主体（NPO、自治会・町内会、行政）との連携・協働の方法について考えていく。
成果目標	・多賀城市で地域貢献活動を行っている企業へヒアリングし、そのモデルを報告する。（指標：5 件／5 団体） ・企業の地域貢献活動の実態を調査する。（指標：20 件／20 団体）
対象	・多賀城市内に本社、営業所がある企業
成果	・多工連や復興パークにも協力を得ながら地域貢献調査アンケートを行った。20 社を目標としていたが、38 社からの回答を得ることができた。さらに企業の地域貢献活動の実態の調査として、21 社にヒアリングしお話を伺うことができた。この調査を通して、企業の地域貢献の状況や取り組み事例、また企業が地域貢献活動を行う上での課題を把握することができた。 ・報告会では、市内の企業や行政、NPO、市民が、活動の事例やワークを通じて想いを共有することができた。また、想いの共有によって連携やネットワークの下地となる参加者同士の交流を生み出すことができた。
次年度に向けた課題	・今年度の成果を活かし、次年度は事業の最終目標である多様なセクターによる連携の場に繋げることが重要である。今後は企業・団体との連携強化、資源・目的の共有、魅力的な企画の実施等でより具体的な内容を持続的に打ち出していく必要がある。

【事業概況】

【多賀城の地域貢献事例の調査（ヒアリング）】

- ・日時：平成 29 年 8 月 1 日（火）～9 月 30 日（土）
- ・目的：社会貢献・地域貢献活動の取り組み状況と意識と課題について詳細を伺う
- ・対象：多賀城市内に本社、営業所等がある企業で、既に地域貢献に取り組んでいる実績のある企業
- ・実施／依頼：4 社／5 社

【多賀城市内企業の地域貢献活動に関する調査(アンケート)】

- ・日時：平成 29 年 10 月 10 日(火)～11 月 6 日(月)
- ・目的：多賀城市内における地元企業・商店等の地域づくりへの参画に向けた意識調査
- ・対象：新聞等の地域情報を元に地域・社会貢献活動に取り組んでいると思われる業種の企業
- ・回収／送付数：38 社／171 社

【多賀城市内企業の地域貢献活動に関する調査(ヒアリング)】

- ・日時：平成 29 年 11 月 7 日(火)～12 月 10 日(日)
- ・対象：アンケートにご回答いただいた企業の内、ヒアリング依頼をお受けいただけた企業
- ・内容：アンケートのご回答を元に、地域・社会貢献活動の取り組みについて詳細を伺う
- ・実施／回答：21 社／38 社

※現在、調査報告書として結果をまとめている。平成 29 年度年間事業報告書では集計と簡易なまとめのみ記載。

【多賀城市内企業の地域貢献活動に関する調査(アンケート)】集計結果（全 38 社）

1) 現在、地域貢献、社会貢献に取り組んでいるか？（共通質問）

	取り組んでいる	取り組んでいない
件数	33	5
割合	87%	13%

2) 1) で『取り組んでいる』と回答した場合の質問（33 社が該当）

①地域・社会貢献活動に取り組むことで、会社が得られる効果は？（複数回答）

	地域との連携 強化	企業理念の 浸透・確認	社内の一体感 向上	広告・宣伝 効果	企業ブランドの 向上
件数	24	13	13	11	9

	復興支援に 繋がった	その他	売上・事業実績 の獲得	新規事業・商品 サービスの開発	効果なし
件数	9	7	4	2	0

②活動の実施体制はどのようになっているか？

	経営責任者	支社・支店	担当部署 担当者	その他
件数	12	10	10	2

※基本的には 1 つを選択する回答形式であるが、無回答・複数回答あり。

③活動を実施するなかで感じている課題は？（複数回答）

	マンパワー 不足	その他	取組内容の マンネリ化	コスト負担が 大きい	効果が感じ られない
件数	11	10	8	4	4

	ノウハウ不足	社内での理解が 広がらない	活動が売上・実績 に反映されない	事故・補償など のリスク管理
件数	3	2	2	1

④今後も活動を継続するか？

	継続する	成果があれば 継続を検討する	継続しない
件数	32	0	0
割合	97.0%	0	0

※回答なし：1 社

3) 1) で『取り組んでいない』と回答した場合の設問（5 社が該当）

○貴社が地域・社会貢献活動に取り組めない理由はどのようなものか？（複数回答）

	マンパワー不足	ノウハウ不足	事故・補償等の リスク管理	コスト負担が 大きい
件数	3	3	2	1

	社内外での理解 が得られない	活動の必要性を 感じていない	その他	活動が売上・実績 に反映されない
件数	1	1	1	0

4) 以下、共通質問項目（38 社からの回答）

①貴社がNPOや地域団体と連携・協力するには、どのような条件が必要か？（複数回答）

	連携・協力内容 を明確にする	NPO・地域団体が 活動を明確にする	協力案件に対し 説明・報告がし っかりしている	企画内容が魅力 的である	参加へのハード ルが低い
件数	10	7	6	6	5

	活動・協力内容 が自社事業と関 連している	自社資源が有効 活用できる	大規模の企画を 打ち出す	その他
件数	4	3	0	0

②貴社が地域・社会貢献活動に取り組むことは重要だと思うか？

	必要だ	必要ではない	どちらでもない
件数	24	0	0
割合	63.2%	0	0

※14 社は回答なし

③活動事例報告書中で関心のあるものはあったか？（複数回答）

	地域の物産の 商品開発	子どもたちへの 教育支援	地域の清掃・ 環境保全	町内会・自治会 への支援	減災の取り組み 発信
件数	8	7	7	6	5

	NPO・市民活動 への支援	地域の防犯活動 への支援	障がい者支援	その他
件数	5	3	1	1

④多賀城市市民活動サポートセンターから案内する地域貢献活動への参加に興味はあるか？

	内容により参加	どちらでも	参加したい	興味がない・不参加
件数	21	5	4	3
割合	55.3%	13.2%	10.5%	7.9%

※5 社は回答なし

⑤興味のある活動内容、具体的な活動希望はあるか？（複数回答）

	環境・清掃	まちづくり	地域安全・防犯	災害支援・減災 の取り組み	こども教育 育成
件数	15	14	12	9	9

	観光	子育て支援	地域の祭りなど への参加	高齢者支援	技術資源の提供
件数	8	8	7	7	5

	町内会・自治会 サポート	保険・医療 福祉	国際協力 フェアトレード	障がい者支援	団体・NPO 支援
件数	4	3	3	3	3

	在日外国人支援	農業振興	貧困問題	生涯学習	文化・芸術
件数	3	2	2	1	1

	男女共同参画	その他
件数	1	1

【多賀城市内企業の地域貢献活動に関する調査(ヒアリング)】集計結果 (全 21 社)

●ヒアリング結果では

①実際に取り組んでいる地域・社会貢献活動の内容を分類し、その件数を算出 (全 12 分野)。

②実際の取り組みについて、どのように関わっているかを算出 (全 7 分類)。

①地域・社会貢献活動の内容 (複数回答)

	まちづくり	環境	子ども	防災・安全
件数	20	15	12	7

	町内会支援	生涯学習	福祉・医療	NPO 支援
件数	6	6	4	3

	健康・スポーツ	国際交流・協力	文化・芸術	人権・ジェンダー
件数	2	1	1	0

②地域・社会貢献活動への関わりかた (複数回答)

	ボランティア	協賛	ノウハウ活用	寄附・寄贈
件数	21	9	6	5

	資源等提供	イベント等主催	入会(団体等)
件数	5	4	3

※資源等提供は、団体の活動場所や『子ども 110 番の家』への参加等をカウント。

●アンケート・ヒアリング結果より

- ・アンケートで地域・社会貢献活動を行っている企業の課題と、活動を実施していない企業のその理由について、どちらも『マンパワーの不足』が最も多い回答になっている。
- ・アンケートの結果では、地域・社会貢献活動で興味がある内容として『環境・清掃』、『まちづくり』の回答が多くなっている。他方、ヒアリングで実際に地域・社会貢献活動内容を伺った集計結果では『まちづくり』、『環境』の数が多い。実際に取り組んでいる企業が多いことが、興味・関心にも現れていることが伺える。
- ・ヒアリング結果から、実際に地域・社会貢献活動を行っている企業の活動への関わり方をまとめたところ、『ボランティア』が最も多くなっている。これは取り組み内容である『まちづくり』のイベント手伝いや『環境』の清掃活動において、ボランティアでの支援が多いことが要因と考えられる。

【報告会：『TSR～Tagajo Sustainable Relationship～』】

会場：PUBLIC HOUSE 多賀城

開催日時：平成 30 年 3 月 12 日（月） 14:00～17:00

来場者内訳

	総数	市内	市外	未記入
企業	30	23	7	0
団体	18	8	9	1
個人	8	4	1	3
行政	6	6	0	0
全体	62	41	17	4

※企業：株式会社、有限会社

団体：NPO、一般社団、任意団体等

企画内容

1、調査報告

2、関心のある分野に順位をつけるワークショップ

3、ゲストトーク『企業×地域の取り組み』

ゲスト：左京泰明氏

（特定非営利活動法人シブヤ大学代表理事）

聞き手：津川登昭氏

（一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ代表理事）

4、シンポジウム『多賀城の新たな貢献活動を考える』

登壇者（企業）

・斎藤孝一氏

（株式会社斎藤工務店代表取締役）

・上田隆人氏

（株式会社河北新報仙台東販売センター
営業部長兼総務部長）

・井上一氏

（株式会社井上代表取締役）

コメンテーター

・左京泰明氏

・柴田光起

（多賀城市総務部地域コミュニティ課課長）

コーディネーター

・津川登昭氏

5、懇親会・PR タイム



調査報告



ゲストトーク



シンポジウム

アンケート結果（集計数 35 通）

① 参加理由（複数回答）

	地域貢献活動に興味	TSR に関心	企業取組みに関心	自社取組みへの参考
件数	19	11	10	10

	シブヤ大学	ネットワーキング	登壇企業に関心	多賀城市への貢献意欲
件数	9	9	7	4

②企画評価

（各 5 段階評価で実施 評価は⑤が高く①が低い）

調査報告

評価	⑤	④	③	②	①
件数	6	12	12	1	0

ワーク

評価	⑤	④	③	②	①
件数	4	13	13	1	0

ゲストトーク

評価	⑤	④	③	②	①
件数	9	15	6	1	0

シンポジウム

評価	⑤	④	③	②	①
件数	7	9	11	3	0

懇親会・PR タイム

評価	⑤	④	③	②	①
件数	3	3	6	1	0

まとめ

短期間の広報にも関わらず多くの来場があり、市内の企業の取組みや連携への関心がうかがわれた。

また、企業の方の来場が約半数の 30 人、そのうち市内企業の方が約 8 割とメインターゲットにアプローチができた。同時に団体や個人の方など多様なセクターからも参加があり T S C 事業が目指す連携の場を創出する機会にもなっていた。

今後企業を中心とした連携に大きな期待が持てるが、T S C としても積極的に団体とのマッチングを図るとともに、魅力的な企画を提案し続ける必要性を感じた。

* 添付資料 調査票、チラシ、報告会配布資料

②自治会・町内会の課題・取り組み事例調査

目的	・自治会・町内会を対象に調査を実施し、多賀城市の解決すべき課題・地域資源を明らかにする。 ・明らかになった課題や資源を、地区内外や多様な主体へ共有・発信し、地域の課題解決を促す。
背景	平成 27・28 年度は「地域づくり基礎調査」事業として、市内 6 地区の自治会・町内会に対して地域課題や資源についてヒアリングを行い、自治会・町内会の運営課題や地域課題が見えてきた。 一方で、課題だけでなく、取り組みや工夫も伺うことができた。こうした取り組みに関しては地区ごとに「地域づくり新聞」の発行や情報交換会で地区内外へ共有した。 前述の「地域づくり基礎調査」によって、特定の地区における課題や取り組みの把握・発信・共有をすることはできたが、課題の深堀や分析、自治会・町内会以外の視点での解決方法の模索が充分ではなかった。今後、課題について深く考え、多様な主体によって解決に向けて進んでいくことが必要である。
成果目標	・自治会・町内会 47 地区への調査によって多賀城における地域課題と解決のための取り組みが明らかになる。さらに 3 地区に対して課題の深堀を行い、課題の本質を明らかにする。 ・地域の課題や自治会・町内会による取り組みを地区間で共有する場を設け、課題解決のためのネットワークが 1 つ以上構築される。この場においては「多様な主体による参加型課題解決の仕組みづくり」と連動し、地区間だけでなく多様な主体の参加も促す。
対象	・多賀城市内の自治会・町内会長（47 地区アンケート） ・多賀城市内の自治会・町内会長・役員・民生委員（ヒアリング）
成果	・自治会に対してアンケート調査を行い、自治会の運営課題、地域課題、地区の取り組みを把握することができた。（回収数 33／47 地区） ・アンケート調査を元にヒアリング調査を行い、課題の本質や原因を把握することができた。（3 地区） ・地域課題について考える会を行い、自治会長や役員、行政職員、地域住民が課題について深堀・共有する機会を 1 件創出することができた。また、その中で年代・性別・立場によって捉える課題が大きく違うことが明らかになり、参加者にも課題の多様性を感じてもらうことができた。
次年度に向けた課題	・今年度、自治会の運営課題を把握していく中で、自治会による地域づくりの在り方、それに伴う支援のあり方の検討も必要であることが分かった。次年度以降、市とともに検討していく。 ・本調査を多様な主体の連携につなげていくために、さらに課題の深堀と取り組みの整理をしていく必要がある。

【事業概況】

●調査

(1) アンケート調査

対象：多賀城市内の自治会長 回収数：33／47 地区（回収率：70.2%）

実施期間：平成 29 年 9 月 8 日（金）～10 月 6 日（金）

調査方法：郵送によるアンケート調査（選択・記述式）

調査テーマ：自治会の運営課題

暮らしの中の課題、気がかりな方

自治会内の部会、他団体との連携

自治会で行っている取り組み

(2) ヒアリング調査

対象：多賀城市内の自治会長・役員 実施数：3 地区

実施期間：平成 30 年 1 月 30 日（火）～2 月 8 日（木）

調査方法：当センタースタッフによる聴き取り

調査テーマ：子どもの活躍の場

若い世代の関わり

役員の担い手

ゴミ出しのルールについて

●多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会

日 時：平成 30 年 3 月 14 日（水）13:30～15:00

会 場：多賀城市民会館展示室（多賀城市文化センター内）

対 象：・多賀城市内の自治会・町内会長・役員・民生委員、社会教育振興員、スポーツ振興員。

・支え合いの事例発表会に出席された方々の中で、地域づくり（特に地域課題や取り組み事例）に興味・関心がある方。

内 容：

①自治会・町内会の課題・取り組み事例調査報告

②地域の『気になること』ランキングワークショップ

調査を元に 11 の課題をピックアップし、年代・性別ごとに分かれたグループの中で特に気になる、解決したい項目の順位をつける。

参加人数：40 名（申込 15 名 定員：50 名）



アンケート集計結果

●調査

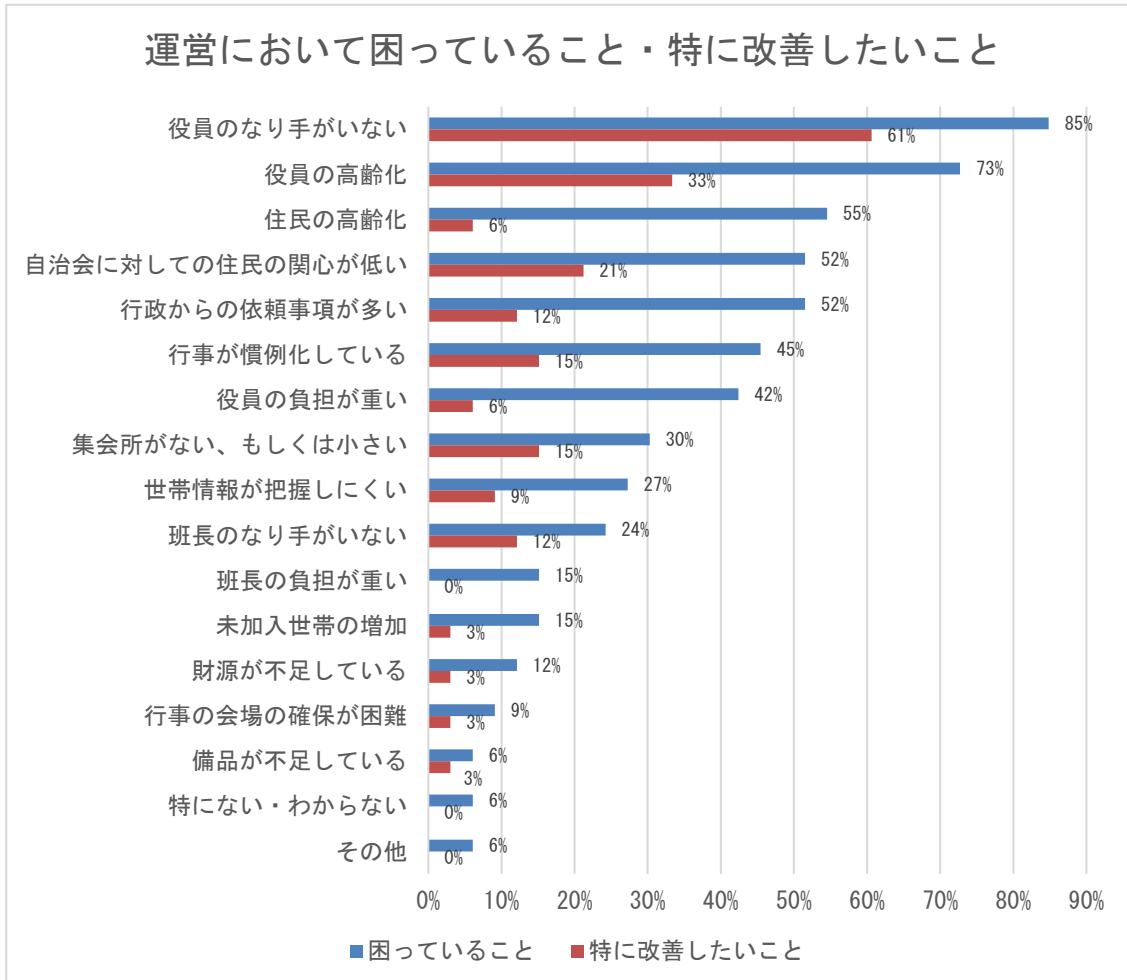
※この報告書では、調査項目の内、自治会の運営課題、地域課題の集計結果を掲載。現在、詳細な集計・分析を調査報告書としてまとめている。

今後、分析を進めていき、多様な主体での課題解決に向けての材料とする。

①運営課題について

- ・「困っていること」の割合は、該当する選択肢に○をつけた地区の割合。（複数選択）
- ・「改善したいこと」の割合は、該当する選択肢の中から、特に解決したいこととして選んだ地区の割合。（3つ選択）

運営において困っていること・特に改善したいこと



- ・「困っていること」「特に改善したいこと」割合に差があるほど、認識してはいるが課題としては捉えていない・優先事項とはしていない、と読み取ることができる。
- ・「役員のなり手がいない」は「困っていること」「特に改善したいこと」が共に高く、多賀城市全体として考えていくべき課題と言える。ただし、単純に役員のなり手を増やすことを考えるだけでなく、自治会の役割の整理、役員ではない形での住民参画を促すといった方法もある。

②地域課題について

・自由記述の中から分類。件数は、該当分類について記述した地区の数。

分類	件数	課題の内容
ゴミ集積所・ゴミ出し	7	・ゴミ集積所の維持管理(清掃等)が住民の負担となっている。 ・ゴミ集積所の場所の見直しが必要。 ・ゴミ出しのルール(分別、出す曜日)が徹底されていない。 ・不法投棄がある。
住民の交流・コミュニケーション	5	・世代に関わらず、住民同士のコミュニケーションが充分とれていない。 ・隣近所における交流の減少。 ・人付き合いがない人がどう地域とコミュニケーションをとるか。 ・転勤・転入者等の地域への関心が薄い。
高齢化	4	・高齢化による町内会(地域コミュニティ)の存続 ・高齢に伴う役員・班長の不足
集会所等の活動場所の整備	4	・集会所の建設 ・集会所の備品・設備が不十分。 ・集会所の維持管理。
空家・空き地	3	・空き家が放置された状態になっている。 ・放置された家屋や土地の影響で治安が悪化することが懸念される。
一人・二人暮らしの高齢者	3	・一人暮らしの高齢者が増加している。 ・一人暮らしの高齢者の状況が把握できていない。
パワーステーション	2	・公害発生への不安
道路・河川等の整備	2	・道路の交通安全対策が不十分。 ・河川の改修。
若い世代の地域への関わり	2	・仕事や子育てなどで忙しい中、どう若い人に地域に関わってもらうか。
行事・共同作業参加者の減少	1	公園清掃等の共同作業への住民参加が減少している。
災害時の避難	1	・介護が必要な方の避難をどうするか。 ・洪水時の災害対策本部の設置場所。
病院・買い物等の移動困難	1	・病院や買い物の場所が遠距離にある。
防犯・交通安全	1	・防犯・交通安全対策が必要。

・「ゴミ集積所・ゴミ出し」について記述した地区が一番多かった。しかし、内容としては集積所の整備やマナー等さまざまであった。ヒアリングによると、マナーに関して、そもそもゴミ出しのルールに関する情報が行き届いていないのではないか、という意見もあった。

・「住民の交流・コミュニケーション」の記述も多かったが、世代間、隣近所、転入者と交流してもらいたい層もさまざまな意見が挙がっていた。誰と誰の交流を図りたいか明確にすることも重要である。

③地域の中で気がかりな人について

・自由記述の中から分類。件数は、該当分類について記述した地区の数。

分類	件数	課題の内容
一人・二人暮らし・こもりがちな高齢者	13	・こもりがちな高齢者がいる。 ・こもりがちな高齢者の方が外に出る機会が必要。(体を動かす機会として。) ・一人暮らし、こもりがちな高齢者への声かけが必要。 ・隣近所とも交流がない方が孤独死し、死後 10 日に家族に発見された。(特定の方) ・一人暮らしの高齢者や高齢者の夫婦の買い物が心配。 ・近隣との関わりがなく、町内会からも退会した一人暮らしの高齢者がいる。(特定の方)
その他支援が必要な人への配慮	4	・自治会で対応するか、行政で対応するか、個人で対応するか困っている。また、支援が必要な人の捉え方に困っている。 ・認知症の高齢者が増えた。 ・精神障がいのある住民が増えている。 ・災害時に地区内の福祉施設入居者とどう関わるか。
高齢者以外での単身者・地域との接点を持っていない方	3	・回覧や郵便を受け取らない方がいる(特定の方) ・単身世帯が多くなってきた。
情報がつかめていない	2	・住民の入居実態が把握できていない。
区長・役員の負担	2	・現会長への批判がある。 ・何でも区長にお願いする住民がいる。

・多くの地区で「一人・二人暮らし・こもりがちな高齢者」を挙げていた。特定の人を思い浮かべた回答もあれば、全体の傾向として気になっているという回答もあった。民生委員との協力や地域行事への声掛け等の取り組みを行っているとのこと。

・「その他支援が必要な人への配慮」は件数としては多くなかったが着目すべき項目である。特別な配慮や支援が必要な場合は、専門機関やNPOとの連携が必要となってくる。

●多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会

アンケート回収数：35 枚

①年代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	無回答
3 人	4 人	4 人	2 人	8 人	9 人	2 人	3 人

- ・20 代～80 代まで幅広い年代が参加している。
- ・60 代～80 代は自治会会長・役員が多く、20 代～50 代は市職員が多い。

②所属

自治会・町内会	行政（民生委員も含む）	所属なし（無記入）	その他
10 人	15 人	7 人	3 人

- ・その他は、一般社団法人、社会福祉法人、企業。

③参加理由（複数回答可）

地域づくりに関 心がある	地域の中で気にな ることがある	自治会調査につ いて聞きたい	地域づくりにつ いて話をしたい	仕事や立場の中 で参考にしたい	その他
30	3	9	16	20	0

- ・仕事や立場の中で参考にしたいという理由での参加が多いのは、参加者の多くが自治会・町内会で役職を持っていたり、市職員として地域づくりに携わっていることが要因である。
- ・地域づくりについて話をしたいという理由が多い一方で、自治会調査について聞きたいという理由が多くない。また、今回は講師等の知識を提供するゲストを招いていない企画である。事例やノウハウ、知識を知りたいというよりも、他者と一緒に考えたい、話したいというニーズが伺える。

④関心分野

復興支援	子ども	環境	福祉	安全・安心	健康スポーツ	生涯学習	歴史・文化	その他
11	15	13	24	8	10	9	3	9

- ・その他の記述として、子育てが終わってから定年を迎えるまでの世代がどう地域に関わるか、地域の活動をどう活性化させるか、地域の人たちが集まる機会、若い世代の地域づくりへの参加などがあった。
- ・福祉に携わる仕事をしている方、自治会・町内会に携わっているため一人暮らしの高齢者について気がかりに思っている方が多く、福祉分野が高くなった。

⑤感想・学んだこと

- ・年代によって感じている課題が違うということが分かった。
※半数が上記の感想を記載していた。多様な課題の感じ方があるということを知ってもらう機会となった。
- ・課題について話し合う時間が足りなかった。
- ・多世代交流のアイディアを学ぶことができた。
- ・この企画自体も多世代が交流するきっかけになっていた。
- ・地区よっての問題も様々なので、一律に制度で決める取り組みはなじまないことも知ることができた。

⑥地域の『気になること』ランキングワークショップ結果

アンケート・ヒアリング調査からピックアップした課題

- ・ゴミ捨てのルールに関すること
- ・身近な環境美化に関すること
- ・仲間と集まる場がない
- ・子育てしている人への支援に関すること
- ・地域の情報を得る機会を増やしたい
- ・一人暮らしの高齢者が心配
- ・多世代が交流できるアイディア
- ・若い世代（20～50 代）をもっと巻き込みたい
- ・子どもへの支援に関すること
- ・地域に来て間もない人たちに関すること
- ・地域の団体同士の連携に関すること

年代・性別ごとのグループの気になること優先順位

30 代・男性グループ 1. . 身近な環境美化に関すること 2. 子どもへの支援に関すること 3. ゴミ捨てのルールに関すること	20～40 代・女性グループ 1. 地域の情報を得る機会を増やしたい 2. ゴミ捨てのルールに関すること 3. 地域に来て間もない人たちに関すること
40～50 代・男性グループ 1. 多世代が交流できるアイディア 2. 若い世代（20～50 代）を巻き込みたい 3. 地域の情報を得る機会を増やしたい	50～60 代・女性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 地域に来て間もない人たちに関すること 3. 若い世代（20～50 代）を巻き込みたい
50～60 代・男性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 多世代が交流できるアイディア 3. ゴミ捨てのルールに関すること	60 代・女性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 多世代が交流できるアイディア 3. 若い世代（20～50 代）を巻き込みたい
70 代・男性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 若い世代（20～50 代）を巻き込みたい 3. 地域の情報を得る機会を増やしたい	70 代・女性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 若い世代（20～50 代）を巻き込みたい 3. 多世代が交流できるアイディア
70～80 代・男性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 若い世代（20～50 代）を巻き込みたい 3. ゴミ捨てのルールに関すること	

- ・20 代～40 代のグループは、仕事や子育て等で地域に接する機会が少ないことから、生活者の目線に立って自身が困っていることをあげている。特に女性のグループは地域の情報を得ることができないという課題意識を持っていた。
- ・60 代以上が所属するグループは全て「一人暮らしの高齢者が心配」を 1 位に挙げている。自治会・町内会に関わることも多く、特に地域の気がかりな人の情報を把握しやすいことが要因である。
- ・50 代以上が所属するグループは、「若い世代（20～50 代）を巻き込みたい」が入っている。自治会・町内会に携わっている方たちが、地域づくりの担い手として若い世代に対して期待を寄せているようだ。

* 添付資料 調査票、チラシ、情報交換会配布資料

③多様な主体による参加型課題解決の仕組みづくり

目的	・地域の課題について、個々の団体で取り組むのではなく、多様な主体が資源（人材・ノウハウ・情報等）を持ち寄って連携して解決に取り組む下地となる場を創出する。
背景	●各主体へのアプローチ ・これまでTSCは、NPO・自治会・企業・生涯学習団体・学校・個人といった主体に対して相談対応や事業等で個別に支援を行ってきた。しかし、個々の団体だけでの地域課題の解決には限界がある。その中で昨年度は各主体とTSCの接点づくりや主体同士をつなぐことに力を入れた。 ●連携による課題解決 ・課題に対しては、多様な主体がそれぞれの強みを用いながら解決手段を講じていくことで、より地域課題の解決が促進される。そこで本事業では多様な主体が集まる場の設定やネットワーク構築を図る。今年度は第一段階として、これまで培ってきた、あるいは事業等で新たに培う各主体との接点や生まれてきたモデルを活用しながら、主体同士をつないでいくことに着手する。
成果目標	・地域課題解決のために団体やセクターを超えた連携の場が 3 件以上生まれる。（「地元企業のCSR調査」における報告会、「自治会・町内会の課題・取り組み事例調査」における情報交換会も含む）
対象	・CSRに関心のある企業 ・地域課題解決に関心のある自治会・町内会 ・課題解決に関しての専門性を持つNPO ・地域貢献に関心のある学校 ・課題に対して関わりのある行政部署
成果	・企業が地域貢献や地域に対しての想いを共有する場を 1 件創出した。（詳細は 55 ページの「地元企業のCSR調査」の報告に記載） ・自治会・町内会をはじめとした地域づくりに取り組む方が地域課題について考える場を 1 件創出した。（詳細は 62 ページ「自治会・町内会の課題・取り組み事例調査」の報告に記載） ・上記の 2 つの場に、複数のセクターの参加もあり、セクターを超えて想いを共有したり、交流することができた。
次年度に向けた課題	・企業、自治会へ各々調査を実施し、課題や取り組みの把握を行ったが、課題の分析が充分ではなかったため、課題を軸に据えた連携の場をつくることはできなかった。引き続き課題の分析を進めていく。 ・今年度のセクターを超えた連携の場は、課題や想いの共有、関係づくりが主となった。次年度以降は課題の深堀や解決策の検討、実際に課題解決を連携して実践するといった場の創出を行っていく。

(3) 人材育成

① 雑貨市

目的	・市民活動団体が販売する雑貨・ワークショップへの参加・展示を通して「市民活動」に触れ、地域の課題に気づき、知ってもらう。 ・ボランティアという切り口から「市民活動」に触れ、地域の課題に気づき、知ってもらう。
背景	今年度は市民活動に関わったことのない方、市民活動だと意識せずに活動している方などへのアプローチに力を入れ、多くの気づきを持ち帰ってもらう。 イベント型の雑貨市は、継続型の活動と比べ、初めてボランティアに参加する人にも気軽ではないかと考えた。当日の運営ボランティアとして出展団体と関わることで、来場者とは違った切り口から市民活動に触れる機会をつくる。
成果目標	・地域・社会課題を知る人を 3 割以上獲得する。(来場者アンケートより) ・ボランティアを通して、地域・社会課題を知る人を 1 割以上獲得する。(ボランティアアンケートより) ・新規来館者を 3 割以上獲得する。(来場者アンケートより。出口調査も参考)
対象	・雑貨に関心を持つ 20～40 代の女性、子どもと一緒に参加できるイベントに関心がある女性、または家族 ・学生、ボランティア活動をしてみたいと考えている方
成果	●さまざまな切り口から市民活動を知る、触れる機会を提供できた ・アンケート項目「出展団体についてわかったことや印象に残ったこと」について、215 人中 184 人 (86%) が印象に残った分野を回答し、8 割以上の方に出品団体の活動や課題について知る機会を提供できた。また、ボランティアに対しても、来場者と同様のアンケート項目で 26 人中 25 人 (96%) が同様の回答をし、多くの方が団体の活動や課題について知る機会を提供することができた。 ・アンケート項目「今後も支援につながる買い物をしたいか」について、215 人中 184 人 (86%) が「はい」と回答した。本事業を通して、身近にできる N P O との関わり方を知ってもらえた。 ・来場者はのべ 1,095 人 (30 分おきにカウント) となり、その中で新規来館者数はアンケート回答者、出口調査協力者ともにそれぞれ約 7 割となった。 ・今年度はボランティアをはじめて募集し、来場者とは別にさまざまな切り口から市民活動を知る、触れる機会を提供できた。 ●出展団体同士の交流の機会を提供できた ・事前に出展団体の決起集会を開き、そこでの交流から今後のコラボレーションを検討する団体が生まれた。
次年度に向けた課題	・来場者やボランティアなど、さまざまな参加の仕方が可能な事業であることがわかった。より多くの団体や人を巻き込めるよう検討する。 ・雑貨市の認知度が上がり、来場者が増えてきた。今後は、さらに雑貨市に関わる団体や来場者の声を拾う仕組みを検討する。

【事業概況】

●たがさぼのクリスマス雑貨市／出展団体 事前説明会・交流会 日 時：平成 29 年 11 月 10 日（金） 19:30～21:30 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室 対 象：全出展団体 内 容：雑貨市の趣旨説明、今後のスケジュール説明、団体同士の交流 参加団体数：14 団体（出展団体数：30 団体）	 交流会の様子
●たがさぼのクリスマス雑貨市／ボランティア事前説明会 日 時：平成 29 年 11 月 19 日（日） 10:30～12:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301・302 会議室 対 象：学生、ボランティアに興味関心がある人 内 容：雑貨市の趣旨説明、当日のスケジュール説明、各活動内容説明、役割ごとの打ち合わせ 参加人数：28 人（申し込み人数：30 人）	 事前説明会の様子
●市役所 1 階ロビー 展示 期 間：平成 29 年 11 月 24 日（金）～12 月 8 日（金） 会 場：多賀城市役所 1 階ロビー 内 容：雑貨市の告知、出展団体・商品の紹介、展示について、市役所を訪れる市民に向けて実施した。	 市役所 1 階ロビー展示の様子
●たがさぼのクリスマス雑貨市 日 時：平成 29 年 12 月 10 日（日） 10:30～15:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 全館 内 容：市民活動団体の雑貨・食品の販売、ワークショップ、活動紹介展示 など 参加費：無 料 定 員：制限なし／参加人数のべ 1,095 人（30 分おきにカウント） 出展団体：30 団体 ◇：展示のみの参加団体…2 階ギャラリーでの展示 ○障がい者支援・福祉 コスモスホール（多賀城市地域活動支援センター）／多賀城 デイケア R e - C U R E（こころのクリニックみどりの風）／多賀城	 3 階大会議室の様子

レインボー多賀城（社会福祉法人臥牛三敬会虹の園）／多賀城

◇パープル・アイリス／多賀城

◇さくらんぼ（社会福祉法人嶋福祉会）／多賀城

◇ココロのびのび★ブラネット／多賀城

◇ハッピーピース／多賀城

さをりひろば余暇よか／利府町

アトリエ・ソキウス（特定非営利活動法人ソキウスせんだい）／仙台

ポッケの森（社会福祉法人ぼっけコミュニティーネットワーク）／仙台

特定非営利活動法人アートワークショップすんぷちょ／仙台

コッペ（特定非営利活動法人麦の会）／仙台

リボンス手芸部Miyagi／仙台

マルベリー工房（特定非営利活動法人桑の木）／仙台

みどり工房若林（特定非営利活動法人みどり会）／仙台

おいしいパン屋さんビッグママ

（合同会社ビッグママ障害福祉サービス事業所）／仙台

○国際交流・協力

本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城

多賀城市国際交流協会・宮城県多賀城高等学校語学研究部／多賀城

特定非営利活動法人アマニ・ヤ・アフリカ／仙台

アフリークソレイユ／仙台

○子育て・子ども支援

家庭文庫「ちいさいうち」／多賀城

まんどろスマイル／多賀城

◇多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」／多賀城

○まちづくり

i R I S（アイリス）／多賀城

○動物愛護

マオメオ・キャットクラブ／仙台

○社会教育

生涯学習100年構想実践委員会／多賀城

多賀城イングリッシュ・サポーターズ／多賀城

○文化振興

多賀城将棋ラボ／多賀城

○ジェンダー

◇てんでん宮城／多賀城

ろうLGBT東北／岩手



3 階 301・302 会議室での様子



2 階ギャラリーでの展示の様子



2 階和室でのボランティアの活動の様子



1 階エントランスでのボランティアの活動の様子

アンケート集計結果

●来場者

アンケート回収枚数：215 枚

①新規来館者数：103 人（69.1%）

1F ロビーの出口調査による新規来館者数：308／448 人（68.8%）

②年 代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
21 人	18 人	39 人	67 人	35 人	24 人	11 人

・家族連れの来場が多く、親子の年代（10 代以下、30～40 代）の人数が多くなっている。

③わかったこと、印象に残ったこと ※複数回答可

商品購入 が支援に つながる こと	商品がつ くられた 経緯	国際協 力・フェア トレード	障がい者 支援・福祉	文化振興	動物愛護	子ども	ジェンダ ー・L G B T	その他
126	19	45	74	13	17	35	8	3

・その他記述：出展団体全体が盛り上がっていた、多賀城にこれだけの団体があることがわかった 等

・障がい者支援・福祉の分野の出展数が多かったため、回答が多くなっていると考えられる。

④今後も支援につながる買い物をしたいか

はい	いいえ	未記入
184	0	31

・対面販売ということもあり、商品の魅力が来場者に伝わったと考えられる。

⑤自由記述より

・地元・多賀城で活動している団体が多くあることを初めて知ったという方が多く、「もっと知りたい」や「知ることは大切だと思う」といった感想があった。

・その他、「団体との交流を楽しんだ」や「会場の雰囲気が明るく楽しい雰囲気だった、また来たい」「障がいがある人とも直接触れ合える機会だ」との感想もあった。

・手話でコミュニケーションをとる団体の様子を見て、嬉しく感じたり、話したいと感じた来場者があった。

●出展団体

アンケート回収枚数：24 枚（出展 30 団体中、出展 1 団体・展示 5 団体、を除く）

①ボランティアの起用について（出展補助）

よい	よいと思うが必要はない	必要ない	未記入
12	8	0	4

・団体の規模感、出展内容にもよって変わるようだった。今回は必要なくとも、次回以降希望を示した団体もあった。

②来場者との会話ややりとり

- ・「活動に興味を持ってくれたり、悩み相談もあった」や「団体の活動を知っていて来たという人がいた」、「普段営業をしている店舗を知っている人が多く、少しずつ認知度が高まっていると確認できた」というやりとりがあり、来場者と活動についての話をすることができたようだった。来場者から活動についての質問があるなど、話しかけられる団体もあった。
- ・はじめて出展した団体からは「とても購買意欲のある人が多く、事業所の活動の周知につながった」と感想があった。買い物がメインのイベントのため、自然と購買意欲のある方が来場するのだと考えられる。

③その他気づいたことなど

- ・「他団体の活動を知ることができた」と述べる団体がある一方で、当日は販売が忙しく交流する時間がなかったという団体もあった。

●ボランティア

アンケート回収枚数：26 枚（参加申し込み 30 人中、欠席：2 人、早退：2 人）

①参加年代（属性）

学生（高校生～大学生）	社会人
28	2

- ・主な対象だった学生に届くよう広報したため、参加者のほとんどが学生だった。

②わかったこと、印象に残ったこと ※複数回答可

商品購入 が支援に つながる こと	商品がつ くられた 経緯	国際協 力・フェア トレード	障がい者 支援・福祉	文化振興	動物愛護	子ども	ジェンダ ー・L G B T	その他
15	4	9	16	2	4	3	5	2

- ・その他記述：団体への想い、ファミリー層の来場が多かったこと
- ・来場者アンケートと同様に、出展数の多い「障がい者支援・福祉」分野について印象に残った方が多かった。

③感想・気づいたこと

- ・「普段会うことが難しい人（障がい者、L G B T 当事者など）との交流ができ、とても貴重な経験だった」や「人との交流がしたくて参加したが、達成できて満足した」など、ボランティア同士を含め、多くの人との交流ができてよかったとの感想が多かった。
- ・「団体の活動を知ることができ、ためになった」や「団体の話を聞き、自分事に考えることができた。知ったことを少しでも周囲に伝えていきたい」という感想があり、団体との交流を通して活動を知る機会を提供できた。
- ・楽しく、やりがいを感じた参加者も多く、また参加したいとの感想も多かった。

* 添付資料 チラシ、決起集会配布資料、雑貨市配布資料

②NPOきっかけ塾

目的	多様な市民にそれぞれに合った形で市民活動にふれる機会をつくることで、市民活動に対する理解促進、活動に関わるきっかけをつくる。
背景	TSCでは、市民が市民活動の知識を身につけ、理解を深め、地域づくりに関わる人材育成につなげることを目的とした「NPOいちから塾」を実施してきた。また、「本」や「雑貨」などを切り口とした講座、子育てや転入者など同じ立場の人が想いや情報を共有できる講座を実施し、活動に関心を持っていない方やこれから始めてみたいという方が市民活動に関わる機会を創出してきた。 今年度はテーマを定めた講座を実施することで同じ立場の人同士で想いを共有し、活動のきっかけとする。また、地域のイベントに出展し、市民活動に関する絵本の展示や読み聞かせ、ワークショップなどを「出前講座」として実施することで市民活動を広く知ってもらうことを目指す。
成果目標	- 参加者同士や参加者以外の人材がつながり、課題解決を担うコミュニティが2件生まれる。 - 市民活動について理解を深め、自身の関心ごとに気付くことで課題解決を担う人材が2名生まれる。 - TSCの講座以外にも市民が集まる場で市民活動に触れる機会をつくることで200名の市民が市民活動について知る。
対象	- 地域のために何か始めたいと思っている方。 - テーマには関心があるが、市民活動には関わりがない市民。 - すでに活動はしているが、市民活動やボランティアの理解が不足している方やさらに活動を広げていきたいと考えている方。 - 社会貢献の視点を持った人材を育成したいと思っている企業や学校。スキルや経験を地域に還元したい生涯学習団体や町内会など。 - 市民活動やボランティアに関心があるが、TSCに来館しない市民。
成果	- クリスマス雑貨市等、次の活動の場を用意していたこともあり、課題解決につながるアクションを起こした人が10名生まれた。 - 絵本展の参加者は4回合計221名。自身の活動に活かしたり、NPOに初めて触れた人がいた。絵本をきっかけにNPOや社会課題を知ってもらえた。 - 学生向けの講座を初めて企画。高校・大学との関係を構築することができた。雑貨市ボランティア募集の際につながりを活かして広報をすることもでき、事業間で連携し学生が市民活動に関わるきっかけをつくることができた。
次年度に向けた課題	- コミュニティ創出に対するアプローチが充分ではなかったが、参加者の個別アプローチで活動につながった。次年度は参加者が次の行動を起こすことにつながるようなアプローチに重点を置く。 - 今後は、活動者や活動に関心のある人たちだけでなく他セクターに対しても地域づくりへの理解を深めていく必要がある。出前講座等を増やし、特に企業へもアプローチしていく。

【事業概況】

●NPOいちから塾について

日 時：平成 29 年 7 月 23 日（日） 10:00～12:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室

参加人数：6 名

①開始あいさつ

②NPOいちから塾

- ・NPOの成り立ちやその仕組み
- ・NPOとボランティアの違い

③たがさぼガイドツアー

- ・たがさぼの活用方法を紹介

④ワーク

- ・あなたの興味関心はどこに？チラシを用いたワーク

⑤交流タイム

- ・参加者同士の交流を通して想いを共有しよう

⑥質問、まとめ、アンケート

●テーマ別きっかけ塾について

NPOの基礎を学び、対象に合わせてのワークを実施。（自分自身を見つめなおし、自分にできること、好きなことをボランティアや地域に活かすポイントを探すワーク）

第1回「やってみようボランティア」

目 的：ボランティアを始めることの敷居を下げ、「自分にもできそう」という気持ちを持つ。

ボランティアや市民活動を始めるきっかけを生む。

学生同士がつながり、今後活動を始めることの関係性を生む。

対 象：高校生、大学生

日 時：平成 29 年 10 月 29 日（日） 13:00～15:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

参加人数：8 名

ゲスト：東北学院大学災害ボランティアステーション

佐藤沙耶さん

多賀城高等学校 3 年生

佐藤千咲さん 秋山美温さん

内 容：ゲストからボランティア体験を聞く

自分の好きな事、できる事を探すワークを実施



講座の様子。活動している団体の紹介



たがさぼガイドツアーの様子



グループワークの様子

第 2 回「55 歳から考える人生ギアチェンジ講座」

目 的：既活動者の事例や活躍の形、地域との関わり方を知ること、退職後の活動のイメージを具体的に持てるようになる。

自身のスキルや興味関心を整理すること、それに対して講師・T S C が地域での活動の仕方を提案することで、自分が地域で活動するイメージを持てるようになる。

対 象：退職後、子育て後のこれからの人生を考えている 55 歳以上の男女

日 時：平成 29 年 12 月 17 日（日）9：30～12：30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室

参加人数：9 名

アドバイザー：仙台市市民活動サポートセンター

シニア活動アドバイザー 小林正夫さん

ゲスト：生涯学習 100 年構想実践委員会

渡辺敬治さん

多賀城市国際交流協会

櫻井道子さん

内 容：ゲストから退職してからの活動のお話を聞く

自分の興味関心、これまでの経験を見つめ直すワークを実施



ゲストの渡辺さん(右)と櫻井さん(中央)

第 3 回 「脱！仕事人間！あなたの好きをやりがいに」

目 的：既活動者の事例や活躍の形、地域との関わり方を知ること、仕事をしながら活動するイメージを具体的に持てるようになること

対 象：現役世代の男女

日 時：平成 30 年 3 月 8 日(木) 19:00～21:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室

参加人数：10 人

ゲスト：特定非営利活動法人ファザリング・ジャパン東北

村松稔さん

パープル・アイリス代表

石塚亜紀子さん

内 容：ゲストの仕事以外のやりがいについてお話を聞く

好きな事、やりたい事について話し合い、ゲストからアドバイスをもらう



ゲストを囲んでフリーストークタイム

●出前いちから塾について

地域で開催されるイベントに合わせて「NPO絵本展」を出展し、市民活動に関する絵本の展示や読み聞かせを通して市民活動を広く知ってもらう。

学校・企業などの研修・勉強会に出向き、NPOに関する講座を開催。

絵本展①「つるがやじどうかん第43回こどもまつり」

日 時：平成 29 年 5 月 20 日（土） 9：30～11：30

会 場：鶴ヶ谷児童館

参加人数：子ども 32 名 大人 15 名

主 催：多賀城市鶴ヶ谷児童館（運営：特定非営利活動法人 MIYAGI 子どもネットワーク）

絵本展②「第 29 回多賀城跡あやめまつり」

日 時：平成 29 年 6 月 25 日（日） 10：00～16：00

会 場：多賀城跡あやめ園

参加人数：子ども 16 名 大人 40 名

主 催：多賀城跡あやめまつり実行委員会

絵本展③「第 3 回シオーモ絵本まつり」

日 時：平成 29 年 10 月 8 日（日） 10：00～16：30

※展示は 10/3（火）～8（日）の実施

会 場：ふれあいエスブ塩竈

参加人数：子ども 20 名 大人 31 名

主 催：シオーモ絵本まつり実行委員会

絵本展④「しおがま絵本村あきまつり 2017」

日 時：平成 29 年 10 月 15 日（日） 10：00～16：00

会 場：塩竈市杉村惇美術館

参加人数：子ども 17 名 大人 50 名

主 催：しおがま絵本村

その他「社会人講話」

日 時：平成 29 年 11 月 14 日（火） 13：20～16：10

会 場：宮城県多賀城高等学校

参加人数：1 年生 11 名 （1 回目/5 名、2 回目/6 名）

講 師：スタッフ渡辺

テーマ：NPOで働くということ

主 催：特定非営利活動法人ハーベスト

※地域の大人が若者へ自らの生き方・働き方を語るにより若者自身が主体的に生き方を考えるきっかけをつくる場として実施しているセミナー。



多賀城跡あやめまつり

高校生団体 iRIS と合同出展



第 3 回シオーモ絵本まつり



しおがま絵本村あきまつり



多賀城高校キャリアセミナーの様子

アンケート集計結果

●参加者分析全 4 回 参加者 33 名うち回収枚数 28 枚（※出前いちから塾は除く。アンケートは実施せず）

①年代（アンケートで年齢の項目は 1 回目および 2 回目のみ。申込時の情報から集計。）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	無回答
2 名	5 名	2 名	3 名	9 名	4 名	8 名

・退職後の地域での活躍の場を求める 50 代以上の参加者が多くみられた（55 歳からの人生ギアチェンジ講座）

②男女別（アンケートの他申込書から集計。）

男 性	女 性	合 計
17 名	16 名	33 名

・パパ、ママなどの男女に限定したテーマではなかったため男女比がほぼ同数となった。

③住所（アンケートの他申込書から集計。）

多賀城市	塩釜市	利府町	七ヶ浜町	松島町	仙台市	その他
19 名	0 名	1 名	0 名	2 名	9 名	2 名

・多賀城市内の方の参加が最も多く、多賀城で活動を始めるときかけにつながる事が期待できる。

④この講座をどこで知ったか

個別勧誘	HP、SNS	広報多賀城	チラシ	tag	新聞	その他
15 名	1 名	1 名	5 名	0 名	0 名	6 名

・雑貨市ボランティア参加者などスタッフによる個別勧誘による参加者が多かった。

⑤講座理解度（NPO ・ボランティアの理解度を計ったのはいちから塾と学生向けきかけ塾の 2 回のみ。）

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	理解度 1	未記入	平均点
11 名	2 名	0 名	0 名	0 名	0 名	4.84

・参加者全員の理解度は 4 以上で講座の理解度は高かった。

⑥講座の感想など

○いちから塾、きかけ塾

・NPO の理念、NPO の目指すところが、研修できてとても勉強になりました。

・子ども食堂を含めた子ども支援について始めてみたい。

・NPO の仕組みやまた数多くの団体を知ることができました。

・庭の手入れや買物代行やおじいさん、おばあさんなど一人暮らしをされている方の役に立ちたい、困っている方の役に立ちたいと願っております。

・高校生でボランティアに興味があり、実際に行動を起こしている人の存在を知った。

- ・ゲストが紹介していた足湯ボランティアをやってみたい。
- ・自分の興味・関心、生かせそうなことを整理することができました。
- ・地域との関わり方は多種多様にあることがわかった。
- ・自分のためにまずやってみる。
- ・モチベーションの高い方がの話はとてもためになります。
- ・「何かはじめたい」方にとって、たがさぼ文庫や tag の紹介はとてもいいと思います。
- ・ゲストの地域に対する熱意に大いに感心させられました。

○出前いちから塾

●NPO 絵本展

- ・「西部児童館でもやってほしい。」という声があった。
- ・「どうやって買うんですか?」という質問が多かった。
- ・「NPO が絵本を作っているとは知らなかった」との声があった。
- ・「点字絵本に興味があり、取り組んでみたい」と考えている方がいた。

●社会人講話（生徒からの感想一部抜粋）

- ・NPO って国際的な取り組みだと思っていましたが、話を聞いて身近にある取り組みもたくさんあるということが分かりました。
- ・すべての人が活躍できる社会という言葉が印象に残った。これは自分の好きな事、得意な事を活かしてそれを自分の仕事等につなげることで全ての人が輝く社会を目指せるんだと思った。
- ・地域や社会に関心を持って困りごとなどがあったら、自分から進んで手伝おうと思った。

* 添付資料 チラシ、各回当日配布資料

③TAGAJO Future Labo

目的	●「何かしたい！」想いを持つ受講生が実現までの道筋やプランを考える。 ・何をすればよいか分からないという人に“やれること”を追求してもらう。 ・スキルを持つ人がそれを地域や社会で活かせる方法を探る。 ●交流し刺激し合う場を創出する。 ・受講生同士、またOB及び地域の既活動者が交流できる場をつくり、相互に刺激し支え合う環境をつくることで想いの実現性を高めるとともに、多賀城やその周辺地域の市民活動の一層の活性化を目指す。 ●上記を達成することで自らの想いや考えをかたちにし、市民が主体となった地域づくりに取り組む人材を育ててゆく。
背景	過去 2 年間の実践から、受講生の「何かしたい！」「自分のスキルを地域で活かしたい！」という想いを引き出し、アクションにつながった例が複数あり、T F L のプログラムは総じて効果的であったと考える。 昨年度はOBが聴講者として参加する時もあり、現役受講生や講師とのつながりづくりが生まれた。今年度も継続し、受講生及びOB、講師などの協力者のつながりをさらに強め、想いの後押しやコミュニティ内での協力などが互いにできるようなサイクルを作り出したいと考えている。 今年度もこれまでのプログラムを継承する。その上で、受講生が想いや考えを言葉にして、それに対して他の受講生などが励まし・共感やアドバイスをする機会を増やすことで、想いをかたちにするサポートを行いたいと考える。
成果目標	・受講者の半数が発表会で地域の人たちに想いを発信する。 ・受講者の中の 1 割が自分の想いを達成するため、活動を継続する。 ・受講者同士のつながりが講座後も何らかの形で続いている。
対象	・「何かをしたい！」と思っているが、その「何か」がまだ定まっていない方。 ・やりたいことは見えているが、具体的な実現の方法が分からないという方。 ・地域をより良くするため、自分自身が何かしたいと考えている方。
成果	・受講生 13 名中、5 名がマイアプローチ発表会で想いやプランを発表できた。 ・受講生中、アクションを起こしている人が 6 名、起こせそうな人が 1 名いる。 ・受講生 2 名、OB 2 名が今年度 T S C 講座においてゲスト講師を務めた。活動のモデルとなる人材も本事業から輩出されている。 ・今年は受講生の年代が幅広かったが、OBを含めたコミュニティがうまくでき、互いに想いを話せる環境づくりができた。 ・発表会では、活動者、企業、行政も交えて想いを共有することができた。
次年度に向けた課題	・今年度は既活動者の受講が多く、活動や仕事との日程重複も多かったことなどから、講座の出席率はあまり高くなかった。より多くの人を受講生に応募したり、参加回数を増やすために講座開催日や時間帯を再度考えていく。 ・一歩目を踏み出した受講生が活動を発展していく上で、活動資金や場所、仲間づくりなどが壁になるケースが出てきている。そのため、アドバイスや情報の入手・提供やサポートなどの体制を T S C 全体で考える必要がある。

【事業概況】

●講座タイトル

TAGAJO Future Labo 3rd season ～多賀城未来実験室～（全 7 回連続講座、以下 TFL3）

●実施概要

本事業は、平成 29 年度で 3 年目となる継続事業である。内容は、これまで同様の連続講座（今年度は 7 回）を通し、受講生の「何かしたい」「自分の特技を地域で活かしたい」などの想いをふくらませ、やりたいことをカタチにしているものである。また、受講生同士及びOBや既活動者との交流を通して、「何かやりたい・やっている」人たちのつながりを強める。

具体的な内容は以下のとおり。

○講座の内容

- ・オリジナルのワークシートを用いた【想いを整理するワークショップ】
 - ・既活動者の元に足を運び、現場の臨場感を受けながら活動の話を伺う【エクスカッション（体験型見学）】
 - ・さまざまな意見をもらい、想いを更に整理しながら、受講生同士で共感を得るための【ディスカッション】
 - ・受講生の想いや考えを広く発信し、人や地域との新たなつながりをつくるための【マイアプローチ発表会】
- 上記の要素を盛り込み、7 回連続講座のプログラムを組んだ。

○プログラムアドバイザー

阿部結悟さん（一般社団法人ふらっとーほく 代表理事）

全 7 回中 5 回（第 1 回、第 3 回、第 4 回、第 6 回、第 7 回）に参加いただき、主に事例の紹介及び受講生の想いや考え、プランを外部の目で見てもアドバイスをいただいた。

○参加費／無料

○事前説明会／参加者 0 名

○本講座（全 7 回）／受講生 13 名（定員 10 名）



受講生募集のチラシ

●各回の講座概要

○第 1 回「想いを整理するワークショップ&受講生同士のディスカッション」

- ・日 時：平成 29 年 7 月 15 日（土）13:00～17:00
- ・会 場：市民活動サポートセンター 101 会議室
- ・ゲスト：阿部結悟さん（一般社団法人ふらっとーほく 代表理事）
- ・参 加：受講生 9 名、OB1 名
- ・主要内容：受講生の想いを整理し、受講生同士で互いに話をすることで思考を深めるとともに関係性を構築する。

①ゲストトーク（30 分）

②想いを整理するワークショップ（100 分）

- ・「想いを整理するワークシート」への記入（個人ワーク）。
- ・インタビュー及びディスカッション（グループワーク）。

③全体ディスカッション（自己紹介と考えたことの発表と質疑）（80 分）

- ・ワークシートに書いた内容をもとに受講者全員が現在の想いを発表した。



プログラムアドバイザーの阿部さん



グループワークの様子

○第 2 回「OB・OG の話を聞こう」

- ・日 時：平成 29 年 8 月 19 日（土）14:00～16:30
- ・会 場：市民活動サポートセンター 101 会議室
- ・ゲスト：石塚亜紀子さん（TFL1 期生）、
渡辺亜希子さん、小畑恒子さん（TFL2 期生）
- ・参 加：受講生 9 名、OB 4 名
- ・主な内容：OB からお話を通して今後の講座や活動に向けてイメージを描くとともに、今回が初参加となる受講生に想いや取り組みたいことを発表する。

①ゲストトーク（OB3 名）及びグループディスカッション（60 分）

- ・OB から、TFL を受講したきっかけや受講中の様子、その後の活動について話してもらった。
- ・3 つのグループに分かれての質疑応答やフリートーク（メンバーを入れ替えて 2 回実施）。

②全体ディスカッション（60 分）

- ・今回初参加の方はワークシートを元に現在の想いを発表した。
- ・前回も参加した方は、第 1 回以降のアクションや近況を報告した。



OB のお話



全体ディスカッションの様子

○第 3 回「一歩先行く地域のパイオニアへエクスカーション」

- ・日 時：平成 29 年 9 月 16 日（土）13:00～16:30
- ・会 場：海商の館 旧亀井邸（塩釜市）
- ・ゲスト：清水冬音さん（森のようちえん虹の森）
吉永有希さん（塩ハウス）
- ・参 加：受講生 8 名、OB 2 名
- ・主な内容：ゲストからお話と、受講生の想いや取り組みに関してアドバイスをいただき、想いをかたちにする参考にする。

①ゲストトーク（50 分×2）

- ・活動をはじめたきっかけや現在の活動、今後取り組みたいことなどの紹介。

②グループディスカッション（60 分）

- ・エクスカーションの感想の共有、質疑応答。
- ・受講生のここ 2 ヶ月のアクションの共有。

③課題ワークシート（Vol.2）についての説明（10 分）



ゲストの清水さん



ゲストの吉永さん



グループディスカッションの様子

○第4回「TFL×『こ・あきない塾』のクロスディスカッション」

- ・日 時：平成 29 年 10 月 21 日（土）13:30～16:30
- ・会 場：「tsumiki」利府町まち・ひと・しごと創造ステーション（利府町）
- ・参 加：受講生 4 名、OB1 名、「こ・あきない塾」受講生 3 名
- ・主な内容：「tsumiki」の講座「こ・あきない塾」との合同ゼミ。

①参加者の想いやプランの発表とディスカッション（120 分）

- ・TFL と「こ・あきない塾」の受講生が互いに想いやプランを発表し合い、感想やアドバイスなどを交換し合った。



発表に対してアドバイスを受ける

○第5回「やりたいことをさらに深めるディスカッション」

- ・日 時：平成 29 年 11 月 18 日（土）14:00～16:30
- ・会 場：市民活動サポートセンター 101 会議室
- ・参 加：受講生 4 名
- ・主な内容：これまでの講座で学んだことをもとに深めた想いやプランを発表し、アドバイスを受ける。

①受講生の想いやプランの発表とディスカッション（100 分）

- ・想いやプランだけでなく、すでに行った取り組みなども発表してもらった。



想いやプランの発表

○第6回「エクスカーション&自分のプランをかたちづくる」

- ・日 時：平成 29 年 12 月 16 日（土）13:30～17:00
- ・会 場：Art Cafe Bar SEASAW（七ヶ浜町）
- ・ゲスト：久保田靖朗さん（合同会社 flur 代表）
- ・参 加：受講生 6 名、OB1 名
- ・主な内容：ゲストからお話と、受講生の想いや取り組みに関してアドバイスをいただき、想いをかたちにする参考にする。

①ゲストトーク（40 分）

- ・活動をはじめたきっかけや現在の活動、今後取り組みたいことなどの紹介

②受講生の想いやプランの発表とディスカッション（100 分）

- ・発表したプランに対して、プログラムアドバイザー、ゲストや他の受講生からアドバイスや感想を話してもらった。

③「マイアプローチ発表会」に向けての説明（10 分）



ゲストの久保田さん



自分の想いやプランを発表



ディスカッションの様子

○第7回「マイアプローチ発表会」

- ・日 時：平成 30 年 1 月 20 日（土）13:30～17:30
- ・会 場：市民活動サポートセンター 大会議室
- ・ゲスト：松村正子さん（community cafe&guided tour タガの柵 代表）
- ・参 加：受講生 7 名、OB5 名、一般聴講 21 名
- ・発 表：4 名（その他、欠席だったが事前に資料を提出した受講生 1 名）
- ・主な内容：受講生が講座を通して見つけた「何かしたい！」という想いを「マイアプローチ」として広く発信する。発表会は一般にも公開し、「受講生の想いを聞いてみたい」という市民を「聴講生」として募集する。



発表会のチラシ

①ゲストトーク（40 分）

- ・活動をはじめたきっかけや現在の活動、今後取り組みたいことや活動を行う上で大事にしていることなどの紹介。

②受講生のマイアプローチ発表（80 分）

- ・発表方法は受講生に一任。
- ・当日欠席で事前に資料を提出した受講生の発表は、TSC スタッフが代理で行った。
- ・受講生一人の発表が終わるたびに、プログラムアドバイザーとゲストから感想やアドバイスをいただいた。
- ・一般聴講参加者はコメントシートに感想や励まし、アドバイスを記入し、受講生に手渡した。

③グループディスカッション（25 分）

- ・「想いを整理するワークシート」への記入（個人ワーク）。
- ・インタビュー及びディスカッション（グループワーク）。

④プログラムアドバイザーからの総評（10 分）

⑤交流会（60 分）

- ・受講生、ゲスト、プログラムアドバイザーや聴講参加者を交えた交流の時間。
- ・軽食として、TFL2 期生の長牛知可子さんが立ち上げた「RIKKA MARKET」のお菓子を出した。



ゲストの松村さん



受講生のマイアプローチの発表



阿部さんから発表へのコメント



グループディスカッションの様子



交流会の様子

●受講者の「マイアプローチ」(やりたいこと)の概略

①「清水沢東こどもカフェ」

これまで子どもたちのために活動してきた経験を活かした、子どもたちが安心して過ごせる場づくり。

②「被災地空き地活用プロジェクト」

震災後各地にできた空き地を、スポーツやちょっとした運動ができるスペースとして活用できないか。

③「まちづくりの現場から」

これまで各地でまちづくりに関わって考えた、まちづくりに必要なもの。

④「共生社会の具現化」

仕事での取り組みを活かしながら、障がいのあるなしや年代に関係なく集える場をつくりたい。

⑤「健幸活動カフェ」

地域の人たちに健康に生活してほしい～そのために、それぞれの人にあった運動ができる場を。

参加者の状況分析

○「TAGAJ0 Future Labo 3rd season」受講者(13名)の傾向

◆性 別

男 性	女 性	合 計
5 名	8 名	13 名

・前年度は女性の受講がほとんどだった。今年度は男性の受講も増えたが、割合としては前年度同様女性の受講が多かった。

◆年 代

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
2 名	2 名	0 名	2 名	4 名	2 名	1 名

・今年度は、相談対応等に継続的に応じてきた学生(高校生・大学生)に呼びかけを行ったこともあり、10代・20代の学生の参加が多かった。また、50代以上の受講も多くあった。

◆住 所

多賀城市	七ヶ浜町	塩釜市	仙台市	美里町
8 名	1 名	2 名	1 名	1 名

・多賀城市在住の受講生が最も多かった。美里町在住の受講生は、勤務地は多賀城市内。

◆TFL3 開始時点での地域での活動状況

活動している	以前活動していた	活動したことがない
8 名	1 名	4 名

・以前活動していた方を含め、すでに何らかの活動に取り組んでいる受講生が多かった。

◆講座への出席状況

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回
9 名	9 名	8 名	4 名	4 名	6 名	7 名 (+1)

・第 3 回のあとに、仕事や活動が多忙とのことで 1 名から休講の申し入れがあった(第 7 回には参加した)。

・第 7 回の「マイアプローチ発表会」では 4 名の受講生が直接発表し、3 名が発表には至らなかったが参加した。また、事前に資料を提出した受講生 1 名が当日欠席だったため TSC スタッフが資料を代読する形で発表を行った。

◆受講しての感想

- ・漠然と持っていた想いを、話したり紙に書くことで言葉にすることができてよかった。
- ・一歩踏み出すきっかけをつくることができた。
- ・これまで、仕事や家のこと以外で「自分が何かやる」ということを考えたことがなかったが、あらためて考える機会となった。
- ・世代を超えていろんな人と話したり、想いやプランについて聞いてもらったことで、互いの交流ができた。

○第 7 回「マイアプローチ発表会」一般聴講参加者の傾向 ※聴講参加者（OB 含む）26 名中アンケート回収 16 名

◆年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
3 名	4 名	5 名	3 名	1 名

- ・30～40 代の参加者が多くなっている傾向が見られる。

◆満足度（5 段階評価）

5（満足）	4	3（普通）	2	1（不満）	平均
13 名	2 名	1 名	0 名	0 名	4.8

- ・アンケートを提出いただいた、ほとんどの方から満足であるとの評価をいただいた。

◆発表会に関するご意見・ご感想

- ・より多くの市民の方々に発表者の取り組みを知ってもらえればと思う。
- ・発表したみなさんの、今後が楽しみです！
- ・ぜひ、「何かやりたい」という想いを実現できる場が多くあれば良いと思いました。
- ・発表者の想いを聞けて刺激になりました。
- ・はじめて参加させていただきましたが、自分がイメージしていたよりもさまざまな年代の方々が参加されていて良い刺激になりました。
- ・昨年度も参加させていただきました。発表後のグループワークがとても良かったです。参加者同士で話しをすることで、そこからつながりができると感じました。
- ・いろんな方の「やりたい」「やってみたい」をうまく引き出していてステキだと思いました。
- ・来年度、TFL4 を期待しています。
- ・TFL3 期生の発表会、私もまた原点に戻り次の何かを求めています。これからも TFL の継続と発展を願っています。

* 添付資料 チラシ、各回当日配付資料

(4) 情報発信強化

①月刊フリーペーパー「tag」発行

目的	・「tag」による情報発信を通して、より多くの市民（特に無関心層・潜在層）に市民活動やT S Cについて知ってもらい、関わるきっかけをつくる。 ・地域の取り組みを発信・蓄積することで、地域で活動する人材の発掘やT S C及び団体との連携先の開拓を目指す。 ・市民活動のほか、企業などによる地域づくりに関する取り組み事例、セクターを超えた連携事例をモデルとして発信し、N P Oセクター以外の主体も地域づくりに関わるきっかけをつくる。
背景	これまでの成果として、掲載記事から関心のある分野の情報の入手・自分たちの活動に活かす例や、「tag」を見てT S Cの講座や掲載団体の活動に参加した事例などが挙げられる。また、掲載団体が自団体のイベントで該当号を配付することで参加者にT S Cや「tag」のことを知ってもらえたという効果もあった。 しかしそれでも、市民のN P Oや市民活動への認知度や関心度は高いとは必ずしも言えない。そこで、「tag」の特性である目を惹くデザインを活かすとともに、市民の関心ごとと踏まえた記事を掲載することで、より多くの市民が「tag」にふれるようになるのではないかと考えた。 また今年度は、N P O以外のセクターもより地域づくりに参画できるよう、「地元企業のC S R調査事業」から見えてきた企業の取り組みやセクターを超えた連携の取り組みの発信にも力を入れていく。
成果目標	・「tag」を通して市民活動や地域活動について知り、T S C事業への参加やT S Cへの市民活動相談、または何らかの形で地域で行動を起こす市民（あるいは団体）を15名生み出す。
対象	・無関心層 ・潜在層 ・地域づくりに関心のある企業など
成果	・「tag」を通して地域で行動を起こす市民は、T S Cで把握した人数としては5名であった。今年度は成果目標を達成できなかったが、掲載団体や企業からは活動を知ってもらえる機会として良かったとのことのお話をいただいた。また、「tag」を活用しての相談対応や団体の紹介にも利用されることも数例あった。 ・「tag」に団体の記事を掲載してほしいとの申し出は一定数あり、活動のP R媒体のひとつとしても認知されつつある。 ・これまで市民活動や町内会に関する記事が多かったが、今年度は企業のC S Rや地域づくりをテーマにした中学校の授業についての記事を掲載することができ、地域づくりに多様なセクターが関わっていることを知ってもらえた。
次年度に向けた課題	・引き続き、市民活動・地域活動のみならず地域づくりに関わる多様なセクターの取り組みを紹介し、セクターを越えた連携のきっかけにする。 ・今年度から、読者の反応やニーズ、団体や地域の情報収集を目的にアンケート（Web 媒体・紙媒体）を実施したが、告知不足もあり情報収集や活用が思うようにできなかった。次年度は内容や方法を見直し、T S Cや団体に直接アクションを起こしていないサイレント層の意見も吸い上げ、誌面作成に活かす。

【事業概況】

●発行形態

- ・様式：A4×1枚 全2ページ 両面カラー
- ・発行頻度：月1回（平成29年4月～平成30年3月）
- ・発行部数：2,000部
- ・誌面デザイン、印刷は外注。

●内 容（各号の詳細は別項を参照）

- ・多賀城の人・できごと・ものなどの地域資源を紹介。
- ・地域づくりや課題解決に取り組む団体を紹介。
- ・市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介。
- ・市民活動にTSCスタッフが参加し、その体験を紹介。
- ・多賀城を中心とした地域のNPOによるイベント・講座を紹介。
- ・TSCのブログ記事を簡単に紹介。
- ・TSCのサービスやイベント・講座などを紹介。

●配架先（月別部数及び配架箇所数は別項を参照）

- ・多賀城市内及び周辺市町公共施設
- ・多賀城市内民間施設（病院、福祉施設等）
- ・多賀城市内民間店舗（スーパー、コンビニ、銀行、飲食店等）
- ・マスコミ
- ・多賀城市内外のイベント出展時に配布
- ・県内外NPO支援センター

●各号の掲載内容

号数／発行日	内 容（目次）
52 号／平成 29 年 4 月 15 日 	P 1 ○驚く！うなずく！ 町内会活動のヒントはあなたのそばに ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「伝わる」チラシをつくるには？ ・誰もが電話を使える社会に ・地域の名産で楽しくまちおこし活動を！ ○たがさぼからのお知らせ ・「たがさぼ」は地域活動の宝庫！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと～企業の CSR 活動を知る ・「感謝の気持ちで多賀城のために」 理研食品株式会社
53 号／5 月 15 日 	P 1 ○映像の力で多賀城をおもしろく発信 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・ママ達による手作りマップ「けせんぬま子育て MAP」 ・青い光で自閉症への理解を ・「県内で活動する団体を知りたい！」という方へ ○たがさぼからのお知らせ ・「たがさぼ文庫」のご案内 P 2 ○市民活動はじまりのはじまり ・地域 みんながパーソナリティ「丘の上 FM」
54 号／6 月 15 日 	P 1 ○パソコンで助太刀！ チラシづくりでコラボレーション ○ヒント from “たがさぼ Press” ・日本一楽しい「ゴミ拾い」とは？ ・LGBTQ の中高生が集まれる場所を ・改正「個人情報保護法」が施行されます！ ○たがさぼからのお知らせ ・TAGAJ0 Future Labo 受講生募集！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・多様な「性」に YES！～展示に込められた想い～
55 号／7 月 15 日 	P 1 ○イベント参加は活動 PR のチャンス！ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・参加者が特定できない活動に！ボランティア行事用保険 ・家族みんなで楽しく家事使用 ・障がいのある子どもも使いやすいおもちゃ ○たがさぼからのお知らせ ・出前します！「NPO の絵本展」 P 2 ○市民活動体験記 ・地域の中の大家族みたい！ 高崎こども食堂らっこ広場

号数／発行日	内 容（目次）
56 号／8 月 15 日 	P 1 ○中学生が考える「多賀城活性化プラン」 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・いろいろな視点でまちを発見！みやぎスリパチサロン ・大人に支えられる「こども食堂」 ・輪転機で写真入り原稿をうまく印刷するには？ ○たがさぼからのお知らせ ・情報発信連続講座「伝わる広報」 参加者募集 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと～企業の CSR 活動を知る ・地域に“より、そう”活動を 東北電力株式会社
57 号／9 月 15 日 	P 1 ○楽しく英語を学んで、はばたけ世界へ！ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・地域活動・NPO の「負担感」を減らすには？ ・子どもたちに笑顔を届ける「ヘッドネーション」 ・家でゲームもいいけど外遊びも楽しい！ ○たがさぼからのお知らせ ・「やってみようボランティア」私の身近でできること 参加者募集 P 2 ○市民活動はじまりのはじまり ・たがさぼフリースペースを活用しよう！
58 号／10 月 15 日 	P 1 ○地域と施設をつなぐ場～風の音サテライト史「地域交流スペース」 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・資金調達を学べる「ファンドレイジング・ラボ」 ・子ども達に安全で楽しいアフタースクールを！ ・地域で活躍する「人」に注目。地域の人材図鑑 ○たがさぼからのお知らせ ・たがじょうのミライのことをはなそう Vol.1 世代を超えて集う場を地域でつくるカギ 参加者募集 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・みちのくレンジャーズ！！ 2 市 3 町のヒーロー大集合！
59 号／11 月 15 日 	P 1 ○買う人も売る人も、もらう人も！ 「うれしい」がいっぱいのクリスマスプレゼント ○ヒント from “たがさぼ Press” ・今、あらためて見つめなおす「銭湯」の価値 ・印刷機に、手書きの味を！ ・科学って、そもそもなんだろう？ ○たがさぼからのお知らせ ・たがさぼのクリスマス雑貨市 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・めざせ！情報発信のレベルアップ！

号数／発行日	内 容（目次）
60 号／12 月 15 日 	P 1 ○祝 10 周年！ 多賀モリ体操で元気モリモリ！ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「そなえるカルタ」で防災意識向上 ・手話＋エンターテインメント＝みんなが楽しい場！ ・にゃんとすばらしき地域猫活動 ○たがさぼからのお知らせ ・TAGAJ0 Future Labo 2nd season マイアプローチ発表会 参加者募集！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・湧き出るアイディアに大人もビックリ！！ 中学生のまちづくりプロジェクト
61 号／平成 30 年 1 月 15 日 	P 1 ○引き継ぎに 振り返りに使える「虎の巻」！ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・2040 年の未来を予測「未来カルテ」 ・自販機が市民活動の情報発信に！？ ・多賀城双子サークル みらくる☆キッズ ○たがさぼからのお知らせ ・たがじょうのミライのことをはなそう - Vol. 2 多賀城をもっとおもしろくするカギ 参加者募集 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと～企業の CSR 活動を知る ・子どもたちに、科学を楽しむ場を！ 多賀城工場地帯連絡協議会
62 号／2 月 15 日 	P 1 ○想いを言葉に！ そこから広がる想いの連鎖 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・自分にあったボランティアを見つけよう！ ・「関係人口」って知っていますか？ ・ChangeRecipe（チェンジレシピ）とは ○たがさぼからのお知らせ ・「NP0 きっかけ塾」 - 脱！仕事人間！あなたの「好き」を「やりがい」に！ 参加者募集中 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・「お宝」ザクザク！ 暮らしの中の支え合いを見つけよう！
63 号／3 月 15 日 	P 1 ○ゆめに向かってがんばる 子どもたちを応援！「ゆめ大会」 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・アートを通じての社会貢献 ・寄付サイト『Give One』の紹介 ・スポーツ弱者を、世界からなくす ○たがさぼからのお知らせ ・たがさぼ、出張します！NPO の絵本展 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・「ハッピーピース」だからできること

●配架部数 ※年度始・年度末・配架個所数に増減があった場合のみ配架所数を記載（下段）

号数	館内	公共 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	民間施 設店舗	その他	配架部数 合計	発行 部数
52 号（4 月号）	200	588 61	192 53	40 21	120 19	90 6	297 34	131 17	1,658 211	2,000
53 号（5 月号）	200	588	192	40	120	90	297	131	1,658	2,000
54 号（6 月号）	200	588	192	40	120	90	289 33	131	1,650 210	2,000
55 号（7 月号）	200	588	191 52	40	120	90	289	131	1,649 209	2,000
56 号（8 月号）	200	588	191	40	120	90	289	131	1,649	2,000
57 号（9 月号）	200	588	191	40	120	90	289	131	1,649	2,000
58 号（10 月号）	200	588	191	40	120	90	289	131	1,649	2,000
59 号（11 月号）	200	588	191	40	120	90	289	131	1,649	2,000
60 号（12 月号）	200	588	191	40	120	90	289	131	1,649	2,000
61 号（1 月号）	200	588	191	40	120	90	289	131	1,649	2,000
62 号（2 月号）	200	588	191	40	120	85	289	131	1,644	2,000
63 号（3 月号）	200	588 61	191 52	40 21	120 19	85 6	289 33	131 17	1,644 209	2,000
配架部数計	2,400	7,056	2,295	480	1,440	1,070	3,484	1,572	19,797	24,000
前年度 3 月号 配架部数 配架個所数	200	588 61	192 53	40 21	85 15	90 6	297 34	131 17	1,623 207	2,000
前年度 3 月比 配架部数 配架個所数		±0 ±0	-1 -1	±0 ±0	+35 +4	-5 ±0	-8 -1	±0 ±0	+21 +2	

* 添付資料 「tag」 52 号～63 号

②市民の発信力強化

目的	・地域で活動する団体や個人が、ビジョン・ミッションや強みを整理し可視化・価値化を図り、共感や魅力を感じてもらえる力や効果的に情報発信できる力を身につけること。 ・地域で活動する団体や個人が、自分たちが発信したい情報や対象に合った発信方法を選ぶことができるようになること。
背景	・日常の相談の中で、情報発信に関する悩みが多く T S C へ寄せられる。市民活動の情報発信には、活動への共感が重要である。スキルアップはもちろんだが、その前提の「何を発信するか」を明確にするため、本事業では団体のビジョン・ミッションや強みを整理して可視化・価値化を図る。 ・また、紙媒体・インターネット媒体などさまざまな発信方法がある中で、共通して大事な点やそれぞれの特性を知ること、発信したい内容や対象に応じた活用ができるような講座を実施する。
成果目標	受講者の 3 割が、講座で得た知識や技術を活用し、何らかの方法で工夫して団体や地域のことを発信する。(講座後のヒアリングより)
対象	・情報発信に関して課題意識を持っている活動者 ・地域の課題や魅力を発信したいと考えている活動者や個人
成果	●参加団体・個人が自分の活動について整理する機会となった ・情報発信の前提として、講座の中で自身の活動（ミッションや強みなど）について相手に伝わるよう簡潔に整理する力を養うことができた。 ●受講者の 5 割が講座で得た知識や技術を、活動に活かすことができた ・講座後のヒアリングでは、受講者の 5 割が、講座で得た知識や技術を活動に活かしていた。例えば、チラシ作成で文字のフォントやレイアウトを意識した方、HP 作成で相手が知りたい情報を分かりやすく文章に起こすことに意識したという方がいた。情報の受け手からの反応で目立ったものはないが「継続して発信することで、情報を目にする人が増えた」ということ感想が挙がった。 ・講座は学んだ知識を即実践で試すことができる内容だった。そのため、講座後も実際の活動にすぐに活かすことができたと考えられる。 ●ニーズに沿った講座となった ・「情報発信」や「広報」に対して課題意識がある団体を想定した講座であり、実際に想定した団体の受講が多かった。また、受講者の満足度が高く、ニーズに合った講座内容だったと考えられる。今回の講座を受け、さらにレベルアップした内容の講座を望む声もあり、検討が必要。
次年度に向けた課題	・受講者からは、今回の講座内容をさらにレベルアップしたのを受けたいという声が多く聞こえた。今後はこうした意見の検討に加え、既活動者だけでなく、新たに情報発信を担う人材を発掘して養成するなど、さまざまな切り口から「情報発信」を強化していく必要がある。

【事業概況】

●「伝わる広報」／①心に残る文章を考える 日 時：平成 29 年 9 月 29 日(金) 18:30～21:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室 内 容：座 学／広報に役立つ！文章術 ワーク／団体・活動紹介文を作ってみよう！ 講 師：大泉 浩一 氏（一般社団法人メディアデザイン代表／ライター、編集者） 参加人数：15 名	
●「伝わる広報」／②たくさんのチラシの中からあなたのチラシを見つけてもらう方法 日 時：平成 29 年 10 月 6 日(金) 18:30～21:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301・302 会議室 内 容：座 学／チラシデザインの考え方 ワーク／チラシを作ってみよう！ 講 師：菅原 孝行 氏（checkmate design 代表／グラフィックデザイナー） 参加人数：16 名	
●「伝わる広報」／③みんなはどうしてる？SNS 活用方法シェア会 日 時：平成 29 年 10 月 13 日(金) 18:30～20:30 会 場：多賀城市役所 大会議室 内 容：座 学／ゲスト直伝！SNS 活用術 ワーク／活用術をシェアしよう！ ゲスト：大津 知士 氏（stos design 株式会社代表／tohoku365 クリエイティブディレクター） 小泉 勝志郎 氏（株式会社テセラクト代表取締役社長／一般社団法人 CODE for JAPAN 理事） 参加人数：12 名（うち 2 名早退）	

アンケート集計結果

参加者分析 全 3 回実施（参加者総数：23 人）※3 回連続講座・各回単独の受講も可 ○参加動機（複数回答可）					
広報で悩んでいた	スキルアップ	講師・ゲストの話に関心があった	すすめられて	広報の仕方を知りたかった	その他
12	16	4	2	9	1
その他の回答：キャッチコピーにつられて					

●「伝わる広報」／①心に残る文章を考える （参加者 15 名）

①満足度：平均 5.0（5 段階評価）

②意見・感想

- ・「自分が語りたい」色が濃い文章アプローチしかしていないと知ることができた。
- ・集中して考えて書くことがほとんどなかったので、自分の活動の目的を再度確認する機会となった。
- ・文章にしたら、自分の活動のできている部分とできていない部分がわかった。

●「伝わる広報」／②たくさんのチラシの中からあなたのチラシを見つけてもらう方法 （参加者 16 名）

①満足度：平均 4.8（5 段階評価）

②意見・感想

- ・今まで感覚的に行っていたことの理由を知ることができた。
- ・現在使っているチラシも見てアドバイスをもらえてよかった。

●「伝わる広報」／③みんなはどうしてる？SNS 活用方法シェア会 （参加者 12 名、アンケート回収 10 名）

①満足度：平均 4.4（5 段階評価）

②意見・感想

- ・SNS についてどんな風に運用していくか方針が見えてきた。
- ・自分の団体の現状を考えたら、がんばりすぎていると感じ、質問ができなかった。

* 添付資料 チラシ、各回当日配布資料

Ⅱ

平成 30 年度事業計画

1 平成 29～31 年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ修正版

平成 28 年度の取り組みを踏まえ、平成 31 年度末にめざす姿へのステップを、平成 30・31 年度の具体的な取り組みとして加えた。また、市職員研修事業を平成 30・31 年度に追加した。

	現状と課題	平成 29 年度(2017)	平成 30 年度(2018)	平成 31 年度(2019)	3 年後の姿
重点的な 取り組み①	・下記事業を実施していく にあたり、企業、高校・大 学と連携できる下地づく りが必要。	●企業との関係構築 ○地元企業の CSR 調査 ●高校・大学との関係構築 ○学生向けNPOきっかけ塾の実施 ○相談対応	○多様な主体で課題に向かう場づくり ○出前いちから塾 ○相談対応 ○学生向けNPOきっかけ塾の実施 ○相談対応	→	・企業、高校・大学が地域づくり の主体として活躍している。
重点的な 取り組み② 開館 10 周年 記念事業	・多賀城のまちについて 集まって話したり考えたり する場が少ない。	○プレイベントの実施 ・Vol.1「世代を超えて集う場」 Vol.2 「まちをもっとおもしろくするカギ」 →キーワードの収集	・ Vol.3 「だれもが暮らしやすい社会を考える」 ○記念イベントの実施 ○イベントの内容を元に 10 周年記念誌を発行 →この 10 年をふりかえるとともに、こ れからの地域づくりのヒントになる ものを発信する。	→	・多賀城のまちについてさまざ まな主体による対話の機会が 増えている。
課題解決に向けた 取り組み	・課題解決のためにはさ まざまな主体が力を発揮 する必要がある。(協働 から総働へ)	●課題の把握 ○地元企業のCSR調査 ○自治会・町内会の課題・取り組み事 例調査	●多様な主体で課題に向かう場づくり ○NPOや企業の取り組み発表会 ○特定のテーマに関心のある方 の集まり ○設定した課題を深く考える会 ※自治会・町内会運営支援 解決に向けたアプローチと今後の 支援の方向性の検討	●小さなチャレンジを生み出す。 ●課題解決のモデルとして発信。 ○フォーラム ○冊子化	・TSC に課題が持ち込まれ、 TSC がコーディネート役とな り、さまざまな主体が連携して 解決していく道筋ができる。
地域づくりに 関わる 人材の育成	・少子高齢化が進む中 で、地域づくりの担い手 育成が必要である。 ・既活動者が活動を継続 していくために段階に応 じた支援が必要である。	●地域づくりの新たな担い手育成 ○雑貨市 ○NPOきっかけ塾 ・NPOいちから塾 ・対象者別(学生、シニア、現役層) ・出前いちから塾 ○TAGAJO Future Labo ●既活動者の育成 ○伴走型相談対応をベースとする。	○雑貨市 ○NPOきっかけ塾 ・NPOいちから塾 ・対象者別(学生等) ・出前いちから塾(企業向け) ○TAGAJO Future Labo ○相談対応	○雑貨市 ○NPOきっかけ塾 ○TAGAJO Future Labo →	・市民活動・地域活動への多 様な関わり方をしている人が 増えている。 ・市民による課題解決の取り組 みが増えている。
情報発信強化	・上記の事業の成果を地 域に広めていくためには 情報発信強化は欠かす ことができない。	●地域づくり活動の発信強化 ○「tag」の発行 ○ウェブサイトリニューアル ●市民の発信力強化 ○伝わる広報講座 (文章術、チラシデザイン、SNS) →既存団体がノウハウを得て発信 力強化	○「tag」の発行 誌面のリニューアル ※SNS上で市民の地域情報発信を 促進 →発信する市民を増やす、情報を拡 散する	○「tag」の発行 →	・地域づくりに関する情報によ りアクセスしやすくなっている。 ・市民による情報発信がより活 発になっている。
市職員研修事業			○市職員研修	○市職員研修	

2 多賀城市市民活動サポートセンター平成30年度事業計画

見直しを行ったロードマップに基づき、平成30年度の事業計画を立案した。

大事業	大事業 目的	当年度の到達指標	小事業	主な目的	概要	主な対象	本数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開館10周年記念事業	この10年を振り返るとともにさまざまな主体による対話の場を通してこれからの地域づくりにつなぐ。	地域づくりにつながる自発的な対話の機会が生まれている。(指標: 10件)	1 開館10周年記念事業	さまざまな主体でこれからの地域づくりに対話する機会を設け、これからの地域づくりにつなげていく。	●ブレイVENTVol.3 ー記念イベントに向け、未来の多賀城の地域づくりにつながるキーワードの収集のためにH29年度Vol.1、2に続けて実施。 テーマ「だれもが暮らしやすい社会を考える」 ●記念イベント(他事業と連動して実施) ーブレイVENTや他事業からあがったキーワードについて、これからの多賀城の地域づくりを考える機会を設ける。 ●10周年記念誌発行 ー開館から10年の多賀城の市民活動の状況やTSCの取り組みをふりかえるとともに、今後のヒントが得られるもの。	無関心層 潜在的活動者 既活動者	3		●		●								●
課題解決に向けた連携モデルづくり	地域内の多様な資源をつなぎ直し、包括的な課題の設定・解決のネットワークを構築する。	多様な主体が連携して課題に向かい、活動するための下地ができている。	2 多様な主体で課題に向かう場づくり	多様な主体が多賀城の地域課題について考えるための場を創出する。	H29年度の調査によって明らかになった課題や資源を元に、共通の想いやテーマ、課題意識を軸に多様な主体が集まる場を設ける。 3つの場の形態を想定。 ●NPOや企業の取り組み発表会 ーマッチングの機会創出、連携事例ゲストを招く ●特定のテーマに関心ある方の集まり ーテーマ「子ども」等 ●設定した課題を深く考える会 ー困っていること、高めたいことを設定し、具体的な取り組みにつながる場とする。	企業 NPO 行政 自治会・町内会	3												
			※ 自治会・町内会運営支援	町内会の運営課題について、解決に向けたアプローチと、今後の支援の方向性を検討する。	●H29年度実施アンケートの更なる分析 ●地域コミュニティ課との情報共有	自治会・町内会	随時												
人材育成	新たな人材の発掘・地域づくりの担い手育成	市民活動・NPOと関わったことのある市民が増えている。 課題解決を担う人材が生まれている。	3 雑貨市	雑貨市に参加することで、活動を知る、貢献型の行動をとる、地域の課題に気づく。	市民活動・地域づくりを実践している団体などによる物販や体験ワークショップ等多様なプログラムを実施。 出張雑貨市、トークイベント、他事業との連携も視野に入れる。	無関心層	2				●					●			
			4 きっかけ塾	将来の地域づくりの担い手育成	市民活動の意義や特徴、始め方などまちの関わり方を示す。 ●基本いちから塾 ●学生向けきっかけ塾(継続) ●その他テーマを絞ったもの1回。 ●出前いちから塾 ー企業対象に実施し、課題解決に向けた連携モデルづくり事業との連携を目指す。	NPO 潜在的活動者 無関心層	3			●		●		●					
			5 TAGAJ Future Labo	課題解決型人材育成	自分の想いの棚卸、実践者の話を聞く、想いを持ったもの同士の対話を通して、想いをかたちにする。	潜在的活動者 既活動者	6			●	●	●	●	●	●				
情報発信強化	ローカルグッドの発信	市民がNPOやTSCの情報収集できる先が場が増えている。	6 月刊フリーペーパー「tag」発行	地域の取り組みを発信・蓄積し、新たな人材の発掘や連携先の開拓をめざす。	A4・月1回 2,000部 市民活動、自治会・町内会の取り組み、企業の社会貢献、主体間士の連携事例、地域づくりに関するノウハウ等についての情報を発信する。	潜在的活動者 既活動者	12	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	市民の発信力強化	市民が情報発信の担い手として活躍している。	※ 市民の発信力強化	市民が地域の課題や魅力を見つけ、発信する力をつける。	市民が地域の課題や魅力に気づき、SNSを使ってその課題や魅力を発信することができるよう、各事業・相談対応を通して支援を行う。	地域の魅力を発信したい人 地域の中で何か課題に感じていることがある人 (NPOも含む)	随時												
市職員研修			7 市職員研修	市民協働の必要性の理解を深め、市民協働の基盤をつくる。	※地域コミュニティ課と協議の上決定する。 市民活動、市民協働に関する講義、市民活動の現場にふれる機会の提供、実践に向けたワークショップの実施を想定。	市職員	1												